DiMAGE A2

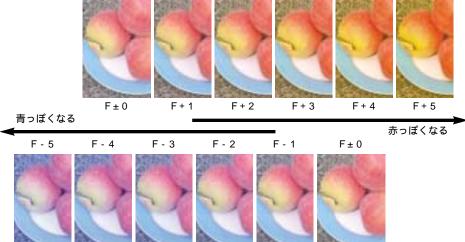
J 使用説明書

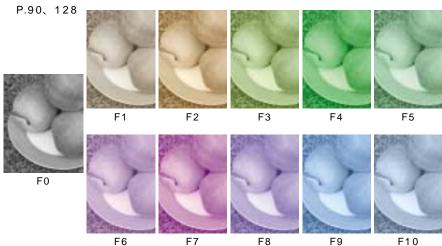
お買い上げありがとうございます。
この製品は、高画素CCDに7倍ズームを搭載した、レンズ一体型一眼レフタイプのデジタルカメラです。コニカミノルタ独自の画像処理エンジン "SUPHEED（サフィード）"と、画像処理技術 "CxProcess II" を搭載し、風景から人物、遠くの被写体まであらゆる撮影領域に対応するとともに、手ぶれ補正機能、デジタルエフェクトコントロール、高速オートフォーカスなど多彩な機能を搭載し、画質や機能にこだわる方にも満足して撮影・再生・画像処理等お楽しみいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

フィルター効果とカラーモード

フィルター効果

画面に赤や青の色のフィルターをかけたような効果を出します。→P.90

モノクロでのフィルター効果

モノクロ画像の色調が調整され、セピア色の画像などを得ることができます。
→P.90、128

ビビッド

標準（ナチュラル）より色が鮮やかに再現されます。→P.126

ソラリゼーション

明るい部分の色が補色（反対の色彩）に反転されます。→P.128

ビビッド（sRGB）

ナチュラル（sRGB）

ソラリゼーション

目次

正しく安全にお使いいただくために 8
はじめに 14
　内容物の確認 15
　ストラップを取り付ける 15

各部の名称 16

早分かり 22
ある程度デジタルカメラの知識をお持ちの方が、すぐに撮影を始められる時に便利です。

基本撮影 24
撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

レンズキャップを取り外す 24
電池を入れる 25
カードを入れる／取り出す 29
電源（メインスイッチ）を入れる 31
カメラを構える 32
撮影できる画像数 34
PモードとAUTO（オート）撮影について .. 35
撮影する 36
ピント合わせ 38
　フォーカス表示 38
　被写体が［ ］に入らないときは 39
　オートフォーカスの苦手な被写体 40
フラッシュ撮影 40
　フラッシュ表示 41
　フラッシュ光の届く距離 41
撮影した画像を確認する／消去する 42
　画像を確認する（クイックビュー） 42
　画像を手早く消去する 43

撮影モード 44
露出モードやドライブモードの変更、露出・コントラスト補正など、さまざまな撮影方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

画面表示の切り替え 45
シーンセレクター 48
　ポートレート 48
　スポーツ／夕景 49
　夜景ポートレート・夜景 49
マクロ撮影 50
露出補正 52
調光補正 54
デジタルズーム 55
手ぶれ補正 56
露出モード 57
　Pモード（プログラムモード） 57
　　プログラムシフト 58
　Aモード（絞り優先モード） 59
　Sモード（シャッター速度優先モード）... 60
　Mモード（マニュアルモード） 62
　　マニュアルシフト 63

撮影モード（続き）

ファンクション設定 64
ドライブモード 66
ブラケット（ずらし）撮影 67
連続撮影 70
インターバル撮影 73
セルフタイマー撮影................................ 76
ホワイトバランス 78
撮像感度.. 82
測光モード 83
登録 85
デジタルエフェクトコントロール.................. 88
コントラスト補正 89
彩度補正... 90
フィルター効果 90
画面内の任意の位置にピントを合わせる
（フレックスフォーカスポイント）..... 91
フォーカスモード 92
液晶モニターとファインダー（EVF）............. 95
露出を固定する（AEロック撮影）.................. 96
バルブ（長時間露光）撮影 97
レンズフード.. 98
視度調整.. 99
シンクロターミナル 99
撮影モードメニュー 100
画像サイズ 102
画質.. 104
ファイルサイズと撮影画像数 106
フラッシュモード 108
調光モード 114
AEロックボタンの機能と操作 116
撮影モードリセット.................................. 117
ブラケットのずらし段数と枚数の変更. 118
写し込み.. 119
アフタービュー 123
ボイスメモ 124
カラーモード 126
シャープネス 129
ノイズリダクション.................................. 130
モニター自動感度アップ 130
Mモード時のモニター 131
拡大ボタンの機能 132
シーンセレクターの設定
（登録のダイヤル操作）.................. 134
コンティニュアスAF時の自動追尾AF..... 135
シャッターボタン半押しによるAEロック .. 135
スポット測光エリアの位置 136
ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF).. 137
EVFモード.. 138

再生モード 139

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

1コマ再生 140
音声（ボイスメモ）付き画像の再生... 140
画面表示の切り替え 141
インデックス再生／ヒストグラム表示... 142
拡大再生 143
画像を手早く消去する 144
画像をテレビで見る 145
再生モードメニュー 146
画像の消去 148
CFカードのフォーマット（初期化）.. 150
再生フォルダの選択 151
プロテクト（誤消去防止） 152
画像のコピー 154
インデックス画面の切り替え 156
スライドショー（画像の自動再生）... 157
DPOF（プリント）指定 159

動画撮影モード 164

動画の撮影方法と再生について説明しています。必要に応じてお読みください。

動画撮影 165
動画再生 167
画像サイズ（動画） 168
フレームレート 168
ナイトムービー 169
動画モードリセット 170

セットアップモード 171

カメラの細かい設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

セットアップモードメニュー 172
液晶モニターとファインダーの明るさ調整.. 175
ショートカット一覧 176
USB接続の種類 177
EVFオート設定の機能変更 178
ビデオ出力形式の切り替え 179
言語設定 180
ファンクションダイヤルの
CUST位置の機能 180
プレビュー（絞り込み） 181
ファイルとフォルダ 182
フォルダ構成 182
フォルダ名とファイル名 183
フォルダ選択 184
新規フォルダの作成 184
フォルダを日付別に分ける 186
ファイルNo.メモリー 188
日時設定 189
設定値リセット 190
操作音と音量の設定 192
パワーセーブまでの時間変更 193
手ぶれ補正機能の作動設定 193
フルタイムAF 194
グリップセンサーの検知 194

セットアップモード（続き）

P／A／Sモード時のダイヤル 195
Mモード時のダイヤル 196
プログラムドマニュアル........ 196
消去確認画面........ 197
PictBridge対応プリンタでの印刷 198

パソコンへの接続 207

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

USB接続の動作環境........ 208
パソコンへ接続する（USB接続）........ 209
パソコンに画像ファイルを
コピー・保存する 210
接続を解除する........ 216
パソコンで画像ファイルを開ける........ 218
ドライバのインストール
（Windows 98/98SEのみ）...... 220
USB接続ができないときは........ 223
QuickTimeのインストールと使い方 226
画像送信 228
Photoshop Album Mini........ 246

その他 247

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

リセット・登録一覧表 248
別売りアクセサリー 252
取り扱い上の注意........ 256
手入れと保管のしかた 259
主な性能 260
索引 264

よくあるお問い合わせ .... 裏表紙

よくあるお問い合わせについてのQ&Aをまとめました。修理依頼先や各種お問い合わせ先についてもこちらをご覧ください。上下が逆になっています。

目次（よくあるお問い合わせ一覧）........ F2
よくあるお問い合わせ........ F4
パソコン操作関連項目........ F4
製品仕様関連項目........ F7
プリント関連項目........ F12
アクセサリー関連項目........ F14
海外で使用される場合........ F18
ダウンロードのご案内........ F20
故障かな？と思ったら........ F21
修理に出す前のチェック........ F21
お問い合わせ先 F27

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

 危険　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 警告　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意　この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

リチウムイオン電池 NP-400 について

危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のACコードは、100～120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダで使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。弊社フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

カメラ・充電器・電池について（続き）

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。

使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。

本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

⚠ 注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

レンズフードの先端を身体等に強くぶつけないでください。
ケガの原因となります。

充電器やＡＣアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やＡＣアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やＡＣアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページで、お早めにユーザー登録（オンライン登録）を行なってください。

このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

KONICA MINOLTAは、コニカミノルタホールディングス株式会社の商標です。DiMAGE、SUPHEEDおよびCxProcessは、コニカミノルタカメラ株式会社の登録商標または商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Apple、Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
IntelおよびPentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。
コンパクトフラッシュは、米国SanDisk社の商標です。
IBM、PowerPCおよびMICRODRIVEは、米国International Business Machines Corporationの登録商標または商標です。
AdobeおよびPhotoshop Albumは、米国Adobe Systems Inc.の登録商標または商標です。
Video Studioは、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。

その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

内容物の確認

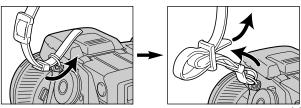
お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（DiMAGE A2）
レンズキャップ LF-1349、アクセサリーシューキャップ SC-10付き
ネックストラップ NS-DG4000
リチウムイオン電池 NP-400
リチウムイオン電池充電器 BC-400
レンズフード DLS-2
AVケーブル AVC-400
USBケーブル USB-500
フェライトコア FRC-100

ディマージュビューアーCD-ROM
・DiMAGE Viewer
・通信設定ウィザード
・Windows98/98SE用USBドライバ
・QuickTime Player
ユーリードビデオスタジオCD-ROM
本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
コニカミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

●本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

ストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ側面

スピーカー
ストラップ取り付け部（15）
マクロ切り替えレバー（51）
ファンクションボタン（64）
視度調整ダイヤル（99）
ファンクションダイヤル（64）
MSET 登録設定（新規）（86）
CUST カスタムポジション（180）
測光モード（83）
DRIVE ドライブモード（66）
WB ホワイトバランス（78）
ISO 撮像感度（82）
シンクロターミナル（99）
デジタルエフェクトボタン（88）
デジタルエフェクトレバー（88）
FIL フィルター効果（90）
COL 彩度（90）
コントラスト（89）
電池室ロックレバー（26、27）
三脚ねじ穴
カスタムホワイトバランスボタン（80）
フォーカスモードレバー（92）
AF-S ワンショットAF（92）
AF-C コンティニュアスAF（93）
MF マニュアルフォーカス（94）
KONICA MINOLTA
DiMAGE A2
MACRO
100
200
DRIVE
CUST
MSET
ISO
EFFECT
FIL
COL
AF S C
MF

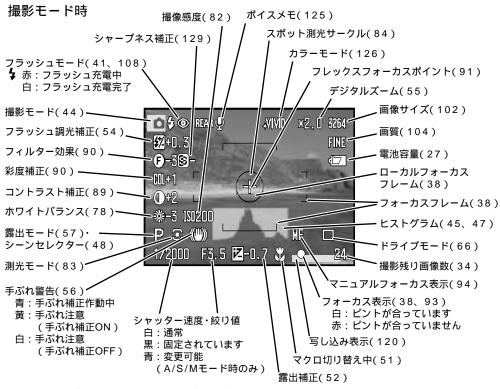
ボディ背面

撮影モードダイヤル
露出モード（57）
オート
（35）
登録呼び出し
（87）
シーンセレクター
（48）
モード切り替えレバー
撮影モード（44）
再生モード（139）
動画撮影モード（164）
拡大ボタン
（55、143）
表示切り替えボタン（45、141）
メインスイッチ（31）
オートロックアクセサリーシュー（253）
アイセンサー（179）
電子ビューファインダー
（EVF）（20）
露出補正ボタン
（52、54）
液晶モニター（20）
後ダイヤル
AEロックボタン
（96）
十字キー
実行ボタン
アクセスランプ（30）
手ぶれ補正ボタン
（56）
メニューボタン
ディスプレイ切り替えレバー（95）
EVF ファインダー
オート
液晶モニター
クイックビュー／
消去ボタン（42）
端子カバー
DC電源入力端子（カバー内左側、252）
リモートレリーズターミナル（カバー内右側、255）
AUTO
MR
AEL
EVF
QV
MENU
DC INPUT
REMOTE
CARD

上面データパネル

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

電子ビューファインダー（EVF）・液晶モニター

電子ビューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

撮影モード時

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

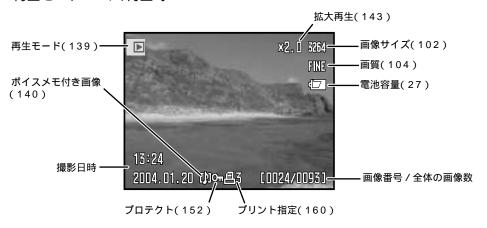
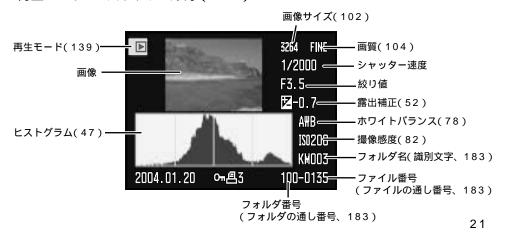
再生モード・1コマ再生時

拡大再生（143）
再生モード（139）
画像サイズ（102）
画質（104）
ボイスメモ付き画像（140）
電池容量（27）
撮影日時
画像番号／全体の画像数
プロテクト（152）
プリント指定（160）

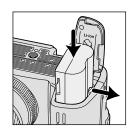
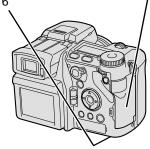
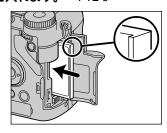
x2.0 3264
FINE
13:24
2004.01.20
[0024/0093]

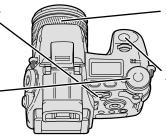
再生モード・ヒストグラム表示（142）

画像サイズ（102）
再生モード（139）
画質（104）
画像
シャッター速度
絞り値
露出補正（52）
ホワイトバランス（78）
ヒストグラム（47）
撮像感度（82）
フォルダ名（識別文字、183）
ファイル番号（ファイルの通し番号、183）
フォルダ番号（フォルダの通し番号、183）

3264 FINE
1/2000
F3.5
-0.7
AWB
ISO200
KM003
2004.01.20
100-0135

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を充電します。→P.25
2. 電池を入れます。→P.26
3. コンパクトフラッシュカードを入れます。→P.29

撮影する

1. メインスイッチを入れ、モード切り替えレバーを📷に合わせます。→P.31
2. 撮影モードダイヤルが、PまたはAUTO位置にあるのを確認します。→P.35
3. ズームリングを回して撮りたいものの大きさを決めます。→P.36
4. シャッターボタンを押します。→P.37

撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.42

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。
3. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する →P.43

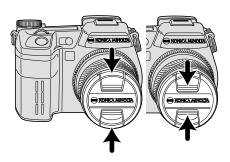
1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。
4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。

● 「いいえ」のままで実行ボタンを押すと消去されません。

5. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

レンズキャップを取り外す

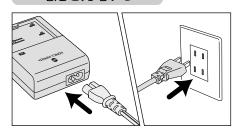
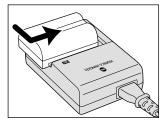
レンズキャップを取り外します。左図の2通りの取り付け・取り外し方が可能です。

- 右側の方法は、フードを取り付けたままレンズキャップの取り付け・取り外しを行なう際に便利です。
- 撮影後は、レンズキャップをはめて保管してください。

電池を入れる

このカメラには、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-400）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 充電器に付属のコードは日本国内用です。海外でのご使用については →P.254

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約150分です。

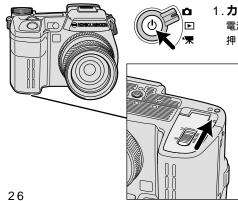
3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

次ページへ続く

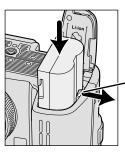
- 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。
リサイクル協力店お問い合わせ先
社団法人 電池工業会
TEL：03-3434-0261
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.baj.or.jp/

電池を入れる

1. カメラの電源が切れているのを確認します。

- 電源が入っている場合は、メインスイッチを少し長めに押して電源を切ってください。

2. 電池室ロックレバーを図の方向に押します。

- ふたのロックが外れるので、ふたを開けます。

3.電池ロックレバーを図の方向に押しながら、電池室ふた内側の表示にしたがって電池を入れます。

● カチッと音がするまで押し込んでください。

電池ロックレバー

4.ふたを閉めて押さえながら、電池室ロックレバーを元の位置に戻します。

電池容量の確認

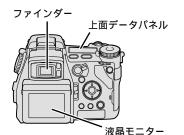
メインスイッチを入れると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニターに表示されます。

／（白）点灯　電池容量は十分です。
（液晶モニターでは4秒後に消えます。）

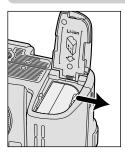
／（赤）点灯　電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

のみ点滅（上面データパネルのみ）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターや外部電源パックをおすすめします。→P.252

パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

このカメラは、約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダー（EVF）が消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタンを半押しするかメインスイッチを押せば、撮影が再開できます。

● 30分以上何も操作をしないでいると、完全に電源が切れます。
● パワーセーブまでの時間（初期設定は3分）を変更することができます。→P.193

電池を取り出す

1. カメラの電源が切れているのを確認します。

2. 電池室ロックレバーを押してふたを開けます。

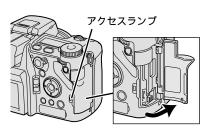
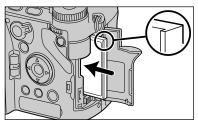
3. 電池ロックレバーを図の方向に押して、電池を取り出します。

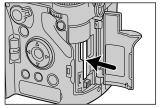
電池の追加購入

このカメラの専用電池（リチウムイオン電池NP-400）を追加で購入される場合は、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービス窓口、コニカミノルタネットショップ（弊社ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/ よりアクセス可能）、お買い求めの販売店のいずれかでご購入ください。

カードを入れる／取り出す

カードを入れる

画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

1.メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2.CFカードの細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

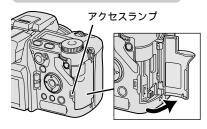
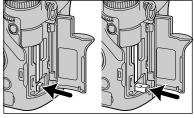
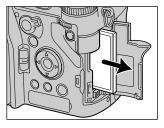
- 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3.カードを奥までしっかり押し込みます。

4.ふたを閉めます。

- CFカードの代わりにマイクロドライブや、SDメモリーカード＋SD-CFアダプターの使用も可能です。

※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません」等のメッセージが現れる場合は

→裏表紙「よくあるお問い合わせ」のF26ページへ

カードを取り出す

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

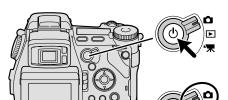
アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを中に押し込みます。
- レバーが出てきます。

3. 再度カード取り出しレバーを押し込みます。
- カードが出てきます。

4. カードを取り出し、ふたを閉めます。
- レバーが出ていてきっちり閉まらない場合は、レバーを押し込んでからふたを閉めてください。
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

電源（メインスイッチ）を入れる

電源を入れて、カメラを撮影モードにします。

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えレバーを 📷 に合わせます。

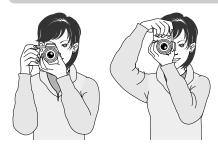
● 撮影モードになります。

● 電源を切るときは、メインスイッチを少し長めに押してください。

カメラを構える

撮影される画像は、カメラ背面の電子ビューファインダー（EVF、以下ファインダー）または液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定では、ファインダーをのぞけばファインダーが点灯して液晶モニターは消灯し、ファインダーから目を離せば逆に液晶モニターが点灯します。※設定を変えるには →P.95

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

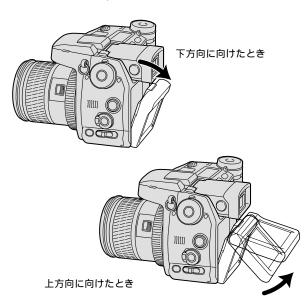
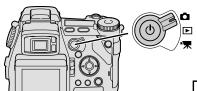
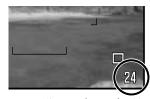
ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

ファインダーは、上方向0 °～90 °の間で自由に角度を調整することができます。低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

液晶モニターを見て撮影する

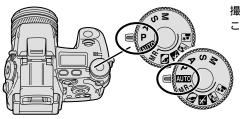
基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

液晶モニターは、下方向20 °〜上方向90 °の間で自由に角度を調整することができます。高い位置や低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

撮影できる画像数

CFカードを入れ、電源を入れてモード切り替えレバーを 📷 に合わせると、上面データパネルと液晶モニターに、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として128MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約30枚です（画像サイズ3264×2448、画質ファイン）。

● 画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.106

● 000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。
● 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。
● 液晶モニターの残り画像数が黄色になったときは、カメラの内蔵メモリが一時的にいっぱいになったことを表します。白色に変わるのを待ってから撮影を続けてください。

Pモード撮影とAUTO（オート）撮影について

撮影モードダイヤルで、基本的な撮影モードを選ぶことができます。カメラを基本の状態で使いたい場合、P位置またはAUTO位置をおすすめします。

P（プログラム）モード撮影

このカメラの最も基本的なモードです。カメラの各種設定が可能で、一度行なった設定は原則として再度変更するまで保持されます。Pモードでは、シャッター速度と絞り値が自動で設定されます。
→P.57

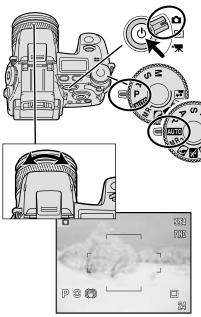
AUTO（オート）撮影モード

カメラのほとんどすべての機能が、一時的に自動設定になります。新たな設定を加えることは可能ですが、一度他のモードに変えると、新たに加えた設定は解除されます（メインスイッチ切／入では保持）。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。

● AUTO撮影モードでは、メニューを含めほとんどすべての機能が自動で設定されます。自動設定にならない機能は、レバーの位置で決められてしまうものなど以下の通りです。　※一覧表は →P.248

- マクロ撮影
- フォーカスモード（AF-S、AF-C、MF）
- モニターとファインダー（EVF）に関する設定（切り替え、明るさ）
- 視度調整
- ワイヤレスチャンネル
- 音の設定（操作音、AF音、シャッター音、音量）

撮影する

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

2.モード切り替えレバーを 📷 に合わせます。

●撮影モードになります。

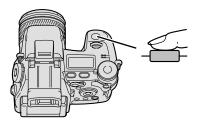
3.撮影モードダイヤルをPまたはAUTOに合わせます。

※PとAUTOについて →P.35

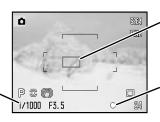
4.液晶モニターまたはファインダーをのぞき、ズームリングを回して構図を決めます。

● 〔 〕の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.38

●フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.40

●ズームリング上の焦点距離は、35mmフィルム換算時に相当する値です。※換算表は →P.247

5.シャッターボタンを半押しします。

●シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

●半押しすると、液晶モニター／ファインダー内に、さまざまな表示が現れます。

ピント合わせに使われたセンサー
（一瞬赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。）

シャッター速度・絞り値

フォーカス表示
（ピントの状態をお知らせします。→P.38）

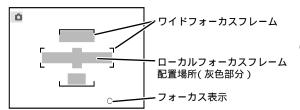
5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にCFカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

●カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.50
●画面の表示の有無を切り替えることもできます。→P.45

液晶モニター／ファインダー内に、黄色または白色の（手ぶれマーク）が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。フラッシュ撮影（P.40）または三脚の使用をおすすめします。　※手ぶれ補正について →P.56

●撮影後は、メインスイッチを少し長めに押して電源を切ってください。
●レンズキャップをはめて保管してください。

ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が11個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、液晶モニターまたはファインダー内のフォーカス表示○がピントの状態をお知らせします。

フォーカス表示	状況
○ 白色	ピントが合って固定されています。撮影できます。
● 赤色	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 撮りたいものに近づき過ぎていませんか？ カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くの物を撮影するときは、マクロ撮影を行なってください。→P.50 被写体が［　］から外れていませんか？ ［　］から外れたりするとピントが合いません。 被写体が動いていませんか？ 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→P.92 オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？ オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（P.94）を行なってください。

● ● が赤色の時に撮影すると、フラッシュが発光しない場合は4m～無限位置に、発光する場合は3.0～3.8mの間にピントが合います。

被写体が〔 〕に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが〔 〕に入らないときに、そのまま撮影すると、〔 〕と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに〔 〕を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● 画面右下に白い ○ が点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

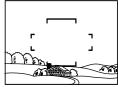
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

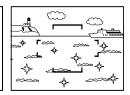
● ピントと同時に露出も固定されます（ワンショットAFで多分割測光時のみ。常に固定させることも可能→P.135）。画面左下のシャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。

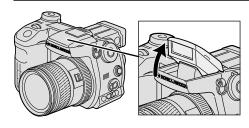
● ピント合わせの方法として、他にも自由にピント合わせの位置が決められるフレックスフォーカスポイント機能（P.91）があります。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、液晶モニターに赤色の ● が点灯します（P.38）。このような場合は、フォーカスロック撮影（P.39）またはマニュアルフォーカス撮影（P.94）を行なってください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ表示	状況
白色	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
赤色	フラッシュが充電中です。白色になってから撮影してください。
青色（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました。 撮影後に青いが現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。
白色	逆光で被写体が暗くなっています。フラッシュの使用をおすすめします。

● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。※詳しくは →P.114

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.8m、最望遠側では3.0mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

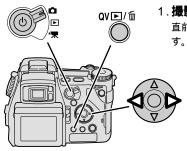
広角側：3.8m
望遠側：3.0m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→P.82

撮影した画像を確認する／消去する（クイックビュー）

画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

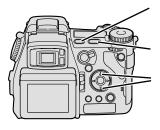
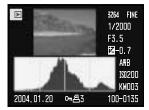
- 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

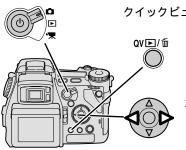
2.十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3.シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

- メニューボタンでも戻ります。

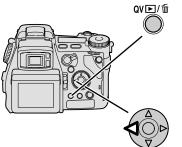
※再生モードに入るときは →P.140

クイックビューでは再生モードと同様の操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

- 表示切り替えボタンを押すと、表示やデータの有無を切り替えることができます。→P.141
- 拡大ボタンを押すと画像を拡大することができます。→P.143
- 十字キーの上側を押すとヒストグラム表示に、下側を押すと縦表示にすることができます。→P.141、142
- 動画やボイスメモの再生も可能です。→P.140、167

ヒストグラム表示

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

- 直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2.十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3.もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

このコマを消去しますか？
はい　いいえ

4.十字キーの左側で「はい」を選びます。

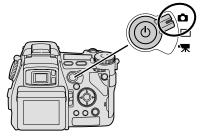
5.十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選んだ画像が消去されます。
- この後、2に戻って続けて画像を消去することもできます。

6.メニューボタンを押して（またはシャッターボタンを半押しして）通常の撮影モードに戻ります。

- 消去する際、「はい」を先に選択した状態にすることもできます。→P.197

※複数の画像を一度に消去するときは →P.148

撮影モード

この章では、撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは 位置（撮影モード）に合わせてください。

撮影モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に が現れます。

画面表示の切り替え（撮影モード時）

画面内の表示の切り替え

画面内の表示やヒストグラムの有無を切り替えることができます。

※個々の表示内容について →P.20

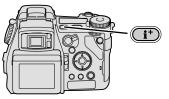
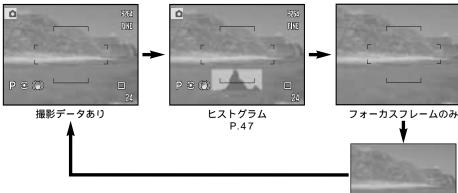
表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

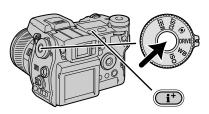
撮影データあり

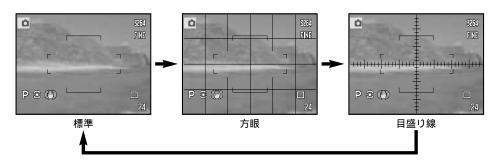
ヒストグラム
→P.47

フォーカスフレームのみ

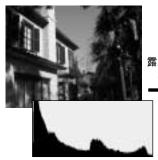
表示なし

●「フォーカスフレームのみ」でも、ピントが合った時のセンサーなど、一部の表示は現れます。
● この使用説明書では、撮影データありの状態（左端）で説明しています。
● これらの表示に、方眼や目盛り線を加えることもできます。→次ページ
● このカメラでは、暗いところでも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像には影響ありません。この機能を解除することもできます。→P.130

フォーカシングスクリーン（画面の背景表示）の切り替え

画面内に、方眼や目盛り線を表示させることができます。前ページの画面内の表示と自由に組み合わせることが可能です。
方眼：　　構図を決める際の水平線や垂直線を知ることができます。
目盛り線：構図を決める際に大きさのバランスを取ることができます。

ファンクションボタンを押したまま、表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について →P.102

＋側に露出補正をかける

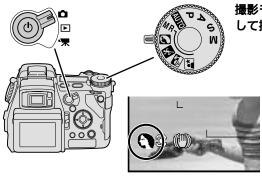
＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。撮影前にヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

- 撮影前のヒストグラムは、その時に液晶モニター／ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。よって、ライブビュー画像と実際に撮影される画像の明るさが異なる場合（フラッシュ発光時、撮影モードメニューでMモード時のモニターを「常に適正」にしている時（P.131）、自動感度アップ機能により暗中でモニターが自動的に白黒になっている時（P.130））は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→P.142
- 被写体の状況や画像処理により、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影モード位置で、撮影モードダイヤルを回して撮影したい場面の絵表示を選びます。

- ポートレート
- スポーツ
- 夕景
- 夜景ポートレート・夜景

●撮影シーンセレクターでは、選んだ撮影場面に応じてカメラの設定が自動的に行われます。従って測光モード等、機能によっては撮影者による変更ができません（シーンによってその内容は異なります）。

ポートレート

人物を引き立たせるようなやわらかいぼけ味を表現するとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行ないます。

●背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

●逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、フードの使用をおすすめします。→P.98

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいよう、高速寄りのシャッター速度で撮影を行ないます。

● フォーカスモードレバーはAF-C（コンティニュアスAF）位置に設定することをおすすめします。シャッターボタンを押している間ピントが調整され続けます。→P.93

● フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。※フラッシュ光の届く距離 → P.41

夕景

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

● レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合は、レンズキャップを取り付けるか、絞りを絞り気味に（絞り値を大きく）してください。

夜景ポートレート・夜景

明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出すことにより、美しい夜景を描写することができます。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）

フラッシュを上げて発光させてください。

夜景撮影（夜景のみ）

フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用してください。手ぶれ補正機能も効果があります（P.56）。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

マクロ撮影

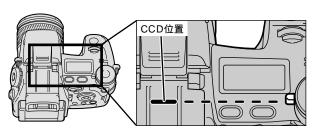
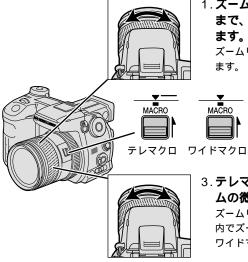
カメラ内のCCD*の位置から約50cm以内の被写体を撮影する場合に使います。レンズの望遠側を使うテレマクロ撮影と、広角側を使うワイドマクロ撮影が可能です。テレマクロ撮影では被写体を中心とした一般的なマクロ撮影、ワイドマクロ撮影では被写体と背景の両方を取り入れたマクロ撮影を行なうことができます。

テレマクロ撮影

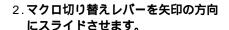
ワイドマクロ撮影

撮影可能範囲

テレマクロ時：　CCD面より約25〜60cm
　　　　　　　（レンズ先端より約13cm〜50cm）
ワイドマクロ時：CCD面より約30〜60cm
　　　　　　　（レンズ先端より約21cm〜51cm）

● 上記の範囲外の被写体にはピントが合いません。

*CCD＝カメラ内で被写体の映像を受け取る部分、つまり通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たす部分。このカメラでは、撮影モードダイヤル指標の延長線上にあります。

1.ズームリングを、テレマクロの場合は最望遠側まで、ワイドマクロの場合は最広角側まで回します。

- ズームリング上の▼とマクロ切り替えレバー横の■が合います。

2.マクロ切り替えレバーを矢印の方向にスライドさせます。

3.テレマクロの場合、ズームリングを回してズームの微調整を行ないます。

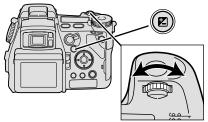
- ズームリング上の ▼── がマクロ撮影範囲です。この範囲内でズームを行なうことができます。
- ワイドマクロではズームを行なうことはできません。

- マクロ撮影になっているときには、液晶モニター／ファインダー下部に 🌷 が表示されます。
- 内蔵フラッシュは、レンズにさえぎられて画面下部まで光が届かないのでおすすめできません。フラッシュ撮影が必要な場合にはマクロフラッシュまたはディフューザーの使用をおすすめします。→P.253
- マクロ撮影等近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。三脚の使用をおすすめします。

露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。
2通りの設定方法が可能です。

露出補正＋側

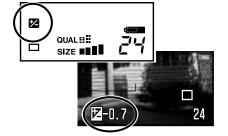
露出補正－側

設定方法1（1つずつ操作する方法）

1.露出補正ボタンを押します。

2.前ダイヤルを回して希望の数値を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

露出補正ボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望の数値を選びます。

設定中表示
（表示が一時的に拡大されます）

● 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには が、液晶モニター／ファインダーには と数値が表示されます。

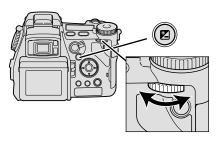
露出補正

● フラッシュを発光させる場合、次ページの調光補正も同時に設定することができます。
● 撮影前後に、ヒストグラム表示で露出の状態を確認することもできます。→P.47、142
● 露出補正ボタンを押さなくても、前または後ダイヤルだけですぐに露出補正ができるようにすることもできます。→P.195
● 露出補正は、表示されているシャッター速度と絞り値の変化だけでなく、より細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によっても行われています。したがって、露出補正を設定しても表示されているシャッター速度と絞り値は変わらないことがありますが、正確に露出補正は行われています。

露出補正と調光補正（次ページ）の違い

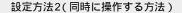
露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

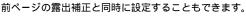
調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに選択することができます。2通りの設定方法が可能です。

設定方法1（1つずつ操作する方法）

1.露出補正ボタンを押します。

2.後ダイヤルを回して希望の数値を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

露出補正ボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の数値を選びます。

- 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには が、液晶モニター／ファインダーには と数値が表示されます。
- 前ページの露出補正と同時に設定することもできます。

- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

デジタルズーム

画像をデジタル処理することにより、2倍に拡大することができます。

撮影モード位置で、拡大ボタンを押します。

●画像が2倍に拡大されます。もう一度押すと元に戻ります。
● デジタルズームの倍率が黄色く表示されます。

● 撮影後もデジタルズームのままです。戻るときは拡大ボタンを押してください。
● デジタルズーム時には、フレックスフォーカスポイント（P.91）は機能しません。コンティニュアスAF時の自動追尾AFは機能します。またUHS連続撮影、RAW画像、動画のデジタルズームはできません。

光学ズームでは画像サイズは維持されたままですが、デジタルズームを行うと必ずしも画像サイズは維持されません。元の画像サイズに応じて、以下の通りに画像サイズが変更されます。
（例えば1600×1200、640×480の場合は、デジタルズーム後も画像サイズは維持されますが、それ以外のサイズだと元の画像サイズよりも小さくなります。）

元の画像サイズ	デジタルズーム後の画像サイズ
3264 × 2448	1600 × 1200
3264×2176 3:2	1600 × 1064
2560 × 1920	1600 × 1200
2080 × 1560	
1600 × 1200	
640 × 480	640 × 480

手ぶれ補正

カメラを手持ちで撮影する場合は、この機能により手ぶれを減少させることができます。フラッシュを発光させずに撮影するときや、望遠側で撮影するときに特に威力を発揮します。

1.手ぶれ補正ボタンが点灯している（＝手ぶれ補正機能が作動している）のを確認します。

● ボタンの点灯中に手ぶれ補正ボタンを押すと、手ぶれ補正機能は解除されます。もう一度押すと作動します。

2.シャッターボタンを半押しします。

● 半押しすると、手ぶれ補正の効果が画面で確認できます。少なくとも1秒間は半押ししたまま、画像が安定するのを確認してください。

3.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

● 液晶モニター／ファインダー内では、手ぶれ補正表示 が手ぶれの状態をお知らせします。

青色	手ぶれ補正機能が作動中です。
黄色	手ぶれ補正機能は作動中ですが、しっかりカメラを構えて撮影してください。シャッター速度が遅い場合は、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。
白色	手ぶれ補正機能は作動しておらず、手ぶれの可能性があります。手ぶれ補正機能、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

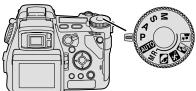
● 手ぶれ補正機能は、シャッターボタン半押し中と露光中のみ作動します。半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合は、露光中のみの作動に変更することもできます。→P.193

● 三脚使用時には、手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。

● カメラを構えた直後や被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。

● 高温下で長時間撮影された場合、カメラの温度が上がり、手ぶれ補正機能が自動的に解除されることがあります（解除前に赤色の と手ぶれ補正ボタンが4秒間点滅してお知らせします）。カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。

露出モード

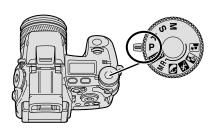
同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。撮影モードダイヤルで設定します。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードで前または後ダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。

Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.59

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.60

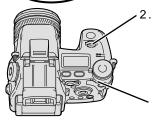
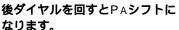
Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.62

Pモード（プログラムモード）

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

撮影モードダイヤルをPに合わせます。

プログラムシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます（PA／Psシフト）。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、前ダイヤルを回すとPsシフトになります。
   - 希望のシャッター速度を選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。

後ダイヤルを回すとPAシフトになります。
- 希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

- 数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
- 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。
- フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

Aモード（絞り優先モード）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に11などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

● プレビュー機能を使うと、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。→P.181

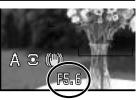
1. 撮影モードダイヤルをAに合わせます。

2. 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

● 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。

広角側：2.8～11

望遠側：3.5～11

※数値は1/3段刻みで変わります。

次ページへ続く

Aモード（絞り優先モード）（続き）

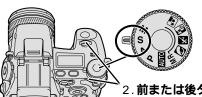
● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内で絞り値を設定してください。

● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
● 撮影状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Sモード（シャッター速度優先モード）

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

1.撮影モードダイヤルをSに合わせます。

2.前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- **液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。15秒～1/2000秒※の範囲から選ぶことができます。**

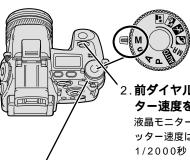
  ※ 数値は撮像感度オート時で（その他はP.82参照）、1/3段刻みで変わります。

- **表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2”、4”など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。**

- **シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。**

- **フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。**
- **Sモードでは、黄色と白色の手ぶれ警告（手ぶれマーク）は表示されません（青色のみ表示）。**
- **バルブ撮影（長時間露光）はMモードで行なってください。→P.97**
- **被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。**

Mモード（マニュアルモード）

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1.撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2.前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。15秒～1/2000秒※の範囲から選ぶことができます。

  ※ 数値は撮像感度オート時です（その他はP.82参照）。
- 30秒の次にはbulb（バルブ撮影）が表示されます。→P.97

3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。

  広角側：2.8～11

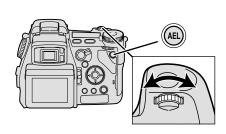
  望遠側：3.5～11

- Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）してお知らせします。
- フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。またフラッシュを発光させない場合でも、画面の明るさを自動的に調整して被写体が確認できるようにすることもできます。→ P.131

- フラッシュを発光させる場合、シャッター速度が高速になるほど、実際の露光に使われるフラッシュ光量は減少し、露出アンダーになることがあります。内蔵フラッシュで1/1000秒、別売りのプログラムフラッシュだと1/250秒かそれより低速側での使用をおすすめします。
- Mモードでは、撮像感度（P.82）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは、黄色と白色の手ぶれ警告は表示されません（青色のみ表示）。
- Mモードでの露出補正（P.52）はできません。Mモードのままで露出補正的な効果を出す場合は →プログラムドマニュアル、P.196
- 前後ダイヤルの機能を入れ替えて、前ダイヤルで絞り値、後ダイヤルでシャッター速度が選べるようにすることもできます。→P.196

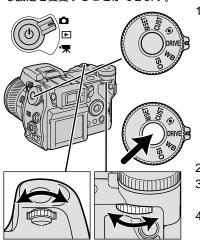
露出モード（M）

マニュアルシフト

Mモードに設定後、露出はそのままでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

1. Mモードでシャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

ファンクション設定

カメラ側面のファンクションダイヤルにより、ドライブモードやホワイトバランス等、撮影時の主な設定を変更することができます。

1.撮影モード位置📷で、ファンクションダイヤルを回して変更したい項目を選びます。

MSET	登録設定（新規）
CUST	カスタムポジション
(測光)	測光モード
DRIVE	ドライブモード
WB	ホワイトバランス
ISO	撮像感度

設定方法1（1つずつ操作する方法）

2.ファンクションボタンを押します。

3.前ダイヤルを回して希望の設定（次ページ記載）を選びます。

4.必要な場合は後ダイヤルを回して、希望の詳細設定（各ページ記載）を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

2.ファンクションボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望の設定（次ページ記載）を選びます。

3.必要な場合はファンクションボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の詳細設定（各ページ記載）を選びます。

● 設定中は、該当する表示が一時的に拡大されます。設定後は、上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が残ります。

ﾀﾞｲﾔﾙ	項目	上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ・ﾓﾆﾀｰ	設定
DRIVE	ドライブモード →P.66			○1コマ撮影
				ブラケット撮影
				連続撮影
		Int		インターバル撮影
				セルフタイマー撮影
WB	ホワイトバランス →P.78	WB	表示なし	○オート（自動設定）
				昼光
				白熱灯
				蛍光灯
				曇天
				日陰
				フラッシュ
				カスタムホワイトバランス
ISO	撮像感度 →P.82	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
		ISO	ISO 64	手動設定（ISO 64相当）
		ISO	ISO 100	手動設定（ISO 100相当）
		ISO	ISO 200	手動設定（ISO 200相当）
		ISO	ISO 400	手動設定（ISO 400相当）
		ISO	ISO 800	手動設定（ISO 800相当）
	測光モード →P.83	表示なし		○多分割測光
				中央重点的平均測光
				スポット測光
CUST	カスタムポジション（CUST位置の機能） →P.180	（設定内容に応ずる）	（設定内容に応ずる）	画像サイズ
				画質
				フラッシュモード
				調光モード
				カラーモード
				○プレビュー
MSET	登録操作 →P.85	表示なし	1～5	1～5に登録する

○印は初期設定値です。
ホワイトバランスと撮像感度の自動設定は、撮影中は表示なしですが、設定中はAuto等と表示されます。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターの切れるタイミングを変更することができます。ファンクションボタンと前後ダイヤルで設定します。

前ダイヤルで設定	後ダイヤルで設定
1コマ撮影 シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。 初期設定は1コマ撮影です。	—
ブラケット（ずらし）撮影 露出やコントラスト等をずらした撮影が簡単にできます。 →P.67	○ 連続露出ブラケット
	1コマ露出ブラケット
	デジタルエフェクトブラケット
連続撮影 シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。→P.70	○ 通常連続撮影（1,8コマ／秒）
	Hi連続撮影（2.7コマ／秒）
	UHS連続撮影（7コマ／秒）
int インターバル撮影 一定時間ごとに自動的に撮影が行われます。→P.73	○ 静止画のみ
	動画付きインターバル
セルフタイマー撮影 シャッターボタンを押してから一定時間後に撮影されます。 →P.76	○ 10秒セルフタイマー
	2秒セルフタイマー

○印は初期設定値です。

ブラケット（ずらし）撮影

露出や彩度等をずらした撮影が簡単にできます。以下の3種類のブラケット撮影が可能です。

連続露出ブラケット：　シャッターボタンを押し続けている間、連続して露出をずらした撮影ができます。

1コマ露出ブラケット：　1コマずつシャッターボタンを押して、露出をずらした撮影を行ないます。

デジタルエフェクトブラケット：デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（コントラスト・彩度・フィルター）を自動的にずらした写真ができます。

連続露出ブラケット

シャッターボタンを押し続けている間、連続して露出をずらした撮影ができます。

- フラッシュ発光時、および画質をTIFFまたはRAW＋JPEGに設定していると、表示は のままですが、連続でなく1枚ずつの撮影（1コマ露出ブラケット）となります。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影 を選びます。

- 1コマ露出ブラケットを表すSや、デジタルエフェクトブラケットを表すCnt 、COL 、FIL が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。
- 液晶モニター／ファインダーには、 の横に連続を表すC*と、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。

*C ＝ Continuousの略

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 初期設定では0段、－0.3段、＋0.3段の順に3枚撮影されます。段数を0.5段に変更することも可能です。→P.118
- 基準値（0）は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめずらしておくことも可能です。
- 1コマ露出ブラケットとなる場合は、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。

次ページへ続く

露出ブラケット時の注意（連続／1コマとも）

- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- フラッシュが発光する場合はフラッシュの光量が変化してブラケットを行ないます。Mモードでは、通常はシャッター速度が変化しますが、露出補正ボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。

1コマ露出ブラケット

1コマずつシャッターボタンを押して、露出をずらした撮影を行ないます。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影、後ダイヤルで1コマ露出ブラケット S を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーには、の横に1コマを表すS*と、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。

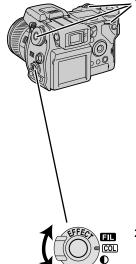
  *S ＝ Singleの略

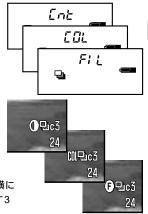
2. シャッターボタンを1コマずつ押して撮影します。

- 初期設定では0段、－0.3段、＋0.3段の順に3枚撮影されます。段数を0.5段に変更することも可能です。→P.118
- 基準値（0）は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめずらしておくことも可能です。

その他の注意は連続露出ブラケットと同じです。

デジタルエフェクトブラケット

デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（コントラスト・彩度・フィルター）を自動的にずらした写真ができます。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでブラケット撮影、後ダイヤルでデジタルエフェクトブラケットを選びます。

- 上面データパネルと液晶モニター／ファインダーに、以下のいずれかの文字を表示させます。
  - Cnt ：コントラストブラケット
  - COL ：彩度ブラケット
  - FIL Ⓕ ：フィルターブラケット
- 液晶モニター／ファインダーには、 の横にCまたはSと、ブラケットの残り枚数を表す3が表示されます。

2. デジタルエフェクトレバーで、ブラケット撮影を行ないたい項目を選びます。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 0、－1、＋1の順に3枚撮影されます。
- フラッシュ発光時、および画質をTIFFまたはRAW＋JPEGに設定しているときは、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 基準値（0）はあらかじめずらしておくことも可能です。

- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- 各項目の詳細については、コントラスト P.89、彩度 P.90、フィルター効果 P.90をご覧ください。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。通常の連続撮影では毎秒約1.8コマ、Hi連続撮影では毎秒約2.7コマ、UHS連続撮影では毎秒約7コマの速度で撮影されます。

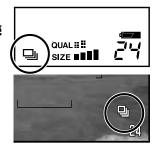
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約1.8コマの速度で連続3枚まで撮影されます。連続撮影中も液晶モニター／ファインダーで被写体の動きを確認することができます。

- 3枚撮影後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は、液晶モニター／ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルで連続撮影を選びます。

- Hi連続撮影を表すHI や、UHS連続撮影を表すUHS が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は1コマ目で固定されます。オートフォーカスモードをコンティニュアスAF（AF-C）に変更すると、1コマごとにピントと露出が変わります。→P.93
- 画質をTIFFまたはRAW＋JPEGに設定すると、連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります）。

Hi連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約2.7コマ（画像サイズ3264×2448設定時）の速度で連続3枚まで撮影されます。連続撮影中は液晶モニター／ファインダーは消灯します。

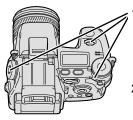
- 3枚撮影後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は、液晶モニター／ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。
- 画像サイズを3264×2448以外に設定すると、連続撮影の速度はやや遅くなります。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルで連続撮影、後ダイヤルでHi連続撮影を選びます。
2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

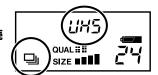
- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピントと露出は常に1コマ目で固定されます。
- 画質をTIFFまたはRAW＋JPEGに設定すると、Hi連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります）。

ウルトラハイスピード（UHS*）連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約7コマの速度で連続撮影ができます。画像サイズ（P.102）は640×480画素に固定されます。

*UHS＝Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルで連続撮影、後ダイヤルでUHS連続撮影を選びます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

スタンダード	約180枚
ファイン	約160枚
エクストラファイン	約100枚

- カメラ内のメモリには限りがあるため、連続撮影できる枚数には上限があります（右図参照）。これらの枚数分を撮影した後は、CFカードに記録するのにしばらく時間がかかります。記録中は液晶モニターやファインダーは消灯します。また、これらの枚数は画質や被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。
- フラッシュ撮影はできません（内蔵フラッシュを上げていても発光しません）。
- TIFF画像とRAW画像（RAW＋JPEGを含む）では、UHS連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にファインになります）。
- ピント位置、露出、ホワイトバランスは1コマ目で固定されます。
- デジタルズーム（P.55）での撮影はできません。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。SモードやMモードで1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は液晶モニター／ファインダーで確認できるので、そのような場合はレンズフードを使用するか、絞りを絞って撮影してください。

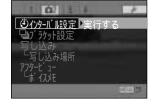
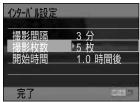
インターバル撮影

一定時間ごとに自動的に撮影が行われます。撮影間隔は30秒〜60分、撮影枚数は2〜240枚、開始時刻は0〜24時間後の中から選ぶことができます。花が開いていく様子の撮影など、定点観測に便利です。動画を同時に作成することもできます。

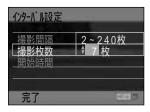
静止画のみ

動画なしの、通常の静止画のみのインターバル撮影が行われます。

間隔・枚数・開始時間の設定

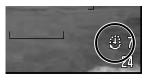
1. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「インターバル設定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの上下で設定したい項目（撮影間隔・枚数・開始時間）を選びます。

3. 十字キー右側→上下で数値を選択します。

- 以下の範囲内で設定することができます。
  撮影間隔：30秒、1〜10、15、20、30、45、60分
  撮影枚数：2〜240枚
  撮影開始時間：0〜24時間後（30分刻み）
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

4. 最初の項目の設定が終われば、十字キー左側で2の状態に戻ります。

次ページへ続く

5. 2～4の要領で必要な設定をすべて行ないます。
6. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
7. メニューボタンを押してメニュー画面を終了させます。

インターバル撮影を行なう

8. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでインターバル撮影 int を選びます。
- 動画付きインターバルを表す int + や が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。
- 液晶モニター／ファインダーには、の横に撮影枚数が表示されます。

9. ピントが合っているのを確認し、シャッターボタンを押してインターバル撮影を開始します。
- 設定した撮影開始時間後に1枚目の撮影が行われます。撮影開始時間を「今から」（0時間）にしていると、シャッターボタンを押すと同時に1枚目の撮影が行われます。その後は設定された撮影間隔ごとに撮影が行われ、設定された枚数分が終わると撮影は終了します。
- インターバル中は、上面データパネルには int とインターバルの残り枚数が表示されます。液晶モニター／ファインダーは消灯します。

- 各撮影の直前に、オートフォーカスの作動やフラッシュ充電など撮影に必要な準備が始まります。
- 撮影間隔・枚数・開始時間を変更しない場合、次回からは8、9の操作のみでインターバル撮影ができます。
- インターバル中にメインスイッチまたはシャッターボタンを押したり、カードの空きがなくなったりすると、インターバルは途中で終了します。
- 撮影が長時間になるとき、枚数が多いとき、フラッシュ撮影を行なう場合は、ACアダプターの使用をおすすめします。

- カードの種類や撮影条件等により、撮影間隔は若干変動することがあります。
- AEロックボタン（P.96）は、インターバル撮影2コマ目以降は機能しません。メニューで「再押し」（P.116）を選択していても同様です。

動画付きインターバル

インターバル撮影で、通常の静止画像に加え、動画（画像サイズ640×480）も同時に作成することができます。再生時には1秒間に4コマの速度で再生されます。花の開花など、ゆっくり変化するものを時間を短縮して見るのに便利です。

間隔・枚数・開始時間の設定

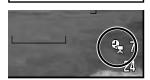
1. P.73〜74の静止画のみのインターバル撮影1〜7の要領で、撮影間隔・枚数・開始時間を設定します。

インターバル撮影を行なう

2. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでインターバル撮影 int 、後ダイヤルで動画付きインターバル int + を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーには、 と撮影枚数が表示されます。

int +

3. シャッターボタンを押して撮影します。

- 音声は記録されません。

※インターバルで撮影した動画の再生について →P.167

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから10秒後または2秒後に撮影されます。

10秒セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

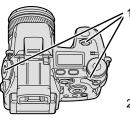
1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでセルフタイマー撮影 ⏲ を選びます。

- 2秒セルフタイマーを表す2や ⏲2が表示されている場合は、後ダイヤルで消してください。

2. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

2秒セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

1. P.64の要領で、ドライブモードDRIVE選択後、前ダイヤルでセルフタイマー撮影 ⏲ 、後ダイヤルで2秒セルフタイマー ⏲2を選びます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが作動します。ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後もセルフタイマーは解除されません。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンまたはファンクションボタンを押してください。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、光源を選択したり（プリセット）、ご自分で最適な値をカメラに記憶させたり（カスタム）することもできます。

オートホワイトバランス

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオートホワイトバランスです。

P.64の要領で、ホワイトバランスWB選択後、前ダイヤルでオートホワイトバランス（AutoまたはAWB*）を選びます。

- オートホワイトバランス設定中は、上面データパネルにAuto、液晶モニター／ファインダーにAWBの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。

*AWB ＝ Auto White Balance（オートホワイトバランス）の略。

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートで思うような色が出ないときにお使いください。

P.64の要領で、ホワイトバランスWB選択後、前ダイヤルで光源を選びます。

- 設定後、液晶モニター／ファインダーには選んだホワイトバランスが、上面データパネルにはWBが表示されます。

液晶モニター ファインダー	上面データパネル （設定中のみ）	
☼	dAY　(daylight)	昼光（晴れた明るい屋外）
	tun9 (tungsten)	白熱灯（タングステン光）
	FLor (fluorescent)	蛍光灯
	CLud (cloudy)	曇天（曇った屋外）
	SHAd (shade)	日陰（晴れた明るい屋外の日陰）
	FLSH (flash)	フラッシュ

●水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

プリセットホワイトバランスの微調整

プリセットホワイトバランスの選択後、より実物の色に近づけるよう、－3～＋3の範囲で微調整を行なうことができます。蛍光灯の場合はその種類を選ぶことができます。

プリセットホワイトバランス選択後、P.64の要領で後ダイヤルで微調整を行ないます。

● ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。
●蛍光灯設定時に上記の操作を行なった場合は、微調整でなく、以下の通り蛍光灯の種類を選ぶことになります。＋側ほど赤っぽく、－側ほど青白く写ります。

－2　電球色蛍光灯
－1　温白色蛍光灯（三波長）
0　白色蛍光灯
＋1　昼白色蛍光灯
＋2　昼白色蛍光灯（三波長）
＋3　昼光色蛍光灯（三波長）
＋4　昼光色蛍光灯

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。カスタム1〜カスタム3の3つまでをカメラに登録させることができます。

● P.85の登録機能とは関係ありません。

カスタムホワイトバランス値を登録する

1. 白く写したいものを画面中央に配置して、カスタムホワイトバランスボタンを押し続けます。

- あらかじめカスタムホワイトバランスを設定しておく必要はありません。
- ボタンを押すと同時に、白く写る部分が画面中央に表示されます。枠の中が白く覆われるようにしてください。
- 押し続けるとシャッターの切れる音がして、カスタムホワイトバランス値がカメラに仮登録されます。

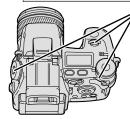
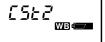
2. 十字キー左右または前後ダイヤルのいずれかで、登録先の番号（1〜3）を選びます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、仮登録した値を登録します。

- 登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影画面に戻ります。
- メニューボタンを押すと登録されません。
- 「カスタムWB設定エラー」が出たときは→次ページ

● この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に同じ操作で同じ番号に別の値が登録されるまで有効です（メインスイッチを切ってもキャンセルされません）。
● 仮登録する時（シャッターの切れる音がした時）にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

● 左のメッセージが表示されたときは、登録しようとしている値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消してください。その後その値を登録した場合、液晶モニター／ファインダー内の と数字が黄色になります。この状態でも撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、再度設定し直すことをおすすめします。またエラーを起こりにくくするには、A／S／MモードよりもPモードをおすすめします。

記憶させたカスタムホワイトバランス値を呼び出す

P.64の要領で、ホワイトバランスWBを選択後、前ダイヤルでカスタムホワイトバランス、後ダイヤルで記憶先の番号を選びます。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。画質を重視する場合は、ISO 64や100に感度を下げてください。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなり、ノイズが発生しやすくなります。

P.64の要領で、撮像感度ISOを選択後、前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望の数値を選びます。

- 初期設定はオート（自動設定）です。
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（Auto）、ISO 64、100、200、400、800

- オートの場合、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。撮像感度はISO 64～200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- オート以外を設定した場合は、上面データパネルにISOの文字が、液晶モニター／ファインダー内にはISOと数値が表示されます。

撮像感度を変更すると、内蔵フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）と最長シャッター速度は、それぞれ右図の通りになります。

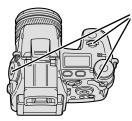
撮像感度（フィルム換算値）	内蔵フラッシュの調光距離		最長シャッター速度
	広角側	望遠側	
オート	0.5～3.8m	0.5～3.0m	15秒
ISO 64	0.5～2.1m	0.5～1.7m	30秒
ISO 100	0.5～2.7m	0.5～2.1m	30秒
ISO 200	0.5～3.8m	0.5～3.0m	15秒
ISO 400	0.5～5.4m	0.5～4.2m	8秒
ISO 800	0.5～7.6m	0.5～6.0m	4秒

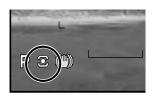
ノイズについて

長時間露光撮影や撮像感度を上げた撮影を行うと、画像にノイズが発生しやすくなります。また連続使用により、カメラ内部のCCDの温度が上がると、ノイズはさらに大きくなります。
ノイズを少なくするには、ノイズリダクション（P.130）を「あり」に設定して、PモードまたはAモードで絞り値を小さくして（絞りを開けて）撮影してください。またカメラの温度を下げるために、電源をいったん切って温度が下がってから撮影する、手ぶれ補正機能を解除して三脚に固定して撮影する、などをおすすめします。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

- 多分割測光：　画面を細かく分割して測光します。
- 中央重点的平均測光：　画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
- スポット測光　中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

P.64の要領で、測光モードを選択後、前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望の設定を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内に選んだ測光モードが表示されます。
- シーンセレクター選択中は、測光モードを選ぶことはできません。

- AEロックボタンにより、各測光モードで測った測光値（シャッター速度と絞り値）を一時的に固定することができます。→P.96

次ページへ続く

多分割測光

CCDを細かく分割（300分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

- 多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカス、ワンショットAF時のみ）。

中央重点的平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.52

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロックボタンを使用して測光値を固定してください（P.96）。フレックスフォーカスポイントとスポット測光サークルとを連動させて動かすこともできます（P.136）。

スポット測光サークル

登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、5通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

登録できる項目	ページ	補足
画面表示	45	画面内の表示、フォーカシングスクリーンの両方が登録されます。
露出補正・調光補正	52	—
露出モード	57	Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。シーンセレクター、プログラムシフト、マニュアルシフト、プログラムドマニュアルは登録できません。
ドライブモード	66	ブラケット撮影：　ブラケットの種類（連続／1コマ／デジタルエフェクト）と、段数が同時に登録されます。 連続撮影：　連続撮影の種類（通常／Hi／UHS）が同時に登録されます。 インターバル撮影：動画の有無、撮影間隔、枚数、開始時間が同時に登録されます。 セルフタイマー：　秒数が同時に登録されます。
ホワイトバランス	78	プリセットホワイトバランスの微調整値とカスタムホワイトバランス値も同時に登録されます。
撮像感度	82	—
測光モード	83	—
コントラスト補正	89	—
彩度補正	90	—
フィルター効果	90	カラーフィルターとモノクロフィルターはそれぞれ別に登録できます。
フォーカスフレーム	91	フレックスフォーカスポイントの場合、画面内のピント位置も同時に登録されます。
画像サイズ	102	—
画質	104	—
フラッシュモード	108	ワイヤレスフラッシュのチャンネルは登録されません。
調光モード	114	内蔵マニュアル発光の発光量も同時に登録されます。
カラーモード	126	—
シャープネス	129	—

登録1〜5

このカメラでは5通りまでの登録が可能です。例えば、1には人物を撮るためのポートレート用の登録、2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1〜5いずれも未登録（フルオートが登録されている状態）になっています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1〜5のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、１つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても保持されています。設定値リセット（P.190）で未登録状態（フルオート）に戻ります。
- フォーカスモードレバー（AF-S／AF-C／MF）等、レバーの位置で設定が決まってしまう機能は登録できません。

新しい設定を登録する

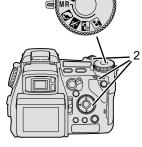
1. 撮影モード位置で、前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

2. P.64の要領で、登録設定MSET（=Memory Set）を選択後、十字キー左右、前ダイヤル、後ダイヤルのいずれかで登録先の番号を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーには、これから登録しようとしている登録内容一覧が表示されます。
- メニューボタンを押すと、登録されずに元の撮影モードに戻ります。

3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定が登録されます。

登録を呼び出す

1.撮影モードダイヤルを登録呼び出しMR（＝Memory Recall）に合わせます。

● 最後に呼び出した登録番号が呼び出されます（初期設定では登録1）。登録番号を変更しないときは、このまま撮影できます。

2.十字キー左右、前ダイヤル、後ダイヤルのいずれかで呼び出したい番号を選びます。

● 番号を選ぶと、その番号の登録内容一覧が表示されます。

● 呼び出しを中止するときは、撮影モードダイヤルをMR以外に合わせてください。

3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定が呼び出されます。

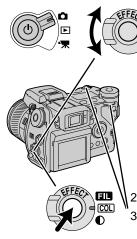
● 登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。変更を加えた後、前ページの要領で再度それを登録することもできます。改めて登録しない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

● 続けて別の登録を呼び出す場合は、撮影モードダイヤルを一度MR以外に変えてから、再度MRに合わせてください。

● デジタルエフェクトブラケットを登録した場合、呼び出す際にデジタルエフェクトレバーでブラケット撮影したい項目（コントラスト、彩度、フィルター効果）を選んでください。これらのレバーの位置を登録することはできません。

● 登録の呼び出しを頻繁に行なう場合は、撮影モードダイヤルに直接登録1〜5を割り当てることができます。→P.134

デジタルエフェクトコントロール

カメラ側面のデジタルエフェクトレバーにより、コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定を変更することができます。

1.撮影モード位置 で、デジタルエフェクトレバーを回して変更したい項目を選びます。

◐ コントラスト補正

コントラスト（明暗差）を調整します。→P.89

COL 彩度補正

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。→P.90

FIL フィルター効果

赤や青のフィルターをかけたような効果を出します。→P.90

設定方法1（1つずつ操作する方法）

2.デジタルエフェクトボタンを押します。

3.前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

設定方法2（同時に操作する方法）

2.デジタルエフェクトボタンを押したまま前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 設定中は、該当する表示が一時的に拡大されます。設定後は、上面データパネルに EFFECT が、液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が残ります。

コントラスト補正

コントラスト（明暗差）を調整します。－5～＋5の11段階から選択することができます。
＋側にするとコントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
－側にするとコントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

コントラスト
強

コントラスト
弱

P.88の要領で、コントラスト補正◐から希望の数値を選びます。

● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに◐と数値が表示されます。

● 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

彩度補正

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。－5～＋5の11段階から選択することができます。
＋側にすると彩度が強くなります。鮮やかなくっきりした画像になります。
－側にすると彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

P.88の要領で、彩度補正 COL から希望の数値を選びます。

● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにCOLと数値が表示されます。

● 画質でファインやスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

フィルター効果

カラー画像の場合、画面に赤や青の色フィルターをかけたような効果を出します。－5～＋5の11段階から選択することができます。＋側にするほど赤みが、－側にするほど青みが増します。
モノクロ画像の場合は色調を選ぶことができます。11種類の中から選ぶことができます。
※カラーモードの設定 →P.126、カラー写真参照 →P.2

P.88の要領で、フィルター効果 FIL から希望の数値を選びます。

● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに Ⓕ と数値が表示されます。

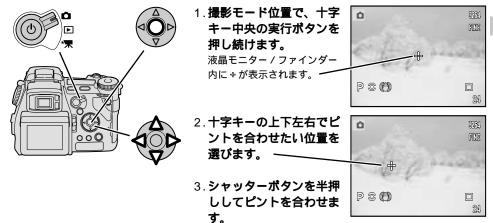
画面内の任意の位置にピントを合わせる（フレックスフォーカスポイント）

画面内でピントの位置を自由に決めることができます（フレックスフォーカスポイント、FFP）。
FFP ＝ Flex Focus Point（フレックスフォーカスポイント）の略

1. 撮影モード位置で、十字キー中央の実行ボタンを押し続けます。

- **液晶モニター／ファインダー内に＋が表示されます。**

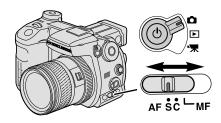
2. 十字キーの上下左右でピントを合わせたい位置を選びます。

3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- **ピントが合うと、白い＋が一瞬赤い［-¦-］（実際にピントを合わせる範囲）に変わります。**
- **2の状態で十字キー中央の実行ボタンを押すと、ピント位置が中央に戻ります。実行ボタンを押し続けると、元のワイドフォーカスフレーム［　］に戻ります。**
- **デジタルズーム（P.55）時には、＋の位置を移動させることはできません。**
- **スポット測光（P.83）時に、＋と一緒にスポット測光サークルを移動させることもできます。→P.136**

フォーカスモード

このカメラには、2種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF*-S	ワンショットAF	シャッターボタン半押しでピントが固定されます。
AF-C	コンティニュアスAF	シャッターボタンを半押ししている間、ピントが動き続けます。
MF**	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

*AF = Autofocus（オートフォーカス）の略
**MF = Manual focus（マニュアルフォーカス）の略

撮影モード位置 で、フォーカスモードレバーで希望の設定を選びます。

● フォーカスモードを登録（P.85）することはできません。

オートフォーカスモード

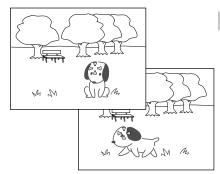
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

ワンショットAF（AF-S）

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。

コンティニュアスAF（AF-C）

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

- コンティニュアスAFにすると、ワイドフォーカスフレーム［ ］は使えず、ピント位置は常に で表されます。被写体の動きに合わせて、画面内のピント位置 も自動的に移動します（自動追尾AF、P.135）。この機能は解除することもできます。また、十字キーの上下左右で を自由に動かすこともできます。
- シャッターボタンを押さなくても、カメラを構えると自動的にピント合わせが開始されるようにすることもできます（フルタイムAF、P.194）。
- 激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。

フォーカス表示

コンティニュアスAFにすると、液晶モニター／ファインダー内のフォーカス表示が変わります。シャッターボタン半押しで表示されます。

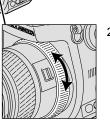
ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

フォーカスモード

マニュアルフォーカスモード

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

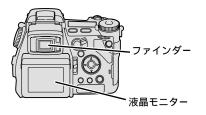
1. 撮影モード位置📷で、フォーカスモードレバーでMFを選びます。

● 液晶モニター／ファインダー内に、MFと現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、フォーカスリングを回します。

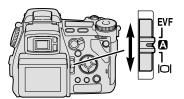
● 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離の目安です。ピントの調整は画像を見ながら行なってください。
※CCDの位置について →P.50

● ピントの状態が見えにくい場合は、拡大ボタンの機能を変更した後、その拡大ボタンを押すことにより一時的に中央部を3.3倍に拡大して、ピントの状態を見やすくすることもできます。→マニュアルフォーカス時のピント確認、P.133

● 暗い中での撮影などピントの確認が難しい状況では、確認しやすい同等の距離の被写体にピントを合わせた後、構図を変えて撮影することをおすすめします。

液晶モニターとファインダー（EVF）

撮影される画像は、カメラ背面の液晶モニターまたは電子ビューファインダー（EVF*、以下ファインダー）に表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけばファインダーが点灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。

*EVF = Electronic Viewfinder（電子ビューファインダー）の略

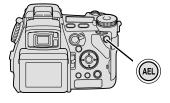
液晶モニターとファインダー（EVF）の切り替え

ディスプレイ切り替えレバーで、画像の表示場所を選ぶことができます。

EVF　ファインダーにのみ表示
A　自動切り替え
ファインダーをのぞいているときはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示
|◯|　液晶モニターにのみ表示

● ファインダーをのぞいているかいないかの判別は、ファインダー横のアイセンサーによって行われます。
※アイセンサーとグリップセンサーについて →P.179
● 電池の消耗量を減らしたいときは、液晶モニターの表示をなくして、のぞいているときのみファインダーを点灯させる方法もあります。→P.178

露出を固定する（AEロック撮影）

AE*ロックボタンを押すと、その時の測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

*AE = Auto exposure（自動露出）の略
AEL = Auto exposure lockの略

1. 測光したい状態にカメラを構えます。

- 多分割測光、中央重点的平均測光、スポット測光のいずれも使用可能です。

2. AEロックボタンを押します。

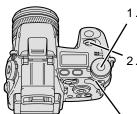
- 液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転し、ロック（固定）されていることをお知らせします。

3. AEロックボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
- P／Aモードでのフラッシュ発光時は、AEロックと同時にスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
- AEロックボタンから指を離しても測光値が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)することができます。→P.116
- どの測光モードを選択していても、AEロックボタンを押すと一時的にスポット測光で露出が固定される（スポットAEロック）ようにすることもできます。→P.116

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。→P.62

- 撮影最長時間（シャッター速度）は4～30秒で、撮像感度によって異なります。→P.82

1.撮影モードダイヤルをMに合わせます。

※Mモードの詳細について →P.62

2.前ダイヤルを左に回して、bulbを選びます。

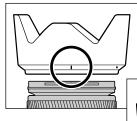
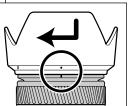
3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4.必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.255
- バルブ撮影後は、ノイズ軽減処理のため、最長30秒間液晶モニター／ファインダーが消灯します（ノイズリダクション）。その間は撮影できません。※この機能を解除するには →P.130
- 高感度域で長秒時露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。※ノイズについて →P.83

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合、特にレンズの広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外にある光がレンズに入って描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

● 内蔵フラッシュ使用時（P.40）にはフードは使わないでください。画面下部までフラッシュ光が届かなくなります。

1. フードの｜の部分を上にして、フードをレンズ先端に合わせます。

2. フードの●の部分が上に来るまで、フードを時計方向に回します。

● カチッと音がするまで回してしっかり固定してください。ご購入当初は固い場合があります。

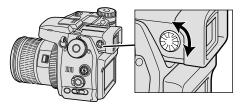
フードは音がするまで回してしっかりと固定させてください。

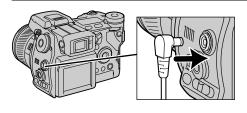
中途位置のまま使用すると、フードの効果が出なかったり、画面の一部にフードが写り込むことがあります。

● フードを収納するときは逆向きに取り付けることができます（右図）。

視度調整

近視等によりファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

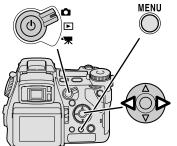
● ファインダー（EVF）にのみ有効です。液晶モニターには影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきり見えるように視度調整ダイヤルを回します。

シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。

● 露出モードはMモードで、シャッター速度は1/125秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。

● 画面が暗くて被写体の確認が難しい場合には明るくすることができます。→P.131
● シンクロ電圧は400V以下でご使用ください。
● オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るには、カスタムホワイトバランスをお使いください。カスタムホワイトバランスの設定には、実際に撮影される照明条件と絞り値を用いて、色の偏りのないグレーの紙や板などをお使いください。反射率の高い白い紙や板では測定可能な光量を超え、「カスタムWB設定エラー」が出て正しく設定されない場合があります。
● シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
● フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。
● 赤目軽減発光および後幕シンクロ撮影はできません。

撮影モードメニュー

モード切り替えレバーが撮影モード位置 にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1.撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

画像ｻｲｽﾞ　3264X2448
画質　ﾌｧｲﾝ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ　通常発光
調光ﾓｰﾄﾞ　ADI調光
AELﾎﾞﾀﾝ　押す間AEL
撮影ﾓｰﾄﾞﾘｾｯﾄ　ー

2.十字キーの左右で、 1〜4のいずれかを選びます。

カラーﾓｰﾄﾞ　ﾅﾁｭﾗﾙ(sRGB)
ｼｬｰﾌﾟﾈｽ　標準
ﾉｲｽﾞﾘﾀﾞｸｼｮﾝ　あり
ﾓﾆﾀ自動感度ｱｯﾌﾟ　あり

3.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

4.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、撮影モードに戻ります。

7.メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

📷1	
画像サイズ（P.102）	○3264×2448 3264×2176　3：2 2560×1920 2080×1560 1600×1200 640×480
画質（P.104）	RAW RAW＋JPEG TIFF エクストラファイン ○ファイン スタンダード
フラッシュモード（P.108）	○通常発光 赤目軽減発光 後幕シンクロ ワイヤレス
調光モード（P.114）	○ADI 調光 P-TTL調光 内蔵マニュアル
AEロックボタン（P.116）	○押す間AEL 再押しAEL 押す間スポットAEL 再押しスポットAEL
撮影モードリセット（P.117）	実行する

📷2	
インターバル設定（P.73）	実行する
ブラケット設定（P.118）	○0.3段 0.5段
写し込み（P.119）	○なし 年月日 月日時刻 文字 文字＋通し番号
写し込み場所（P.122）	○画像上＋Exif Exifのみ
アフタービュー（P.123）	10秒 2秒 ○なし
ボイスメモ（P.124）	あり ○なし

📷3	
カラーモード（P.126）	ビビッド（sRGB） ○ナチュラル（sRGB） AdobeRGB AdobeRGB（ICC） モノクロ ソラリゼーション
シャープネス（P.129）	ハード（＋） ○標準 ソフト（−）
ノイズリダクション（P.130）	○あり なし
モニター自動感度アップ（P.130）	○あり なし
Mモード時のモニター（P.131）	○露出設定に従う 常に適正
拡大ボタン（P.132）	ピント確認（MF） ○デジタルズーム

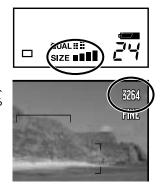
📷4	
シーンセレクター設定（P.134）	○シーン選択 登録呼び出し
自動追尾AF（P.135）	○あり なし
半押しAEロック（P.135）	○標準 常にロック
スポット測光エリア（P.136）	○中央固定 FFP連動
DMF（P.137）	あり ○なし
EVFモード（P.138）	○高精細30fps なめらか60fps

○印は初期設定値です。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。6通りの中から選ぶことができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 1」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 選んだ画像サイズは、上面データパネルでは棒グラフで、液晶モニター／ファインダーでは大きい方の数値で表示されます。
- 画質（P.104）をRAWにすると、画像サイズは3264×2448で固定されます。画像サイズは表示されません。RAW＋JPEGにすると、JPEG画像の画像サイズが表示されます。
- 頻繁に画像サイズを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで画像サイズが変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.180

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ3264×2448ピクセルの場合、画像は横に3264、縦に2448に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセル、ドットといった単位で表されます。大きくプリントする場合は画像サイズを大きく設定する必要がありますが、画像サイズを大きくすると1枚あたりのファイルサイズ（データ量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の6通りの中から選ぶことができます。

上面 データパネル	モニター ファインダー	画像サイズ （単位ﾋﾟｸｾﾙ）	説明
SIZE ■■■■	3264	3264×2448	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合*におすすめします。約800万画素の画像が撮影できます。 *A4（297×210mm）程度以上
SIZE ■■■■	3264 （右図参照）	3264×2176	上記の最大画像サイズ3264で、横と縦の比率を3：2（フィルムカメラと同じ）にしたものです。上下に黒い帯が現れます。
SIZE ■■■	2560	2560×1920	パソコンに取り込んで編集するときや、大きめにプリントする場合**におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 **2L版（178×127mm）〜A4（297×210mm）程度
SIZE ■■	2080	2080×1560	パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合におすすめします。約320万画素の画像が撮影できます。
SIZE ■	1600	1600×1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合***におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 ***L版（127×89mm）〜A5（210×148mm）程度
SIZE	640	640×480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi〜300dpiの場合を指しています。

※画像サイズを変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.106

画質

画像の圧縮率を指定することができます。6通りの中から選ぶことができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「画質」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 選んだ画像サイズは、上面データパネルでは棒グラフで、液晶モニター／ファインダーではアルファベットの短縮形で表示されます。
- RAW、TIFF、およびRAW＋JPEG設定時は、撮影後CFカードに記録するのに十数秒ほどかかることがあります。記録中は、液晶モニター／ファインダー右下の撮影残り画像数が黄色になり、次の撮影はできません。
- RAW設定時は、画像サイズは常に3264×2448で固定されるため、画像サイズは表示されません。RAW＋JPEG設定時は、JPEG画像（ファイン）の画像サイズが表示されます。
- 頻繁に画質を変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで画質が変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.180

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（P.106）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（ファイン、FINE）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。高画質になるほど1枚あたりのファイルサイズも大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の5通りの中から選ぶことができます。

<table>
<tr><th>上面
データパネル</th><th>モニター
ファインダー</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>RAW
QUAL</td><td>RAW</td><td>RAW
(生データ)</td><td>より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。付属のディマージュビューアーCD-ROM内の DiMAGE Viewerで開くことができます。→詳細はP.107</td></tr>
<tr><td>QUAL</td><td>TIFF</td><td>TIFF
(非圧縮)</td><td>画像が圧縮されずにTIFF形式で記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。画質は最高ですがファイルサイズは大きくなるため、記録できる枚数が少なくなったり、カードへの記録にかかる時間が長くなったりします。</td></tr>
<tr><td>QUAL</td><td>X.FIN
(エクストラファイン)</td><td>JPEG
(圧縮率極小)</td><td rowspan="3">画像がJPEG (ジェイペグ) 形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。
JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で戻すことはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。
一般的な目安は以下の通りです。
画像加工用：エクストラファイン
プリント用 (大伸ばし)：エクストラファイン、ファイン
プリント用 (L版〜2L版程度)：ファイン、スタンダード
メール添付用：スタンダード</td></tr>
<tr><td>QUAL</td><td>FINE
(ファイン)</td><td>JPEG
(圧縮率小)</td></tr>
<tr><td>QUAL</td><td>STD.
(スタンダード)</td><td>JPEG
(圧縮率中)</td></tr>
<tr><td>RAW
QUAL</td><td>RAW+
(RAW+JPEG)</td><td>RAW
(生データ)
+
JPEG
(圧縮率小)</td><td>一度シャッターボタンを押すと、上記RAW画像とJPEG画像 (ファイン) が同時に作成されます。JPEG画像のサイズは撮影メニューの設定通り (P.102) で、液晶モニター／ファインダーや上面データパネルに表示されます。閲覧用と編集用の両方の画像を作成したい場合や、RAWでの撮影時に拡大再生でピント確認等をしたい場合に便利です。</td></tr>
</table>

※画質を変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.106

ファイルサイズと撮影画像数

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として128MBの1枚のCFカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです。（ボイスメモなし、RAW選択時は画像サイズは常に3264×2448）

● 下記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	3264x2448	3264x2176	2560x1920	2080x1560	1600x1200	640x480
スタンダード	2,349KB	2,102KB	1,491KB	1,025KB	656KB	240KB
ファイン	4,022KB	3,588KB	2,520KB	1,704KB	1,058KB	270KB
エクストラファイン	7,923KB	7,056KB	4,920KB	3,289KB	1,995KB	420KB
TIFF	23,529KB	20,928KB	14,520KB	9,626KB	5,745KB	1,020KB
RAW＋JPEG	15,793KB	15,360KB	14,292KB	13,476KB	12,829KB	12,042KB
RAW	11,892KB	—	—	—	—	—

動画（1秒あたり）		
	544x408	558KB（15fps）／ 945KB（30fps）
	320x240	297KB（15fps）／ 578KB（30fps）

128MB CFカード使用時の撮影画像数

	3264x2448	3264x2176	2560x1920	2080x1560	1600x1200	640x480
スタンダード	約53コマ	約59コマ	約83コマ	約121コマ	約190コマ	約520コマ
ファイン	約30コマ	約34コマ	約49コマ	約72コマ	約117コマ	約389コマ
エクストラファイン	約15コマ	約17コマ	約25コマ	約37コマ	約62コマ	約296コマ
TIFF	約5コマ	約5コマ	約8コマ	約12コマ	約21コマ	約122コマ
RAW＋JPEG	約7コマ	約8コマ	約8コマ	約9コマ	約9コマ	約10コマ
RAW	約10コマ	—	—	—	—	—

動画		
	544x408	3分24秒（15fps）／ 2分02秒（30fps）
	320x240	6分42秒（15fps）／ 3分26秒（30fps）

RAWについて

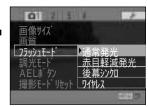
デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGやTIFFのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。このカメラで撮影したRAW画像はコニカミノルタ規格のRAW画像であり、これを開くには付属のディマージュビューアーCD-ROM内の DiMAGE Viewer（ディマージュビューアー）※などが必要です。このソフトを使えば、RAWファイルを開いた後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換することも可能です。

RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

- 画像サイズの指定はできません。常に最大サイズ（3264×2448）になります。
- デジタルズーム、画像への写し込み、拡大再生、DPOF（プリント）指定はできません。
- ホワイトバランス、コントラスト補正、彩度補正、カラーフィルター効果、シャープネスについては、DiMAGE Viewerにて画像を表示させる際に再調整することができます。モノクロフィルターには対応していません。
- RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生・クイックビュー・アフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

フラッシュモード

フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュの中から選ぶことができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「フラッシュモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 内蔵フラッシュを上げていると、液晶モニター／ファインダーに、赤目軽減発光の場合は 👁 、後幕シンクロの場合はREAR、ワイヤレスフラッシュの場合はWLが、それぞれ表示されます。
- 頻繁にフラッシュモードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.180

通常発光

内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

👁 赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

- 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です（別売りのプログラムフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどないため）。

REAR 後幕シンクロ

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。

後幕シンクロ

通常発光

ワイヤレスフラッシュ撮影

フラッシュをカメラに
取り付けて撮影（写真①）

ワイヤレスフラッシュ撮影
（写真②）

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）のいずれかが必要です。

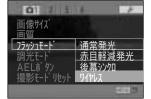
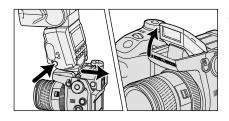
内蔵フラッシュで撮影したり別売りのフラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります（写真①）。このような場合にフラッシュをカメラから取り外して離して撮影すると（写真②）、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。
一般的にこのような撮影をする場合はカメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラではコードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス※フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

※ワイヤレス＝Wireless（コードのない、の意味）

ワイヤレスフラッシュの設定

1. フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源をONにします。

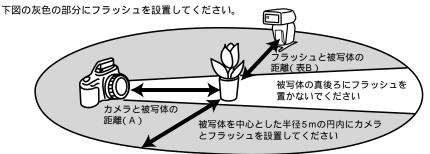
2. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「フラッシュモード」→「ワイヤレス」を選択し、実行ボタンを押します。

● WLの横の数字はチャンネルを表します。→P.113

3. フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

ワイヤレスフラッシュで撮影する

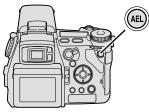
4. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離したプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の灰色の部分にフラッシュを設置してください。

フィルム感度	オート、ISO 200		ISO 100		ISO 64	
絞り値	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）
2.8	2－5m	1.4－5m	1.4－5m	1－5m	1.1－5m	0.8－5m
4	1.4－5m	1－5m	1－5m	0.7－5m	0.8－5m	0.6－5m（0.6-4m）
5.6	1－5m	0.7－5m	0.7－5m	0.5－5m（0.5-3.6m）	0.6－5m	0.4－4.2m（0.4-2.8m）

（　）内は3600HS（D）使用時の値

- ISO 400、800の場合は、A、Bとも最短距離が長くなります。

次ページへ続く

5.カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、シャッターボタンを半押しして、液晶モニター／ファインダーの⚡が白色になると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯し、前面の赤いランプが点滅すると充電完了です。

6.カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

- 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えてください。

AEロックボタンの機能と操作を変更している場合

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、撮影モードメニューのAEロックボタンの機能と操作（P.116）を、「押す間AEL」または「押す間スポットAEL」に設定しておくことをおすすめします。ボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL／再押しスポットAEL）だと、最初に押すとテスト発光・測光値のロックを同時に行ない、2度目に押すとテスト発光せずにロックした測光値を解除します。

7.もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。（カメラとフラッシュを別々に解除する、P.110～111の要領でフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス以外を設定する、のどちらの方法でも可能。）ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出は得られません。

ワイヤレスフラッシュのチャンネルについて

P.110～111の方法でワイヤレスフラッシュを設定すると、設定すると同時にフラッシュのチャンネル情報がカメラに転送されます。撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。
チャンネルの変更は、5600HS（D）の場合はフラッシュ側のカスタム設定で、3600HS（D）の場合はワイヤレスフラッシュボタンを押し続けて行います。詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。チャンネルの変更後、再度フラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にすると、フラッシュのチャンネルがカメラに転送されます。

フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定にする

P.110～111ではフラッシュをカメラに取り付けて設定する方法を説明しましたが、いったんこの方法でワイヤレス設定を行なう（＝フラッシュのチャンネル情報をカメラに転送する）と、その後はカメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定することもできます。

カメラのワイヤレス設定
カメラの撮影モードメニューで設定する（P.110～111の要領で「フラッシュモード」→「ワイヤレス」を選択する）。

フラッシュのワイヤレス設定
5600HS（D）：モードボタンで［TTL］または［M］を表示させた後、セレクトボタンで［WL］を点滅させ、＋または－ボタンで［WL On］を選択、セレクトボタンで確定。
3600HS（D）：ワイヤレスフラッシュボタンを押して、WL CH1またはCH2のランプを点灯させる。
（フラッシュの操作方法については、詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。）

調光モード

フラッシュの調光モードを、ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光のいずれかに設定することができます。

ADI ＝ Advanced Distance Integrationの略
P-TTL ＝ Pre-flash, Through the lensの略

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷1」→「調光モード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 頻繁に調光モードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。→カスタムポジション、P.180

ADI調光

撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させてその反射光を測光、被写体までの距離情報も合わせて調光演算に反映するため、被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光が可能です。初期設定はADI調光です。

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（別売りのプログラムフラッシュでワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行なう場合や、マクロツインフラッシュ2400・マクロリングフラッシュ1200使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。

P-TTL調光

ADI調光と同じく、撮影の直前にプリ発光が行われますが、被写体までの距離情報は加味されません。以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、P-TTL調光に設定してください。

- プログラムフラッシュ3600HS（D）にワイドパネルを取り付けた場合
- プログラムフラッシュ2500（D）でバウンス撮影を行なう場合
- フラッシュ発光部にディフューザーを取り付けた場合
- 露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時
- クローズアップレンズ使用時

内蔵マニュアル発光

ADI調光やP-TTL調光では、被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、マニュアル発光にすると、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量を得ることができます（内蔵フラッシュでのみ可能）。

発光量は右の5つから選択することができます。プリ発光が行われないので、シャッターレリーズまでのタイムラグを短くしたい場合や、日中シンクロ撮影*などの補助フラッシュ、スレーブフラッシュ撮影での信号光としてお使いください。**

発光量	ｶﾞｲﾄﾞﾅﾝﾊﾞｰ (ISO 100、m)
1/1	約8
1/2	約6
1/4	約4
1/8	約3
1/16	約2

*日中シンクロ撮影 ＝ 昼間の撮影で、太陽光を主としながら補助光としてフラッシュを発光させる撮影。

**スレーブフラッシュ撮影 ＝ 市販のスレーブユニットを使用、内蔵フラッシュ等を信号光として、他のストロボを発光させる撮影。

- **赤目軽減発光・ワイヤレスフラッシュ選択時は、内蔵マニュアル発光は設定できません。（後から赤目軽減・ワイヤレスを選択すると、調光モードは自動的にADI調光になります。）**
- **マニュアル発光ではフラッシュの発光量があらかじめ決められてしまうため、設定によっては適正露出が得られないことがあります。**

内蔵マニュアル発光の発光量の設定

1. 前ページの要領で、内蔵マニュアル発光を設定します。

2. 露出補正ボタンを押したまま後ダイヤルを回して、希望の発光量を選びます。

- **マニュアル発光の場合は、液晶モニター／ファインダー内にMと発光量が表示されます。**

AEロックボタンの機能と操作

AEロックボタンの機能と操作方法を変更することができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 1」→「AELボタン」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

AEロックボタンの機能には、測光モードにかかわらず測光値（シャッター速度と絞り値）をロックするAEL※、一時的にスポット測光になってその測光値をロックするスポットAEL※の2つがあります。操作方法には、押している間のみ機能する押す間、一度押して機能・再度押して解除という再押しの2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

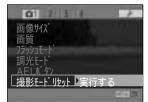
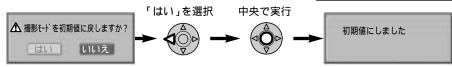
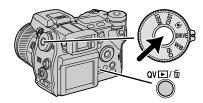
押す間AEL（初期設定）	押し続けている間、選択されている測光モードでその時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
再押しAEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでその時の測光値がロック、再度押すと解除	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。露出を一定に保ちたい場合に便利です。
押す間スポットAEL	押し続けている間、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック	AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。通常は多分割または中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。
再押しスポットAEL	一度押して放すと、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、その時の測光値がロック。再度押すと解除。	シャッターを切るときにAEロックボタンを押し続ける必要がありません。通常は多分割または中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なう場合に便利です。

＊AE＝Auto Exposure（自動露出）の略
L＝Lock（ロック、固定）の略

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。特に再押しを選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
- P／Aモードのフラッシュ発光時は、AEロックでなくスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
- ここでの設定は、Mモードでのマニュアルシフト（P.63）には影響しません。

撮影モードリセット

撮影モードリセットを行なうと、カメラの撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「1」→「撮影モードリセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

- ファンクションボタンを押しながらクイックビュー／消去ボタンを押しても、撮影モードリセットが実行されます。（その場合は、「はい」「いいえ」の確認画面は現れません。）

次ページへ続く

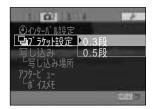
● 撮影モードリセットを実行すると、以下の項目がフルオートに戻ります。

- 露出補正（±0）
- 調光補正（±0）
- デジタルズーム（解除）
- 手ぶれ補正（作動）
- ドライブモード（1コマ撮影）
- ホワイトバランス（オート）
- 測光モード（多分割測光）
- コントラスト補正（±0）
- 彩度補正（±0）
- フィルター効果（±0）
- フォーカスエリア（ワイドフォーカス）
- フラッシュモード（通常または赤目軽減）
- 調光モード（ADI調光）
- シャープネス（標準）

※一覧表は →P.248

ブラケット撮影のずらし段数と枚数の変更

ブラケット撮影（P.67）で、ずらし段数を変更することができます。0.3段または0.5段が選べます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「ブラケット設定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

写し込み

撮影の年月日や任意の文字を、画像の右下に入れることができます。
初期設定では写し込みはされません。

年月日：　撮影の年月日が入ります（例：2004.1.25）。
月日時刻：　撮影の月日と時刻が入ります（例：1.25　15:36）。
文字：　任意のカタカナと英数字を用いて、最大16文字を写し込むことができます（例：ｷｾﾂﾉｶﾞｿﾞｳ）。
文字＋通し番号：任意のカタカナと英数字を用いて最大10文字と、5桁の通し番号を写し込むことができます（例：ｷｾﾂﾉｶﾞｿﾞｳ-00001）。

- 写し込みなしに設定していても、撮影時の年月日時刻は記録され、再生時には画面左下に表示されます。
- TIFF画像、RAW画像、RAW＋JPEG、および動画では画像への写し込みはできません。
- 「文字」および「文字＋通し番号」の場合、画像への写し込みとは別に、同じ情報が撮影情報（Exif情報）として画像に付加されます。画像への写し込みを行なわずにExif情報のみ付加させることもできます。→P.122

※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは →P.189

写し込みを選択する

1. P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷2」→「写し込み」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

「なし」「年月日」「月日時刻」の場合
メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

「文字」「文字＋通し番号」の場合
2に進んで文字を設定

●写し込みありのときは、液晶モニター／ファインダー右下に黄色のバーが表示されます。

写し込みの文字を設定する

abc
切り替えボタン
（この場合はアルファベット小文字の意味）

2. 前ページの1で実行ボタンを押すと、アルファベット（大文字）と数字の一覧が表示されます。十字キーで切り替えボタンを選んで中央の実行ボタンを押し、希望の文字の種類を選びます。

●切り替えボタンを押すたびに、アルファベット（大文字）→ アルファベット（小文字）→ カタカナ、の順に切り替わります。

3. 十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。

●促音（ッ）、拗音（ャュョ）等の小さい文字は入りません。

切り替えボタン：アルファベット大文字、小文字、カタカナの3つを切り替えます。

Space：1文字分空けます。

Enter：文字を入れた後、最後に押すと確定されます。

MENU：メニューボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

反転されている文字、または入力直後の文字を消去

十字キー上下左右で文字を選択

十字キー中央で文字を決定

文字の種類の切り替え

入力の途中でも、切り替えボタン（ABC、abc、アイウのいずれか）を押すと文字の種類を切り替えることができます。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「Photo」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を反転させます。
3. QV▶/🗑 ボタンを押して削除します。

文字の上書き

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「Photo」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を反転させます。
3. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

4. 文字を入れ終わると、「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

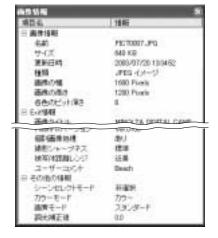
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされます。
- 「文字＋通し番号」の場合、通し番号は00001から始まります。変更することはできません。文字を変更すると、通し番号も自動的に00001にリセットされます。

5. メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しして、元の画面に戻ります。

文字の写し込み場所

「文字」または「文字＋通し番号」を選択すると、その内容が画像に写し込まれると同時に、撮影情報（Exif*情報）として画像に付加されます。付加されたExif情報はユーザーコメントとして、付属のソフトウェアDiMAGE Viewerで編集・保存・印刷等行なうことができます。この写し込み内容を画像には写し込まずに、Exif情報としてだけ付加させることもできます。

*Exif（エグジフ） ＝ Exchangeable Image File Formatの略。デジタルカメラの画像に撮影情報を埋め込めるように規格化された画像形式。

P.100の要領で、撮影モードメニュー→「📷2」→「写し込み場所」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- **「Exifのみ」を選択すると、画像への写し込みは行われません。写し込みを表す黄色のバーも表示されません。**
- **動画にExif情報を付加させることはできません。**
- **撮影年月日および時刻の情報は、常に画像に付加されます。**
- **DiMAGE Viewerでの撮影情報の表示については、DiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。**

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「アフタービュー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

アフタービューなし

撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

アフタービュー2秒／10秒

撮影後、約2秒間または約10秒間撮影した画像が表示され、その後自動的に保存されます。アフタービュー中に消去や保存を行なうこともできます。

表示切り替えボタン i⁺ で表示の有無を切り替えることができます。

消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー／消去ボタンを押してください。
下の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去されます。

次ページへ続く

保存するときは、左の画面が現れている間に、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

- 2秒／10秒経過後、またはシャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

- 連続撮影や連続ブラケット撮影時にアフタービューありにすると、インデックス表示になります。前ページの要領で消去すると、一連のコマがすべて消去されます。

ボイスメモ

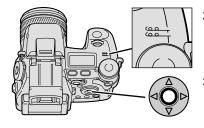
撮影した画像に、最長15秒間の音声メモを付けることができます。撮影のメモ代わりなどにお使いいただけます。アフタービュー2秒または10秒設定時のみ有効です。アフタービュー表示終了後に録音が始まります。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 2」→「ボイスメモ」から「あり」を選択し、実行ボタンを押します。

● ボイスメモを設定すると、液晶モニター／ファインダーには🎙が表示されます。

操作方法

1.撮影します。

● アフタービュー表示終了後（2秒または10秒経過後、または実行ボタンで保存後）、右の画面が現れ、録音が始まります。

2.マイクに向かって話します。

● マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.話し終えたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 録音が終了します。
● 15秒間経過すると、録音は自動的に終了します。

● 音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。→P.140
● アフタービュー中にシャッターボタンを半押しすると、画像は保存されますが、ボイスメモは録音されません。
● 連続撮影と連続ブラケット撮影の場合は、最終コマにのみボイスメモを付けることができます。動画に付けることはできません。

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラル、ビビッド、Adobe RGB、モノクロ、ソラリゼーションの中から選ぶことができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「カラーモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- カラーモードの設定は静止画のみに有効です（動画には影響しません）。
- 頻繁にカラーモードを変更する場合、撮影モードメニューに入らなくても、ファンクションボタンとダイヤルで変更できるようにすることができます。
→カスタムポジション、P.180

ナチュラル（sRGB）

24bitの自然な色のカラー画像（sRGB※）として記録されます。初期設定はこの設定です。

※sRGB ＝ 平均的なモニターの特性を反映させた色空間。ホームページなどWeb表示用の画像を扱う場合に適しています。

ビビッド（sRGB）

24bitのカラー画像ですが、標準より色が鮮やかに再現されます。さらに彩度補正を加えることも可能です。

- 液晶モニター／ファインダーに VIVID が表示されます。
- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまうことがあります。

※カラー写真参照 →P.3

Adobe RGB

Adobe RGB (ICC)

Adobe RGBは、ナチュラルやビビッドのsRGBに比べて広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。
画像の表示やプリントには、DiMAGE Viewer等カラーマネジメントに対応したソフトをお使いください。

- **液晶モニター／ファインダーに Adobe が表示されます。ICCプロファイル（カラープロファイル）が付く場合は も表示されます。**
- **これらのカラーモードで撮影した画像の表示、編集・加工、プリントには、DiMAGE Viewer※などカラーマネジメントに対応したアプリケーションソフトをご利用ください。カラーマネジメント非対応のソフトでは、正しい色で表示やプリントができなかったり、ファイルが開かなかったりすることがあります。お持ちでない場合は、ナチュラルまたはビビッドでの撮影をおすすめします。**
  ※DiMAGE Viewerの場合、Version 2.3以降をお使いください。それ以前のバージョンは DiMAGE A2のICCプロファイルに対応していません。
- **「Adobe RGB（ICC）」を選択して、カラーマネジメントとICCプロファイルの両方に対応しているソフトを使うと、最も正確な色情報が得られます。**
  「Adobe RGB」で撮影した場合や、カラーマネジメント対応でもICCプロファイルに対応していないソフトの場合は、ソフト側で設定を行なう必要があります。「Adobe RGB」で撮影してDiMAGE Viewerを使われる場合は、カラー設定の色空間を「カメラオリジナル色空間（Adobe RGB）」に設定してください。それ以外のソフトをお使いの場合は、ソフトの使用説明書をご覧ください。
- **「Adobe RGB（ICC）」で撮影すると、画像ファイル名には拡張子 ".JPE" が付きます。DPOF指定（P.159）はできません。**

モノクロ

白黒画像として記録されます。
- 液晶モニター／ファインダーに BW が表示されます。
- モノクロにしてもファイルサイズはカラーと同じです。

モノクロでのフィルター効果

モノクロ画像にフィルター効果をかけると、色調が調整され、セピア色などの画像を得ることができます。F0～F10の11種類の中から選ぶことができます。

※フィルター効果 →P.90、カラー写真参照 →P.3

- F0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに F と数値が表示されます。
- フィルターブラケット撮影（P.69）を行なうと、選んだ番号、－側、＋側の順に3枚撮影されます。例えばF0から開始するとF0、F10、F1の順に、F3から開始するとF3、F2、F4の順に撮影されます。

ソラリゼーション

明るい部分の色が補色（反対の色彩）に反転されます。ネガフィルムとポジフィルムが混在したような特殊効果を得ることができます。

※カラー写真参照 →P.3

ソラリゼーション

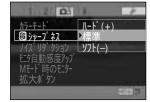
標準カラー

- ソラリゼーションにすると、液晶モニター／ファインダーに SOL が表示されます。
- コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定はできません。

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（＋）： 輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準： 標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（－）： 輪郭のやわらかな画像になります。

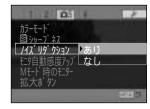
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 3」→「シャープネス」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● 標準以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにはⓈと＋またはーが表示されます。

● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

ノイズリダクション

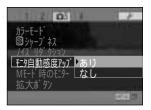
長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が1秒以上の場合はノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを低減させます。このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

*リダクション ＝ Reduction（低減、削減）

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「3」→「ノイズリダクション」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- ノイズリダクションが「あり」の状態で1秒以上の撮影を行なうと、撮影後最長30秒間ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。この間は液晶モニターが消灯し、次の撮影はできません。
- ノイズリダクションを「なし」にすると、ノイズ軽減処理が行われません。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利ですが、ノイズが目立ちやすくなるので、長時間露光時にはノイズリダクション「あり」をおすすめします。

モニター自動感度アップ

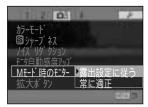
このカメラでは、暗い場所でも液晶モニターを見やすくするため、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。この機能の有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「3」→「モニタ自動感度アップ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 白黒表示になるのは液晶モニターおよびファインダーだけです。撮影される画像には影響ありません。
- モニター自動感度アップ機能を「なし」にすると、画像は常にカラーで表示されます。暗い場所だと被写体が見にくくなることがあります。
- モニター自動感度アップ機能時（白黒表示になったとき）は、撮影前のヒストグラム（P.45）とマニュアルフォーカス時のピント確認（P.133）は使えません。

Mモード時のモニター

Mモードでフラッシュが発光しない場合は、露出設定（実際に設定されたシャッター速度と絞り値）に応じて画面の明るさが変化します。撮影される画像の明るさを前もって確認することができます。初期設定「露出設定に従う」では、このように露出設定に応じて画面の明るさが変化しますが、これを常に一定の明るさ「常に適正」にすることができます。フラッシュを発光させずに暗い被写体を撮影する場合や、シンクロターミナルを使ってシンクロコード付きフラッシュを使用する（P.99）場合に便利です。

- 内蔵フラッシュまたはプログラムフラッシュを発光させる場合は、ここでの設定にかかわらず、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るく（常に適正に）なります。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 3」→「Mモード時のモニター」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 「常に適正」を選択すると、液晶モニター／ファインダー内のMが赤くなり、画面の明るさと実際に撮影される画像の明るさが異なることをお知らせします。また、撮影前のヒストグラムは使えません。

拡大ボタンの機能

拡大ボタンの機能を、デジタルズームまたはマニュアルフォーカス時のピント確認に変更することができます。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷3」→「拡大ボタン」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

デジタルズーム

拡大ボタンを押すと、画像が2倍に拡大されます。そのまま撮影できます。→P.55
初期設定はデジタルズームです。

● 拡大ボタンを押してデジタルズームを設定すると、液晶モニター／ファインダー内に黄色のX2.0が表示されます。

● 拡大ボタンの機能をデジタルズームにしている場合でも、マニュアルフォーカス時にファンクションボタンを押しながら拡大ボタンを押すと、一時的にピント確認が可能です。デジタルズームなしの時は3.3倍、デジタルズーム時には1.65倍（表示はX3.3）に画像が拡大されます。拡大後の画像表示範囲（次ページ）は現れません。

マニュアルフォーカス時のピント確認（フレックスデジタルマグニファイヤー）

マニュアルフォーカス時（MF、P.94）またはダイレクトマニュアルフォーカス時（DMF、P.137）に拡大ボタンを押すと、画像の任意の場所を一時的に3.3倍に拡大します。正確にピントを確認する場合に使用します。撮影される画像は拡大前のものです。

1.拡大ボタンと十字キーで、拡大倍率と場所を決めます。

- 拡大ボタンを押すと3.3倍に拡大されます。もう一度押すと元に戻ります。
- 十字キーで、拡大場所の移動ができます。中央の実行ボタンを押すと、拡大場所は中央部に戻ります。
- ピント確認中は、液晶モニター／ファインダー内には 🔍 と倍率が表示されます。

3.3倍拡大後の
画像表示範囲

画像全体の中で
現在表示されている部分

2.シャッターボタンを押して撮影します。

- シャッターボタンを半押しすると、元の撮影画面に戻ります。

- この機能はピントの確認用です。明るさ等露出関係の確認は、拡大しない状態で行なってください。
- オートフォーカス時およびモニター自動感度アップ機能時（暗いところで液晶モニターが白黒になっているとき）には、拡大ボタンを押しても画像は拡大されません。

- 拡大ボタンの機能をピント確認にしている場合でも、拡大前にファンクションボタンを押しながら拡大ボタンを押すと、デジタルズームを行なうことができます。デジタルズーム後にピント確認を行なうと、倍率は1.65倍（表示はX3.3）になります。

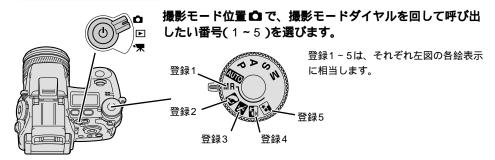
シーンセレクターの設定（登録のダイヤル操作）

初期設定では、撮影モードダイヤルのシーンセレクター位置（絵表示部分）には、シーンセレクターが設定されています。これを登録呼び出し番号（P.87）に変更することができます。登録を頻繁に使われる場合に便利です。

P.100の要領で、撮影モードメニュー→「4」→「シーンセレクター設定」から「登録呼び出し」を選択し、実行ボタンを押します。

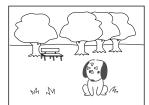
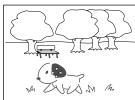
呼び出し方法

撮影モード位置で、撮影モードダイヤルを回して呼び出したい番号（1～5）を選びます。

● 登録1～5は、それぞれ左図の各絵表示に相当します。

● シーンセレクター位置を登録呼び出しに設定していても、新規登録方法は変わりません（P.86）。ただし登録番号は絵表示で表されます。
● シーンセレクター（P.48）は使えません。

コンティニュアスAF時の自動追尾AF

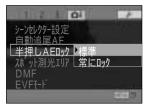
コンティニュアスAF（AF-C、P.93）設定時には、初期設定では、被写体の動きに合わせてピント合わせを行なう位置 が動き続けます（自動追尾AF）。

● 被写体が暗い場合は自動追尾AFは機能しません。

自動追尾AFは解除することもできます。 の位置を固定させたい場合にお使いください。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「 4」→「自動追尾AF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

シャッターボタン半押しによるAEロック

シャッターボタンを半押しした時に、その時の測光値（シャッター速度と絞り値）をロックするかどうかを選ぶことができます。多分割測光でワンショットAF（AF-S）時のみロックされる標準設定か、常にロックされるかの2通りがあります。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「 4」→「半押しAEロック」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

次ページへ続く

シャッターボタン半押しによるAEロック（続き）

標準

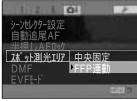
測光モードが多分割測光でフォーカスモードがワンショットAF（AF-S）設定時のみ、シャッターボタン半押しで測光値が固定（ロック）されます。それ以外の場合は、AEロックボタンまたはシャッターボタンを押し込んだ時に測光値が決まります。ピントと測光値を別にコントロールするのに便利です。

常にロック

測光モードやフォーカスモードにかかわらず、シャッターボタン半押しで常に測光値が固定（ロック）されます。ピント合わせと測光を常に同じ被写体で行なう場合に便利です。

スポット測光エリアの位置

スポット測光を行なうスポット測光エリア（サークル）の位置を選ぶことができます。初期設定では画面中央ですが、フレックスフォーカスポイント（FFP、P.91）に連動させて動かすこともできます。ポートレート撮影時など、ピントを合わせたい場所と露出を合わせたい場所が同じ場合に便利です。

P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「スポット測光エリア」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● フレックスフォーカスポイントとスポット測光サークルを連動させた場合、通常のフレックスフォーカスポイントと比べると、動き方が若干粗くなります。

ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

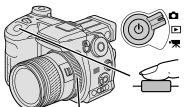
オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合などに便利です。

DMF ＝ Direct Manual Focus（ダイレクトマニュアルフォーカス）の略

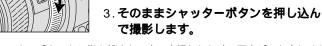
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷4」→「DMF」から「あり」を選択し、実行ボタンを押します。

撮影方法

1. 撮影モード位置📷で、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- 液晶モニター／ファインダー内にDMFが点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回します。

- 現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

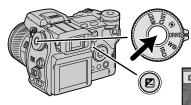
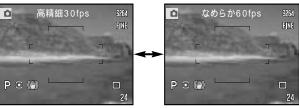
3. そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンから指を離すと、次に半押しした時に再度ピント合わせが行われます。
- 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。　※CCDの位置について →P.50
- コンティニュアスAF（AF-C）設定時は、ピントを固定させることができないので、ダイレクトマニュアルフォーカスはできません。
- プレビュー（絞り込み、P.181）や、マニュアルフォーカス用のピント確認（画面を3.3倍に拡大、P.133）も行なうことができます。

EVFモード

ファインダー（EVF）の画像は、初期設定では細かい描写が可能な高精細30fps*（1秒間に30コマの画像を表示）となっています。動いているものを撮影する場合は、精密さよりもなめらかさを優先させた60fpsを選択することもできます。

*fps ＝ Frame per second（1秒間あたりのフレーム数）

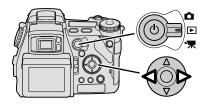
P.100の要領で、撮影モードメニュー →「📷 4」→「EVFモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- **ここでの設定はファインダーのみで、液晶モニターには影響しません（液晶モニターはオートフォーカス中以外は常に60fps）。**
- **動画撮影時やフルタイムAF（P.194）を作動させているときは、ここでの設定にかかわらずファインダーは常に30fpsになります。**
- **動画のフレームレートは動画モードメニューで設定してください。→P.168**

- **ファンクションボタンを押しながら露出補正ボタンを押しても、EVFモードの切り替えができます。押すごとに30fpsと60fpsが切り替わります。**

再生モード

この章では、再生モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは ▶ 位置（再生モード）に合わせてください。

再生モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に ▶ が現れます。

上面データパネルには、PLAYの文字が現れます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニター／ファインダー内に表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（P.42）でも再生モードと同じ操作が可能です（再生モードメニューを除く）。

音声（ボイスメモ）付き画像の再生

液晶モニター／ファインダーに[♪]が表示されている画像には、ボイスメモ（P.124）が付いています。音声を再生するには、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

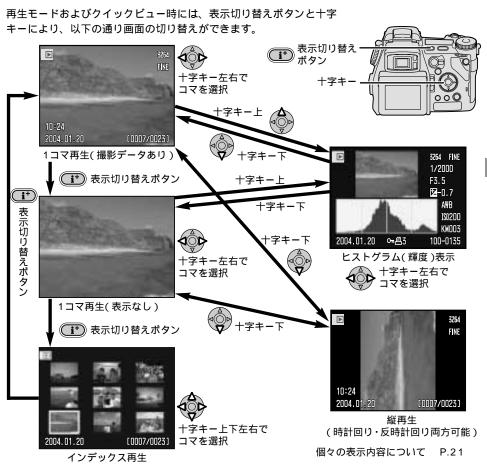
再生中、十字キーの上下で音量の調節ができます。

MENU

音声の再生を途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

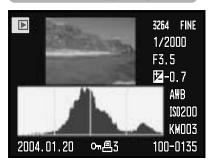
画面表示の切り替え（▶再生モード時）

再生モードおよびクイックビュー時には、表示切り替えボタンと十字キーにより、以下の通り画面の切り替えができます。

※個々の表示内容について →P.21

インデックス再生

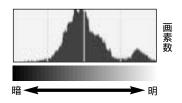
9コマ分を一度に液晶モニター／ファインダーに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

- 一度に再生されるコマ数を9コマから4コマにすることもできます。→P.156
- インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

ヒストグラム（輝度）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。

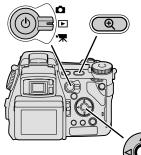
1コマ再生時およびクイックビュー中に、

・十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。

・左右キーを押すとコマを選択することができます。

- 動画のヒストグラム表示はありません。
- 撮影前にヒストグラムを確認することもできます（フラッシュ非発光時のみ有効、詳しくは →P.45）。

※ヒストグラムについて →P.47

拡大再生

再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大することができます。

1.再生モード位置またはクイックビュー中に、拡大ボタンを押します。

- 画像が2倍に拡大されます。
- TIFF画像、RAW画像および動画は拡大再生できません。

画像全体の中で現在表示されている部分

2.十字キー中央の実行ボタンで、ズーム画面と移動画面を切り替えます。

- ズーム画面ではX2.0等の倍率が、移動画面では上下左右の△が青くなります。
- 実行ボタンを押すたびにこれらの画面が切り替わります。

ズーム画面

ズーム画面では、十字キーの上下、または前後ダイヤルで倍率を選びます。

- 1.2倍～10.2倍（画像サイズによる、次ページ参照）の範囲内で、0.2倍ごとに倍率が選択できます。押し続けると早送りされます。
- 「●→移動」は、中央の実行ボタンで移動画面になる、という意味です。

移動画面

移動画面では、十字キーの上下左右で表示エリアの移動ができます。

- 前後ダイヤルで倍率が変更できます。
- 「●→ズーム」は、中央の実行ボタンでズーム画面になる、という意味です。

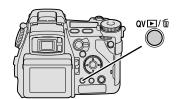
次ページへ続く

● ズーム画面での拡大倍率は画像サイズによって右の通りに変わります。
● ズーム画面では、前後ダイヤルを回しても倍率を変更することができます。

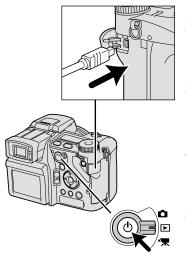
画像サイズ	拡大倍率範囲
3264×2448	1.2〜10.2倍
3264×2176 3：2	1.2〜9倍
2560×1920	1.2〜8倍
2080×1560	1.2〜6.4倍
1600×1200	1.2〜5倍
1600×1064 （3:2デジタルズーム時）	1.2〜4.4倍
640×480	1.2〜2倍

3.拡大ボタンまたはメニューボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

● 表示切り替えボタン（i+）を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

画像を手早く消去する

再生モード位置またはクイックビュー中にクイックビュー／消去ボタンを押すと、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。操作方法についてはクイックビューの項目をご覧ください。→P.43

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-400でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1.テレビとカメラの電源を切ります。

2.AVケーブルのミニプラグ側を、カメラのAV出力端子に差し込みます。

● ミニプラグの△マークをカメラの背面側にしてください。

3.AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

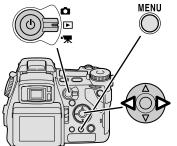
4.テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5.カメラのメインスイッチを入れ、モードダイヤルを ▶ 位置（再生モード）に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターやファインダーに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替えや音声の再生等行なうことができます。
● 音声はテレビ側から再生されます。
● カメラ背面の液晶モニターやファインダーは点灯しません。
● テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.179

再生モードメニュー

モード切り替えレバーが再生モード位置 ▶ にあるときにメニューボタンを押すと、次ページの設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1. 再生モード位置 ▶ で、メニューボタンを押します。
   - メニュー画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、▶ 1～3のいずれかを選びます。

3. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

4. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

7. メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

- 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、再生モードに戻ります。

▶1	
消去（P.148）	このコマ 全コマ コマを指定
フォーマット（P.150）	実行する
再生フォルダ（P.151）	○100KM003
プロテクト（P.152）	このコマ 全コマ コマを指定 全コマ取り消し
画像コピー（P.154）	このコマ コマを指定
インデックス画面（P.156）	○9コマ 4コマ

▶2	
スライドショー（P.157）	実行する
スライドショー再生画像（P.158）	○全コマ コマを指定
スライドショー間隔（P.158）	1～4秒 ○5秒 6～60秒
スライドショー繰り返し（P.158）	あり ○なし

○印は初期設定値です。

▶3	
DPOF指定（P.159）	このコマ 全コマ コマを指定
DPOF指定日付プリント（P.162）	あり ○なし
DPOF指定インデックスプリント（P.162）	作成する 作成しない
DPOF指定取り消し（P.163）	フォルダ内全コマ カード内全コマ

(通信)	
画像送信（P.228）	実行する
画像送信コマを指定	実行する
画像送信送信先	（ユーザー設定）
画像送信アクセスポイント	（ユーザー設定）
画像送信ダイヤル設定	実行する
画像送信設定読み込み	実行する

(通信アイコン)は通信モードメニューです。

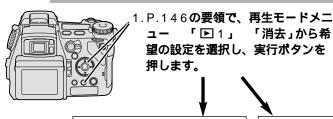
画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

このコマ（1コマ消去）：再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　フォルダ内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

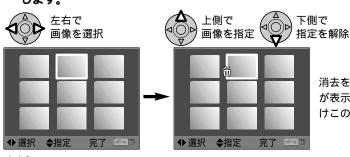
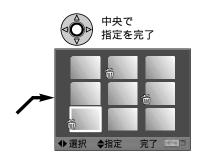
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→P.43

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「消去」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

消去　このコマ
フォーマット　全コマ
再生フォルダ　コマを指定
プロテクト
画像コピー
インデックス画面

「このコマ」「全コマ」の場合
3の確認画面へ

「コマを指定」の場合
2でコマを指定後、3の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには🗑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. 確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

消去完了
メニューボタンで元の画面へ

プロテクトされています

上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.152

● 3の画面で、「はい」を常に先に選択した状態にすることもできます。→P.197

画像の消去

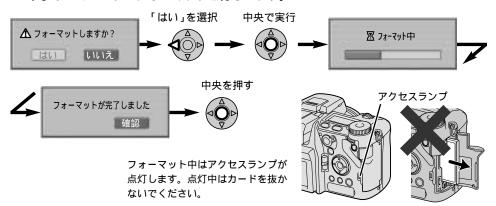
CFカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、CF（コンパクトフラッシュ）カードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「フォーマット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2.十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● **フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。**

● **カードのフォーマットは、原則としてこのページの要領でカメラ側で行なうことをおすすめします。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、フォーマットの形式によっては、「このカードは使えません」のメッセージが出てカードが使えなくなることがあります。**

→裏表紙「よくあるお問い合わせ」のF26ページへ

再生フォルダの選択

画像を撮影すると、画像ファイルが作成され、カード内のフォルダに保存されます。画像の再生やスライドショー、全コマ消去や全コマプロテクト等は、カード単位でなくフォルダ単位で行われます（DPOF指定取り消しのカード内全コマを除く）。
フォルダが2つ以上存在する場合、再生モードにすると、通常は撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）の画像が再生されます。異なるフォルダの画像を見たい場合、一時的に再生するフォルダ（再生フォルダ）を選ぶことができます。

※フォルダ構成、フォルダ名とファイル名、撮影フォルダ選択について →P.182～184

P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶1」→「再生フォルダ」から希望のフォルダを選択し、実行ボタンを押します。

● ここで選んだ再生フォルダは、その時のみ有効です。いったん撮影モードに切り替えると、選んだ再生フォルダは解除され、それまで撮影していたフォルダに戻ります。

※撮影フォルダを選択するときは →フォルダ選択、P.184

プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定：指定した画像だけにプロテクトをかけます。プロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト取り消し：フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

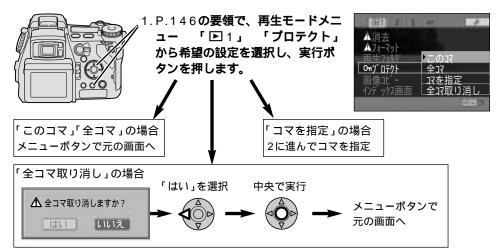
1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「プロテクト」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

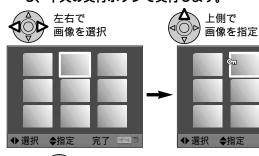
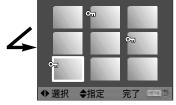
「このコマ」「全コマ」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
2に進んでコマを指定

「全コマ取り消し」の場合

全コマ取り消しますか？
はい　いいえ

「はい」を選択 → 中央で実行 → メニューボタンで元の画面へ

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に O┳ が表示されます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

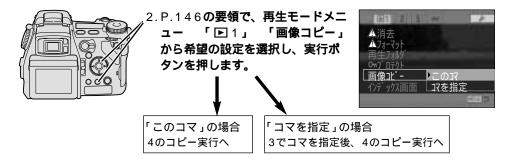
画像のコピー

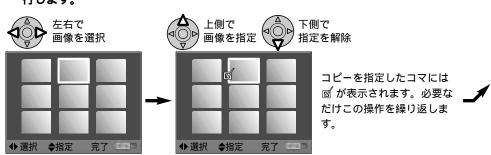
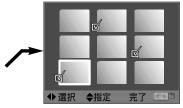
あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。
このコマ（1コマコピー）：再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　指定した画像だけをコピーします。

1. コピーする画像が入ったCFカードをカメラに入れます。

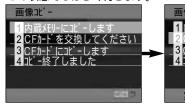
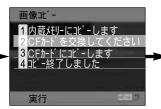
2. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「画像コピー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

「このコマ」の場合
4のコピー実行へ

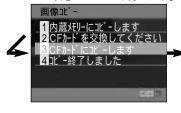
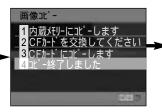
「コマを指定」の場合
3でコマを指定後、4のコピー実行へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4.画面の指示に従ってコピーを続けます。

この状態でしばらく待ちます。

CFカードを交換した後、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
- メニューボタンで元に戻ります。

この状態でしばらく待ちます。

101KM_CP
にコピーしました
確認

コピー先のフォルダ名が表示されます。

- コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。

中央を押す

メニューボタンで
元の画面へ

次ページへ続く

コピー中またはコピー後に、液晶モニターに以下のメッセージが現れた場合は

画像が多すぎます 指定し直してください	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリには約29MBコピーできます。）
カードに空きがありません	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。（一部コピーされた場合もあります。）

● コピーした画像が見つからない場合は、再生フォルダの選択で、"101KM_CP" 等 "KM_CP" の付いたフォルダを選んでください。→P.151

インデックス画面の切り替え

インデックス画面を、9コマ表示または4コマ表示に設定することができます。初期設定は9コマ表示です。

P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 1」→「インデックス画面」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

スライドショー（画像の自動再生）

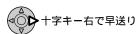
カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、フォルダ内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶2」→「スライドショー」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

● スライドショーが開始されます。

スライドショー再生中の操作

十字キー左で巻き戻し

十字キー右で早送り

十字キー中央で
一時停止・再生開始の繰り返し

現在の画像／総再生画像数

2. スライドショーを終えるときは、十字キーの下側またはメニューボタンを押します。

● 元の再生モードに戻ります。

● 動画はスライドショーでは再生されません。

スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマ再生／再生コマを指定
間隔（画像表示時間）：　1～60秒
繰り返し：　あり／なし

1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 2」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。
   - ●秒数を設定する際は、十字キーを押し続けると数値が早送りされます。

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
2に進んでコマを指定

左記以外
続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →前ページ

2.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上側で
画像を指定

下側で
指定を解除

スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →P.157

● 動画を指定することはできません。

DPOF（プリント）指定

このカメラでDPOF*指定したCF（コンパクトフラッシュ）カードを、DPOF対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。またDPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを使わずに直接画像をプリントすることができます。このような場合に、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

● PictBridge対応プリンタをお使いの場合、カードを取り出さなくても、カメラを直接プリンタに接続してそのままプリントすることができます。→P.198

*DPOF＝ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

次ページへ続く

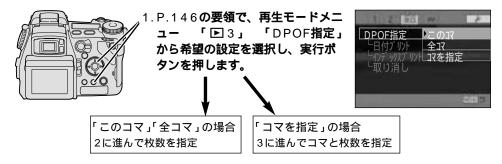
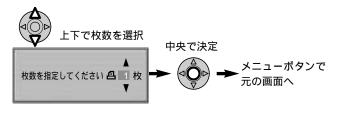
DPOF指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。
このコマ（1コマプリント）： 再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマプリント： フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定： 指定した画像だけをプリントします。

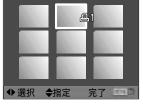
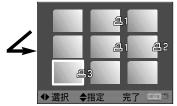
● RAW画像と動画、およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像にはDPOF指定はできません。

1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶ 3」→「DPOF指定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

「このコマ」「全コマ」の場合
2に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
3に進んでコマと枚数を指定

2.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。
● 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
● 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

● 再生時、DPOF指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーでDPOF指定するコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

DPOF指定したコマには🖶が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

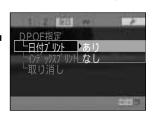
● 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

● 他のデジタルカメラでDPOF指定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

日付プリント

プリントする際に、プリンタ側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内／画面外、サイズ等）は、お使いのプリンタによって異なります。

- プリントされるのは年月日だけです。時刻は入りません。
- プリンタによっては、この機能に対応していないものもあります。
- 画面内右下への日付・文字等の写し込み（P.119）とは別なので、重ならないようにしてください。

1. P.146の要領で、再生モードメニュー →「▶3」→「日付プリント」から「あり」を選択し、実行ボタンを押します。

インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの作成を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

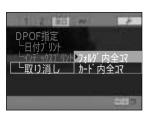
- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。動画とRAW画像はインデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

P.146の要領で、再生モードメニュー→「▶3」→「インデックスプリント」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

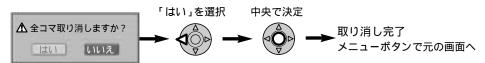
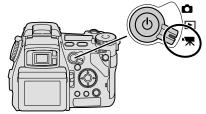
プリント指定の取り消し

159〜162ページで指定したプリント指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。
フォルダ内全コマ： フォルダ内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
カード内全コマ： CFカード内のすべての画像のプリント指定を取り消します。

※カードとフォルダの関係について →P.182

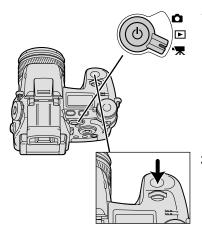
P.146の要領で、再生モードメニュー→「▶3」→「取り消し」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

2.十字キーでプリント指定の取り消しを行ないます。

動画撮影モード

この章では、動画撮影モードでの各種設定について説明しています。モード切り替えレバーは🎥位置（動画撮影モード）に合わせてください。

● 動画の再生は、再生モード ▶ で行ないます。

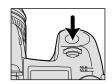
動画撮影モード中は、ファインダー／液晶モニター内の左上に🎥が現れます。

動画撮影

動画の撮影を行なうことができます。音声（モノラル）も同時に記録されます。

1. モード切り替えレバーを🎥に合わせます。

● 液晶モニター／ファインダーと上面データパネル右下に、撮影可能な残り時間（分：秒）が表示されます。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は● Recが表示されます。右下の数値は経過時間です。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● カードがいっぱいになると、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 動画のファイルサイズは、初期設定（画像サイズ544×408、15fps）で1秒あたり約558KBです。128MBのCFカードには、約3分24秒間記録することができます。

※その他の設定でのファイルサイズおよび記録時間について →P.106

● 撮影時間は最長で約15分です（画像サイズ544×408、30fps時のみ約6分）。

● 暗い場所で動画撮影を行なうと、撮影時間が短くなることがあります。また、撮像感度を上げるため自動的に画像がモノクロになります（ナイトムービー）。この機能を変更するには →P.169

動画撮影時の設定について

撮影中も切り替え可能	光学ズーム（ズームリングによるズーム）、マクロ撮影、手ぶれ補正、フォーカスモード、フォーカスリング
撮影前に設定可能、撮影中は切り替え不可	画像サイズ、フレームレート、画面表示の切り替え、露出補正、ホワイトバランス※、デジタルエフェクトコントロール（コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果）、液晶モニターとファインダーの切り替え
動画での設定は固定	ファイル形式（Motion JPEG / MOV）、露出モード（Pモード）、撮像感度（オート）、測光モード（中央重点的平均測光）
動画での設定は不可	シーンセレクター、デジタルズーム、フラッシュ、スポットAEロック、自動追尾AF、フルタイムAF、マニュアルフォーカス時のピント確認、ダイレクトマニュアルフォーカス、

※カスタムホワイトバランス値は、静止画と共通です。

ズームについて

- 動画撮影中にズームを行なうと、レンズ鏡銅がこすれる音（ザーという音）が入ります。

ピントについて

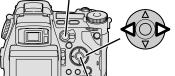
- ピントは画面の中央部分の被写体に合います。また動画撮影中もピント合わせは行われ続けます。

その他

- カードへの記録速度の関係上、カードによっては、特に画像サイズ544×408／30fpsでの撮影時は、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。

動画再生

撮影した動画を再生します。

1. モード切り替えレバーを再生モード位置▶に合わせます。

2. 十字キーの左右で再生したい動画を選びます。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 音声も同時に再生されます。

再生中の操作

 十字キー左で巻き戻し

 十字キー右で早送り

 十字キー上下で音量の調節
動画一時停止中は、
上キーで動画開始画面に
下キーで動画終了画面に

 十字キー中央で
一時停止・再生開始の繰り返し

 表示切り替えボタンで
表示の有無の切り替え

最後まで再生されると、自動的に動画開始画面に戻ります。

- 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- インターバル動画（P.75）も上記の方法で再生できます。1秒間に4コマの速度で再生されます。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

画像サイズ（動画）

動画の画像サイズを指定することができます。544×408に設定すると、VGA（640×480）に近い高解像度の動画が得られます。320×240では長時間の撮影が可能です。

1.動画撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

- 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2.P.100の3～5の要領で、「1」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

- メニューボタン押しまたはシャッターボタンの半押しで元の画面に戻ります。

フレームレート

初期設定のフレームレート15fps*では、1秒間に15コマの画像が記録されます。30fpsにすると、テレビと同等のなめらかな動きの画像を得ることができます（ファイルサイズは大きくなります）。

*fps ＝ Frame per second（1秒間当たりのフレーム数）

1.動画撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

- 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2.P.100の3～5の要領で、「1」→「フレームレート」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

- メニューボタン押しまたはシャッターボタンの半押しで元の画面に戻ります。

- **画像サイズ544×408、フレームレート30fpsで動画撮影を行うと、パソコンによっては再生時の速度が遅くなることがあります。**

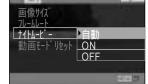
ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、通常のカラーモードだと被写体が見にくくなります。このような場合にモノクロの動画撮影（ナイトムービー）を行なうと、暗い場所でも比較的被写体が見えやすくなります。初期設定では通常動画とナイトムービーが明るさに応じて自動的に切り替わりますが、意図的に切り替えることもできます。

● 静止画でのカラーモード（P.126）とは連動していません。

1. 動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

● 動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

2. P.100の3～5の要領で、「 1」→「ナイトムービー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押して決定します。

● メニューボタン押しまたはシャッターボタンの半押しで元の画面に戻ります。

通常動画／ナイトムービー自動切り替え

明るい場所では通常の動画撮影ですが、暗い場所で撮影を開始すると自動的にナイトムービーとなり、被写体がモノクロで見えやすく記録されます。

● ナイトムービーではカラー画像がモノクロ画像に変わるだけで、それ以外の条件（撮影方法、再生方法、ファイルサイズ等）は通常の動画と同じです。

ナイトムービーON

常にナイトムービーの状態になります。暗い場所での撮影が多く、モノクロで固定して撮影したい場合に便利です。

● 明るい場所では明るい部分が白くとびます。自動切り替えまたはOFFにすることをおすすめします。

ナイトムービーOFF

ナイトムービーにはなりません。常にカラーで撮影したい場合にお使いください。

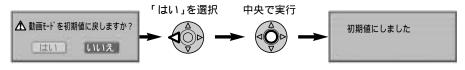
動画モードリセット

動画モードリセットを行なうと、カメラの動画撮影モードの主な設定がフルオートに戻ります。

●撮影モードリセット（P.117）が静止画用のリセットであるのに対し、こちらは動画用のリセットモードです。静止画には影響しません。

1.動画撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

●動画撮影メニューが現れます。操作方法は撮影モードメニューと同じです。

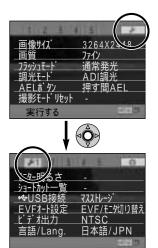
2.P.100の3～5の要領で、「1」→「動画モードリセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

●動画撮影モード位置で、ファンクションボタンを押しながらクイックビュー／消去ボタンを押しても、動画モードリセットが実行されます。（その場合は、「はい」「いいえ」の確認画面は現れません。）

●動画モードリセットを実行すると、以下の項目がフルオートに戻ります。

- 動画の露出補正（±0）
- 動画の手ぶれ補正（作動）
- 動画のホワイトバランス（オート）
- 動画のコントラスト補正（±0）
- 動画の彩度補正（±0）

動画のフィルター効果（±0）
動画の画像サイズ（544×408）
フレームレート（15fps）
ナイトムービー（自動）

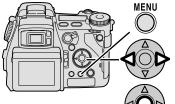
※一覧表は →P.236

セットアップモード

この章では、セットアップモードでの各種設定について説明しています。メニューが表示されている時に、🔧を選択して十字キー中央の実行ボタンを押すと、セットアップモードに入ることができます。

- 撮影モード・再生モード・動画撮影モードのいずれのメニューからでも可能です。
- ファンクションボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップモードに入ることができます。

セットアップモードメニュー

セットアップモード🔧には、どのモードからでも入ることができます。P.172〜173の設定が可能です。十字キーを使って設定します。

1.メニューボタンを押します。

2.十字キーの左右で🔧を選び、実行ボタンを押します。

● セットアップメニュー画面が現れます。

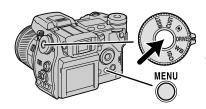
3.十字キーの左右で、🔧1〜4のいずれかを選びます。

4.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

5.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

6.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

● 設定中にメニューボタンを押すと、設定が中断され、元のモードに戻ります。

7. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

メニューボタンを押すか、📷 ▶ 🎥 のいずれかを選んで実行ボタンを押すと、元のモードに戻ります。

上記の手順の代わりに、ファンクションボタンを押しながらメニューボタンを押すと、すぐにセットアップメニューに入ることができます。

🔧1	
モニター明るさ（P.175）	モニター EVF
ショートカット一覧（P.176）	表示する
USB接続（P.177）	○マスストレージ PTP PCコントロール※
EVFオート設定（P.178）	○EVF／モニタ切り替え EVF 点灯／消灯
ビデオ出力（P.179）	○NTSC PAL
言語／Lang.（P.180）	○日本語／JPN English Deutsch Français Español 中文／CHN

🔧2	
CUSTの機能（P.180）	画像サイズ 画質 フラッシュモード 調光モード カラーモード ○プレビュー
ファイルNo.メモリー（P188）	あり ○なし
フォルダ形式（P.186）	○標準形式 日付形式
フォルダ選択（P.184）	○100KM003
フォルダ選択新規作成（P.184）	実行する
日時設定（P.189）	実行する

セットアップモードメニュー

次ページへ続く

3	
設定値リセット（P.190）	実行する
操作音（P.192）	○音1 音2 なし
AF音（P.192）	○音1 音2 なし
シャッター音（P.192）	○音1 音2 なし
音量（P.192）	3（大きい） ○2 1（小さい） 0（消音）
パワーセーブ（P.193）	10分 5分 ○3分 1分

4	
手ぶれ補正（P.193）	○標準 露光中のみ
フルタイムAF（P.194）	あり ○なし
グリップセンサー（P.194）	○有効 無効
PASモード時のダイヤル（P.195）	○ シャッター 絞り シャッター ＋／－ 絞り ＋／－ 絞り シャッター ＋／－ シャッター ＋／－ 絞り
Mモード時のダイヤル（P.196）	○ シャッター 絞り 絞り シャッター プログラムドマニュアル
消去確認画面（P.197）	"はい"が先 ○"いいえ"が先

5	
コンバーター※	○なし ワイドコンバーター テレコンバーター

○印は初期設定値です。

※PCコントロールとコンバーターについて

USB接続のPCコントロールや、 5のコンバーターの項目がないカメラもあります。PCコントロールは別売りのDiMAGE Captureを使用するのに、コンバーターは同じく別売りのワイドコンバーター・テレコンバーターを使用するのに必要です。それぞれの製品には付属でアップデート用のCD-ROMが付いているので、カメラをアップデートして項目を表示させてからお使いください。詳しくはそれぞれの製品の使用説明書をご覧ください。

液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさ調整

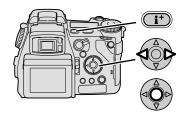
液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさを調整することができます。

● 明るさは11段階から選択することができます。

● EVFの明るさを調整するときは、EVFをのぞいて調整してください。

1. P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「モニター明るさ」から、モニター（液晶モニター）またはEVF（ファインダー）を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で、モニターの明るさを調整します。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

表示切り替えボタンを押し続けても、上の明るさ調整画面が現れます。十字キー左右で調整後、中央の実行ボタンを押してください。セットアップメニューに入る必要はありません。

ショートカット一覧

このカメラにはいくつかのショートカットキーがあり、メニューで選ばなくても、素早く操作することができます。ショートカットの一覧を表示させることができます。

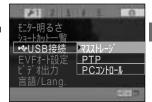
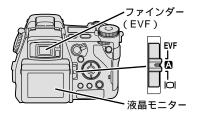
P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「ショートカット一覧」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

液晶モニター表示		説明	ページ
i 長押し	モニター明るさ設定	液晶モニターとファインダー（EVF）の明るさを調整する	175
Func + i	フォーカシングスクリーン	フォーカシングスクリーン（画面の背景表示）を切り替える	46
Func + 🔍	デジタルズーム／🔍	拡大ボタンの機能がデジタルズームになっているときは、Func + 🔍 でMFピント確認 拡大ボタンの機能がMFになっているときは、Func + 🔍 でデジタルズーム	132
Func + Menu	SETUPメニュー呼び出し	セットアップモードメニューを呼び出す	172
Func + QV／🗑	📷／🎥モードリセット	撮影モードリセットまたは動画モードリセットを行なう（その時に選択しているモードの方）	117 170
Func + ☒	EVFモード切り替え	ファインダー（EVF）のモードを切り替える（高精細30fps ⇔ なめらか60fps）	138

ＵＳＢ接続の種類

カメラをUSBケーブルでパソコン等に接続する際の、接続の種類を選ぶことができます。

マスストレージ	カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む時に使用します。 カメラがUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。
PTP	撮影した画像をPictBridge対応のプリンタで印刷する場合や、その他のPTP対応機器に転送する場合に使用します。 ※PictBridge対応のプリンタでの印刷方法について →P.198 *PTP ＝ Picture Transfer Protocolの略。画像ファイルの転送における通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。
PC コントロール	別売りのDiMAGE Capture（ディマージュキャプチャー）を用いて、パソコンからカメラを操作する場合に使用します。 ● PCコントロールの項目がないカメラもあります。DiMAGE Captureに付属のCD-ROMで、カメラをアップデートしてからお使いください。

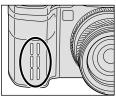
P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「USB接続」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

EVFオート設定の機能変更

ディスプレイ切り替えレバーには、画像の表示場所が自動的に切り替わる A（AUTO）があります。その機能を変更し、電池消耗の多い液晶モニターを常にOFFにすることができます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「EVFオート設定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

EVFｵｰﾄ設定 ﾚﾊﾞｰの位置	EVF／モニター切り替え （初期設定）	EVF 点灯／消灯
EVF	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示 のぞいていないときは表示なし	
A	ファインダーをのぞいているときには ファインダーに表示、 のぞいていないときは液晶モニターに表示	カメラを持ってファインダーを のぞいているときにはファインダーに表示、 それ以外はファインダー・ 液晶モニターともに画像表示なし※
|O|	液晶モニターにのみ常時表示	

※再生モード・セットアップモードでは、液晶モニターに画像が表示されます。

アイセンサーとグリップセンサー

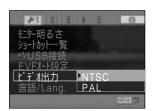
アイセンサー

グリップセンサー

撮影者がファインダーをのぞいているかいないかを判別するために、このカメラにはアイセンサーとグリップセンサーの2つが搭載されています。
前ページで、レバーの位置がEVFまたはAのときは、アイセンサーが有効となり、撮影者がファインダーをのぞくのを検知して、画像の表示場所を切り替えます。A位置で「EVF 点灯／消灯」時は、アイセンサーとグリップセンサーの両方が有効となり、両方が検知されれば（＝撮影者がグリップを握ってファインダーをのぞけば）ファインダーに画像が表示されます。

- アイセンサーとグリップセンサーは、フルタイムAF（P.194）の開始・終了にも使われています。
- グリップセンサーを検知させるためには、グリップをしっかり握ってください。手袋をしているときなどグリップセンサーが検知されない場合は、あらかじめグリップセンサーを無効にしておくことができます。→P.194

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「ビデオ出力」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

言語設定

液晶モニターやファインダーに表示される言語を、6カ国語の中から選ぶことができます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「言語／Lang.」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

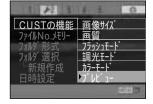
●選べる言語は以下の通りです。

・日本語
・英語（English）
・ドイツ語（Deutsch）
・フランス語（Français）
・スペイン語（Español）
・中国語（中文）

ファンクションダイヤルのCUST位置の機能

ファンクションダイヤルのCUSTの位置（カスタムポジション）に、よく使う機能を割り当てることができます。以下の6つの中から1つ選ぶことができます。撮影モードメニューに入らずに、手早く設定を変更することができます。

・画像サイズ
・画質
・フラッシュモード
・調光モード
・カラーモード
・プレビュー

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「CUSTの機能」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

設定方法（プレビュー以外）

P.64の要領で、カスタムポジションCUST選択後、ファンクションボタンと前または後ダイヤルで希望の設定を選びます。

● この方法で設定を変更すると、撮影モードメニューにもその内容が反映されます。

プレビュー（絞り込み）

ファインダーには絞りが比較的開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、特にマクロ撮影の場合、ファインダーで見えるぼけ具合と実際の写真のぼけ具合とが異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影の絞り値に設定されるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。

※絞りとぼけ具合について →Aモード、P.59

1.カスタムポジションCUSTを選択します。

2.ファンクションボタンを押します。

● 押している間、撮影で使われる絞り値に絞りが設定されます。

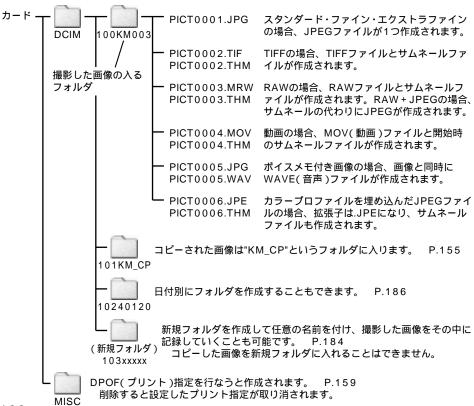
3.シャッターボタンを押して撮影します。

● ファンクションボタンを押したまま撮影することもできます。

● A／Mモードでは、ファンクションボタンを押している間に絞り値を変更することもできます。この場合、絞り値を変更すると画面が一瞬明るく光ることがあります。撮影される画像には影響ありません。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに保存されます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 KM003

フォルダ番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "KM" はコニカミノルタを、"003" はこのカメラ（DiMAGE A2）を意味します。画像をコピーすると "KM_CP" というフォルダが作成されます。日付別にフォルダを自動的に作成したり（P.186）、新規フォルダを作成して任意の識別文字を付けたり（P.184）することもできます。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.209～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.150）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリーなしの場合、P.188）。
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "104KM003" ）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- フォルダを変更すると、初期設定では常にファイル名は"PICT0001"から始まります（ファイルNo.メモリーなしの場合、P.188）。
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

フォルダ選択

フォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。

●再生もフォルダ単位で行われます。通常は撮影フォルダの画像が再生されますが、一時的に任意の再生フォルダを選択することもできます。→P.151

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「フォルダ選択」から希望のフォルダを選択し、実行ボタンを押します。

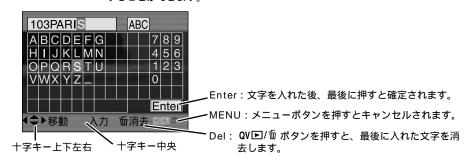
新規フォルダの作成

ご自分で新規にフォルダを作成して任意の名前を付けることができます。場面別にファイルを管理するときに便利です。

●日付形式フォルダ（P.186）と併用することはできません。日付形式フォルダにしていると、撮影した画像は新規フォルダでなく常に日付形式フォルダに保存されます。

1. P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「新規作成」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. フォルダ名を入力します。十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。

● 最初のフォルダ番号3桁はすでに入力されており（変更不可）、続く5文字を入力することができます。

● 入力文字は必ず5文字にしてください。それ以外の文字数は設定できません。
● "_"（アンダーバー）以外の記号およびカタカナや小文字は使用できません。

入力した文字の削除

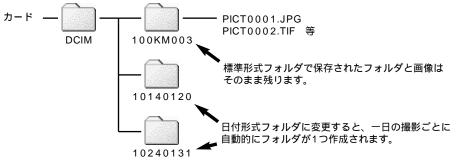
1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を反転させます。
3. QV▶/🗑 ボタンを押して削除します。

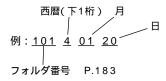
文字の上書き

1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を反転させます。
3. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

3. 文字を入れ終わると「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100KM003等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行なうことができます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「2」→「フォルダ形式」から「日付形式」を選択し、実行ボタンを押します。

フォルダを日付形式に変更すると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

● 撮影した画像は必ず日付別のフォルダに保存されます。撮影フォルダの選択（P.184）はできません。他のフォルダの画像を再生するには、一時的に再生フォルダを選択してください。→P.151
● 新規フォルダの作成（P.184）はできません。
● 初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.188

日付形式フォルダにした場合の再生について

撮影も再生もフォルダ単位で行われます。日付形式フォルダで撮影するとその日の日付のフォルダが作成され、そのままだと再生もその日に撮影した分しか再生できません。前日までに撮影した画像を見る場合は、再生フォルダの選択で、一時的に見たい日のフォルダを選択してください。

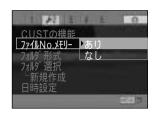
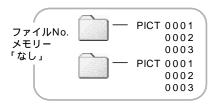
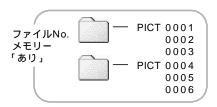
※撮影フォルダの選択 →P.184、再生フォルダの選択 →P.151

ファイルNo.メモリー

フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び"PICT0001" から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし：ファイルNo.メモリーは機能しません。撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「ファイルNo.メモリー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

イメージ図

日時設定

日時や年月日の並び順の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。
● 2099年までの日付が記憶されており、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。

1. P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧2」→「日時設定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーで、日時と年月日の並び順を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。
● 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。
● メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

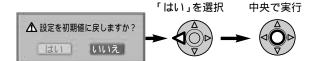
3. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

※メインスイッチを入れると時計がリセットされる場合は
→裏表紙「よくあるお問い合わせ」F25ページ

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1. P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」→「設定値リセット」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーで設定値のリセットを行ないます。

リセットされる内容は以下の通りです。

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
画面表示	撮影データあり 標準	45 46
露出補正	±0	52
調光補正	±0	54
デジタルズーム	解除	55
手振れ補正	作動	56
ドライブモード	1コマ撮影	66
ブラケット撮影	連続露出ブラケット	67
連続撮影	（通常）連続撮影	70
インターバル撮影	静止画のみ	73
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー	76

項目	設定	ページ
ホワイトバランス	オート（自動設定）	78
プリセットホワイトバランスの微調整	0	79
カスタムホワイトバランス	昼光	80
撮像感度	オート（自動設定）	82
測光モード	多分割測光	83
登録	未登録状態（フルオート）	85
コントラスト補正	±0	89
彩度補正	±0	90
フィルター効果（カラー）	±0	90
フィルター効果（モノクロ）	0	90
フォーカスエリア	ワイド	91

撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	3264×2448	102
画質	ファイン	104
フラッシュモード	通常発光	108
調光モード	ADI調光	114
内蔵マニュアル発光	1/4	115
AEロックボタン	押す間AEロック	116
インターバル撮影間隔	1分	73
インターバル撮影枚数	2枚	73
インターバル撮影開始	今から	73
ブラケット設定	0.3段	118
写し込み	なし	119
写し込み場所	画像上＋Exif	122
アフタービュー	なし	123
ボイスメモ	なし	124
カラーモード	ナチュラル（sRGB）	126
シャープネス	標準	129
ノイズリダクション	あり	130
モニター自動感度アップ	あり	130
Mモード時のモニター	露出設定に従う	131
拡大ボタン	デジタルズーム	132
シーンセレクター設定	シーン選択	134
自動追尾AF	あり	135
半押しAEロック	標準	135
スポット測光エリア	中央固定	136
DMF	なし	137
EVFモード	高精細30fps	138

動画モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	544×408	168
フレームレート	15fps	168
ナイトムービー	自動	169

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画面表示	撮影データあり	141
インデックス画面	9コマ	156
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	なし	158
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	228–245

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	175
EVF明るさ	標準	175
USB接続	マスストレージ	177
EVFオート設定	EVF/モニタ切り替え	178
CUSTの機能	プレビュー	180
ファイルNo.メモリー	なし	188
フォルダ形式	標準形式	186
操作音	音1	192
AF音	音1	192
シャッター音	音1	192
音量	2	192
パワーセーブ	3分	193
手振れ補正	標準	193
フルタイムAF	なし	194
グリップセンサー	有効	194
PASﾓｰﾄﾞ時のﾀﾞｲﾔﾙ	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	195
Mﾓｰﾄﾞ時のダイヤル	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	196
消去確認画面	"いいえ"が先	197
コンバーター	なし	174

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。

1. P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」から「操作音」「AF音」「シャッター音」「音量」のいずれかの項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

操作音、AF音、シャッター音は音1、音2、なしの3つから、音量は4段階から選ぶことができます。音量は、操作音、AF音、シャッター音のすべてに反映されます。

操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等カメラの操作時に出る音	音1（電子音をベースにした音）
		音2（機械音をベースにした音）
		なし（音は出ません）

AF音	AF（オートフォーカス）でピントが合った時に出るピント確認音	音1（ミノルタα-7のAF音）
		音2（オリジナルAF音）
		なし（音は出ません）

シャッター音	シャッターを切った時に出る音	音1（ミノルタα-9のシャッター音）
		音2（ミノルタCLEのシャッター音）
		なし（音は出ません）

音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）
	0（消音）

ミノルタCLE

パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約3分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、液晶モニターやファインダーが消灯します（パワーセーブ →P.28）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

●約30分間何も操作をしないでいると、完全に電源が切れます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧3」→「パワーセーブ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

手ぶれ補正機能の作動設定

手ぶれ補正ボタンが点灯している間は、シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合、手ぶれ補正機能の作動を露光中のみに制限して、半押し中の手ぶれ補正機能を解除することができます。

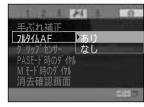
※手ぶれ補正について →P.56

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「手ぶれ補正」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

●カメラを構えた直後やシャッター速度が遅い場合には、「露光中のみ」だと手ぶれ補正の効果が現れにくくなります。このような場合は、「標準」設定にすると改善されることがあります。

フルタイムAF

ピント合わせは、通常はシャッターボタンを半押しした時に行われます。フレックスフォーカスポイント（P.91）およびコンティニュアスAF（AF-C、P.93）設定時は、シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを構えただけで自動的にピント合わせが行われるようにすることができます（フルタイムAFあり）。シャッターを切るタイミングを優先させたい場合に便利です。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「フルタイムAF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- フルタイムAFの開始と終了には、アイセンサーとグリップセンサーが使用されます。画像がファインダーに表示されているときは両方が有効（両方が検知されていればフルタイムAFが開始）、液晶モニターに表示されているときはグリップセンサーのみ有効です。→P.179
- フルタイムAFを作動させると、撮影モードメニューのEVFモードの設定（P.138）にかかわらず、ファインダーの表示は常に30fpsになります。また、電池の消耗が多少早くなります。

グリップセンサーの検知

フルタイムAFの作動中（上記）や、ディスプレイ切り替えレバーがⒶ位置で「EVF 点灯／消灯」になっている場合（P.178）は、撮影者がカメラを構えているかどうかの判別にグリップセンサーが使われます（グリップセンサー有効）。手袋着用時や三脚での撮影、また手が乾燥してグリップセンサーの検知が難しい場合は、グリップセンサーを無効（常に検知している状態）にできます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「グリップセンサー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

P／A／Sモード時のダイヤル

Pモードでは、前ダイヤルでPsシフト、後ダイヤルでPAシフトになり、AモードやSモードではどちらのダイヤルでも絞り値またはシャッター速度が設定されます。これらを以下の通り変更することができます。露出補正を頻繁に行なう場合は、ダイヤルに露出補正を割り当てると便利です。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「4」→「PASモード時のダイヤル」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

	Pモード	Aモード	Sモード
シャッター　絞り （初期設定）	前ダイヤルでPsシフト （シャッター速度設定） 後ダイヤルでPAシフト （絞り値設定）	前後ダイヤルで 絞り値設定	前後ダイヤルで シャッター速度設定
シャッター　＋／－	前ダイヤルでPsシフト 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで絞り値設定 後ダイヤルで露出補正	前ダイヤルで シャッター速度設定 後ダイヤルで露出補正
絞り　＋／－	前ダイヤルでPAシフト 後ダイヤルで露出補正		
絞り　シャッター	前ダイヤルでPAシフト 後ダイヤルでPsシフト	前後ダイヤルで 絞り値設定	前後ダイヤルで シャッター速度設定
＋／－　シャッター	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルでPsシフト	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで絞り値設定	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルで シャッター速度設定
＋／－　絞り	前ダイヤルで露出補正 後ダイヤルでPAシフト		

Mモード時のダイヤル

Mモードでは、初期設定では前ダイヤルでシャッター速度、後ダイヤルで絞り値が設定されます。これを入れ替えることができます。また、Mモードでシャッター速度と絞り値を決めた後、そのまま露出をずらして露出補正的な効果を得る（プログラムドマニュアル）ことも可能です。

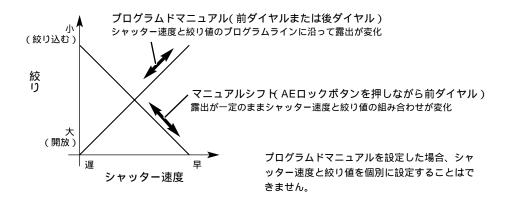
P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「Mモード時のダイヤル」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

シャッター　絞り （初期設定）	前ダイヤルでシャッター速度設定 後ダイヤルで絞り値設定
絞り　シャッター	前ダイヤルで絞り値設定 後ダイヤルでシャッター速度設定
プログラムドマニュアル	前ダイヤルまたは後ダイヤルで プログラムドマニュアル

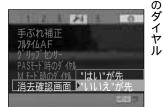
プログラムドマニュアル

Mモードで、プログラムラインに沿って被写体の明るさを決めることができます（プログラムドマニュアル）。その後、マニュアルシフト（P.63）でシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えて使うと便利です。

1. **撮影モードダイヤルをMに合わせます。**
2. **前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、被写体の明るさを決めます（プログラムドマニュアル）。**
3. **必要ならば、AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます（マニュアルシフト）。**

● プログラムドマニュアルを設定した場合、シャッター速度と絞り値を個別に設定することはできません。

消去確認画面

画像消去の際に、「このコマを消去しますか？」等の確認画面が現れます。通常はあらかじめ "いいえ" が選択された状態になっていますが、これを "はい" を先に選択した状態にすることができます。

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧4」→「消去確認画面」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

PictBridge対応プリンタでの印刷

PictBridge*（ピクトブリッジ）対応のプリンタをお使いの場合、カメラとプリンタをUSBケーブルで直接接続して、そのままプリントすることができます。パソコンを使わないので、手軽にプリントが楽しめます。

*PictBridge ＝ デジタルカメラで撮影した画像を、パソコンを使わずに印刷するための規格。これに対応しているカメラとプリンタであれば、メーカーを問わず、カメラから直接印刷することが可能。

- **TIFF画像、RAW画像、動画、およびAdobe RGB（ICC）で撮影した画像は、PictBridge対応プリンタではプリントできません（プリンタと接続しても表示されません）。**
- **プリントの途中で電池がなくなると、印刷は中断されます。フル充電した電池か、別売りのACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。**

USB接続の変更

P.172の要領で、セットアップモードメニュー →「🔧1」→「USB接続」から「PTP」を選択し、実行ボタンを押します。

カメラとプリンタの接続

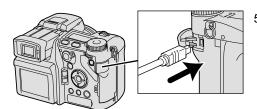
1. プリンタの電源を入れます。

2. プリンタ側で用紙設定などを行う場合は、プリンタの設定を行います。

- **用紙サイズやレイアウト等は、後でカメラ側でも設定できます。**
- **プリンタ側で日付写し込みを行う場合、カメラ側での写し込み（P.119）やDPOF指定での日付写し込み（P.159）と重ならないようにしてください。**

3.カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

4.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

5.カードスロット上のカバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- ミニプラグの△マークをカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。

右の画面が現れます。

プリント方法

以下の3通りのプリント設定方法が可能です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう →P.200

画像を確認しながら枚数を決める場合に便利です。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう →P.202

すべての画像を同一枚数プリントする場合に便利です。インデックスプリントも指定できます。また用紙設定など各種プリント設定も、このメニュー画面で行ないます。

[3] DPOF（プリント）指定を使用する →P.206

あらかじめカメラでプリントする画像を指定しておく場合に便利です。

[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう

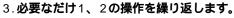
カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定やプリントを行なうことができます。画像を確認しながら、それぞれの枚数を決める場合に便利です。

1.十字キーの左右でプリントする画像を選びます。

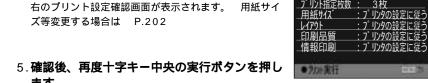
- その画像を1枚だけプリントする場合は、2、3を飛ばして、直接4の実行ボタンを押してください。

2.十字キーの上下でプリントする枚数を選びます。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3.必要なだけ1、2の操作を繰り返します。

- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal欄に表示されます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。

4.十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 右のプリント設定確認画面が表示されます。※用紙サイズ等変更する場合は →P.202

5.確認後、再度十字キー中央の実行ボタンを押します。

- プリントが始まります。

6.右の画面が現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

プリントが終了しました
確認

●表示切り替えボタンを押すと、1コマ表示とインデックス表示を切り替えることができます。→P.142

●拡大ボタンを押すと、画像の拡大再生ができます。→P.143

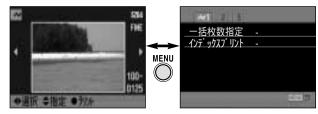
⚠ プリンターを確認してください
●で中止

●左のメッセージが現れた場合は、プリンタの問題（用紙切れなど）によりプリントできません。十字キー中央の実行ボタンを押して、いったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

●プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、設定を確認後、前ページの手順に従ってプリントしてください。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう

カメラとプリンタを接続後メニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。P.139の再生モードメニューと同じ要領で、メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1	
一括枚数指定（P.203）	全コマ 全コマ取り消し
インデックスプリント（P.204）	実行する

2	
用紙サイズ（P.205）	○プリンタの設定に従う L はがき 2L A4
用紙種類（P.205）	○1 2 3
レイアウト（P.206）	○プリンタの設定に従う フチなし1コマ／1枚 1コマ／1枚 2コマ／1枚 4コマ／1枚
印刷品質（P.206）	○プリンタの設定に従う FINE
情報印刷（P.206）	○プリンタの設定に従う なし 日付 ファイル名 日付＋ファイル名

3	
DPOF印刷（P.206）	実行する

○印は初期設定値です。

- 2はカメラ側・プリンタ側のどちらでも設定することができます。
  カメラ側にない項目については、プリンタ側で設定してください。
- プリンタによっては選択できない項目もあります。

一括枚数指定・全コマプリント

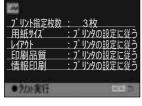
カード内のすべての画像を同一枚数プリントします。

- 動画等プリントできない画像は省きます。また、フォルダ単位でなく、すべてのフォルダの画像がプリントされます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。カード内にプリント可能な画像が51コマ以上ある場合は、50コマ以内になるよう、画像を見ながら直接プリントしてください。→P.200

1. P.139の要領で、メニューボタン →「1」→「一括枚数指定」→「全コマ」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選び、実行ボタンを押します。
- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. メニューボタンを押して、元の画面に戻ります。

4. P.200〜201の4〜6の要領で、実行ボタンを押してプリントします。

- 3ですべての画像に一括枚数指定した後、P.200の1〜3の要領で、一部の画像のプリント枚数を変更することができます。ほとんどすべての画像を1枚ずつプリントするが一部は印刷しない、などの場合に便利です。

一括枚数指定・全コマ取り消し

設定したプリント指定をすべて解除します。

1. メニューボタン →「 1」→「一括枚数指定」→「全コマ取り消し」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの左で「はい」を選び、実行ボタンを押します。

インデックスプリント

カード内のすべての画像をまとめてプリントします。

- 1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンタによって異なります。
- インデックスプリント作成後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

1. メニューボタン →「 1」→「インデックスプリント」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

2. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

- プリントが始まります。

3.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

用紙サイズ

用紙サイズを設定します。

メニューボタン →「 2」→「用紙サイズ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

用紙サイズの種類

初期設定1では、主に日本国内で使用される用紙サイズが選べます。海外で一般的な用紙サイズを選ぶこともできます。2はヨーロッパ、3は北米で一般的な用紙サイズです。

メニューボタン →「 2」→「種類」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

用紙サイズ	種類			大きさ
	1	2	3	
プリンタの設定に従う	○	○	○	
L	○			89×127mm
はがき	○			100×148mm
2L	○	○		127×178mm
A4	○	○		210×297mm
Card size		○	○	54×85.6mm
100mm×150mm		○		100×150mm
4"×6"			○	101.6×152.4mm
8"×10"			○	203.2×254mm
Letter			○	216×279.4mm

レイアウト・印刷品質・情報印刷

上記の項目をそれぞれ設定することができます。

メニューボタン →「2」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

[3] DPOF（プリント）指定を使用する

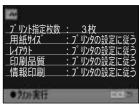
P.159のDPOF指定で設定した枚数をプリントします。カメラをプリンタに接続する前に、あらかじめ枚数を決めてカメラ側で設定しておく場合に便利です。

1.あらかじめカメラでDPOF指定（P.159）を行い、その後カメラとプリンタを接続します（P.198～199）。

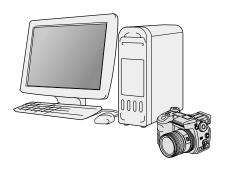
2.メニューボタン →「3」→「DPOFプリント」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

3.右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

● プリントが始まります。

4.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

パソコンへの接続

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

● セットアップモードメニュー🔧1のUSB接続が、初期設定の「マスストレージ」になっていることが前提です。→P.177

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。接続には付属のUSBケーブルUSB-500をお使いください。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP（Home／Professional）、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98／98 Second Editionがインストール済み	Mac OS 9.0〜9.2.2、Mac OS X v10.1.3〜10.1.5、10.2.1〜10.2.8、10.3〜10.3.1がインストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から「互換性情報」をご覧いただくか、弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

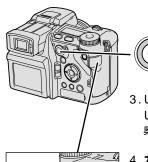
お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000、Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.209〜

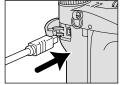
Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアーCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.220〜
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.209〜

パソコンへ接続する（USB接続）

1.パソコンの電源を入れます。

2.カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

3.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。

4.カードスロット上のカバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

- ミニプラグの△マークをカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.216の指示にしたがってください。

- USB接続中は、上面データパネルに "trns"（transfer）の文字が現れます。

- USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラの電源が切れます（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は、自動的に電源が切れることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→P.216
- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.220へ、すでにしている場合はP.221へ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルや音声ファイルも含む）を、パソコンにコピーして保存します。

- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-1Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
- カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なうことをおすすめします（P.150）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カードが使えなくなることがあります。→裏表紙「よくあるお問い合わせ」F26ページへ
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

WindowsXPの場合

1. [フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする] でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［リムーバブルディスク］を開いてください。[リムーバブルディスク] が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

2. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクのドライブ名（左図の例ではF）は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM] 以外のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

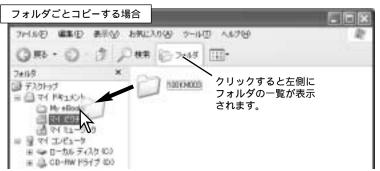
3. [100KM003] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM003] です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.182

フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。
- お使いのパソコンの設定により、[PICT0001] [PICT0001.JPG] など、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

4. 保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM003] 等のフォルダごと、[マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

フォルダごとコピーする場合

[100KM003] を
[マイ ピクチャ] に
コピーする例

パソコンに画像をコピー・保存する

※コピーの方法（ドラッグアンドドロップ）について →P.215

次ページへ続く

ファイルごとにコピーする場合

［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows2000, Me, 98, 98SEの場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

●カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（左下の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は →P.223

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

3.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

●その他のフォルダ（［MISC］等）は削除しないでください。

4.［100KM003］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM003］です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。※フォルダの詳細は →P.182

フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

●お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

次ページへ続く

5.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

［100KM003］
［PICT0001.JPG］を
［マイ ドキュメント］
にコピーする例

- 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
- ［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）

- 現れない場合は、パソコンを再起動してください。

1.デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. P.213～214の3～5の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。

- [マイ ドキュメント] の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャを利用する場合（Mac OS Xのみ）

Mac OS Xでは、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）が起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、[一部をダウンロード...] または [すべてをダウンロード] をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくはパソコンメーカーにお問い合わせください。

パソコンでのコピー方法（ドラッグアンドドロップ）

パソコンでコピーを行なうには、マウスによるドラッグアンドドロップが便利です。

1. マウスをアイコンに合わせ、左ボタンを押します。

2. 押したままマウスを移動させます（ドラッグ）。

3. コピー先を反転させ、左ボタンを離します（ドロップ）。

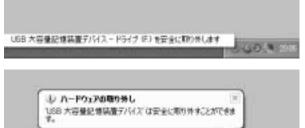
接続を解除する

必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。USB接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

メインスイッチ
アクセスランプ

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USBディスクの停止］を左クリックします。
4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USBケーブルを取り外します。
4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開ける

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ドキュメントなど）をダブルクリックして開けます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

スタンダード・ファイン・エクストラファインで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

TIFFファイル

TIFFで撮影された画像で、最後に「.TIF」が付きます。一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

RAWファイル

RAWで撮影された画像で、最後に「.MRW」が付きます。一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。付属のディマージュビューアーCD-ROM内のDiMAGE Viewerをインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル

動画撮影された画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.226

- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAVEファイル

ボイスメモで録音された音声で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

JPEファイル

Adobe RGB（ICC）でICCプロファイルを埋め込んだJPEG画像で、最後に「.JPE」が付きます。DiMAGE Viewerなどカラーマネジメントに対応したソフトを使う必要があります。→P.127

THMファイル

TIFF、RAW、MOV、JPEファイルのサムネール画像で、最後に「.THM」が付きます。動画の開始画面表示や、DiMAGE Viewerのサムネール表示用に使われます。このファイルを開く必要はありません。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアーCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

4. パソコンを再起動します。

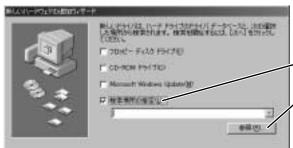
● このカメラ（DiMAGE A2）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE A2のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE A2のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.209～

接続時に追加ウィザードが現れた場合

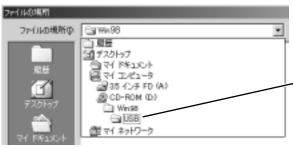
お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

次ページへ続く

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ、続き）

5. 検索場所を、[CD-ROM] ー [Win98] ー [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

9. パソコンを再起動します。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアーCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
以下の弊社ホームページも合わせてご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.209

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows XPの場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

次ページへ続く

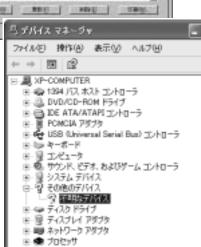
3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

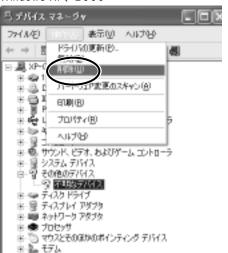
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
- 該当する項目が見つからない場合は、P.209の要領でカメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows XP、2000、Meの場合は、この後P.209の要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows 98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし(P.220)、その後再度USB接続を行ないます(P.209)。

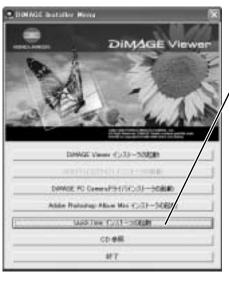
QuickTimeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアーCD-ROMからインストールしてください。

QuickTime 6 動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 128MB以上の実装メモリ
- Windows 98/Me/2000/XPオペレーティングシステム

- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

インストール方法

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [QuickTimeインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストールの種類は「基本的なインストール」を選択してください。「最小限のインストール」だと、DiMAGE Viewerでの動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. ［ファイル（F）］から［新規 Player でムービーを開く…（O）］を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、［開く（O）］をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

● 動画の再生時には、
画面両端にわずかに黒い帯が現れます。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

画像送信

市販のCFカード型PHS等を使用すれば、撮影した画像を外出先からパソコンを使わずに直接送信することができます（日本国内のみ）。2003年12月現在、このカメラで使用可能な機種は以下の通りです。

CF型PHS

NTT DoCoMo　P-in memory、P-in m@ster、P-in Comp@ct
DDI Pocket　AirH" Card petit [RH2000] [CFE-02] [AH-N401C]
C@rdH" 64 petit [CFE-01] [CFE-01/TD]

CFモデムカード

TDK　DF56CF

CF型PHSについて

PHSを利用した通信カードでは、標準規格であるPIAFS方式のアクセスポイントに対応していますが、移動通信事業者が提供するPTE（プロトコル変換装置）経由の通信サービスまたはパケット方式には対応しておりません。

- P-in m@sterは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）に対応していますが、携帯電話／DoPaによる9600bps通信やパケット通信には対応しておりません。
- AirH" Card petitは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）に対応していますが、パケット方式やフレックスチェンジ方式には対応しておりません。
- P-in memoryは通信機能に対応していますが、16MBの内蔵メモリを使用することはできません。

画像送信手順

画像を送信するためには、あらかじめ送信先やプロバイダなどの通信情報をカメラに設定しておく必要があります。具体的には以下の手順となります。

1. 付属のディマージュビューアーCD-ROMから、通信設定ウィザードをパソコンにインストールする。→P.230（Windows）、P.232（Macintosh）

2. CFカードを入れたカメラをパソコンに接続する。→P.209

3.通信設定ウィザードを起動させ、送信先やプロバイダなどの通信情報をパソコンで入力する。→P.234～238

● 通信情報はカメラ内のCFカードに記録されます。

4.カメラとパソコンの接続を解除する。→P.216～217

5.カメラ内のCFカードの通信情報を、カメラ本体に転送する。→P.239

● 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

6.外出先等で、画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信する。→P.240～244

● 送信時に画面の指示に従い、CFカードを抜いて上記のCF型PHSまたはCFモデムカードを入れてください。

通信設定ウィザードのインストール ― 動作環境

通信設定ウィザードをインストールして通信の設定を行なうためには、以下の動作環境が必要です。

IBM PC/AT 互換機	CPU	Intel Pentium 133MHz以上
	OS	Windows XP（Home／Professional）、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98／98 Second Edition
	モニター	VGA（640×480）以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要
Apple Macintosh	CPU	PowerPC 100MHz以上
	OS	Mac OS 8.6～9.2.2、Mac OS X v10.1.3～10.1.5、10.2.1～10.2.8 10.3～10.3.1
	モニター	640×480以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要

● USB接続の動作環境についてはP.208を、DiMAGE Viewerをお使いになる場合の動作環境についてはDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

通信設定ウィザードのインストール ― Windowsの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード（通信設定ソフト）のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

- コンピュータウイルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Windows XP／2000をお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. ［DiMAGE Viewer インストーラの起動］をクリックします。

3.「DiMAGE Viewer用のInstallShieldｳｨｻﾞｰﾄﾞへようこそ」の画面が現れたら、［次へ>］をクリックします。

4. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は［はい］をクリックします。

- 同意しない場合、［いいえ］をクリックしてください。インストールは中止されます。

5. インストール先の選択画面が現れたら、インストール先を確認し、［次へ>］をクリックします。

- 初期設定では、起動ディスクドライブの"Program Files"の中にインストールされます。変更する場合は、［参照...］をクリックし、インストール先のフォルダを指定した後、［OK］をクリックしてください。

6.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、[次へ>] をクリックします。

- [DiMAGE Viewer ＋ 通信設定ウィザード] または [通信設定ウィザードのみ] を選択してください。
- DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。

フォルダ名を変更するときはここに入力
既存のフォルダに追加するときはここで選択

7.アイコンを追加するフォルダ名が表示されます。場所を確認し、[次へ>] をクリックします。

- インストールが開始されます。
- 初期設定では、画面左下の [スタート] ― [プログラム] の中に [DiMAGE Viewer] フォルダが作成されます。

8.インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

9.1の画面（前ページ）に戻ったら、[終了] をクリックします。

画像送信

次はカメラをパソコンに接続し（P.209）、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します（P.234～）。

通信設定ウィザードのインストール ― Macintoshの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード（通信設定ソフト）のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

- コンピュータウイルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Mac OS Xをお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。

1. ディマージュビューアーCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 自動的にCD-ROMの内容が表示されます。

2. [Utility] をダブルクリックして開きます。

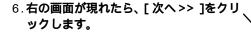
for OSX

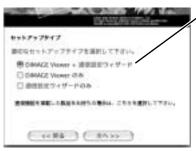
3. お使いのMac OSのフォルダをダブルクリックして開きます。

- Mac OS 8.6の場合は、OS9をお使いください。（8.6ではDiMAGE Viewerはサポートしていません。）

4. [Japanese] をダブルクリックして開きます。

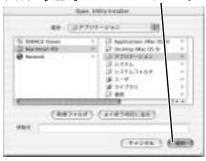
5. [Installer] をダブルクリックします。

6. 右の画面が現れたら、[次へ>>] をクリックします。

7. 使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は [はい] をクリックします。

- 同意しない場合、[いいえ] をクリックしてください。インストールは中止されます。

8.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、[次へ>>] をクリックします。

- [DiMAGE Viewer + 通信設定ウィザード] または [通信設定ウィザードのみ] を選択してください。
- DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。

9.インストール先の選択画面が現れたら、[参照] をクリックしてインストール先を指定します。

- 下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の [選択] をクリックしてください。

10.指定後、画面下の [次へ>>] をクリックします。

- インストールが開始されます。

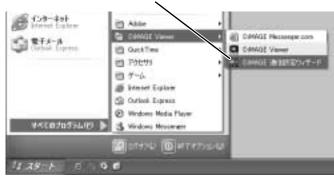
11.インストールが完了したら [完了] をクリックします。

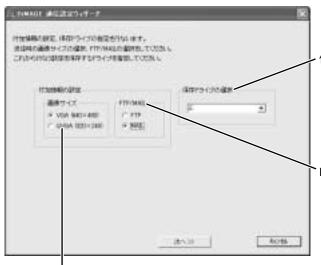
次はカメラをパソコンに接続し（P.209）、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します（P.234～）。

通信情報の設定

パソコンにインストールしたDiMAGE通信設定ウィザードを用いて、送信先等の通信情報をCFカードに記録します。

1. カメラとパソコンを接続し、USB接続を実行します。→P.209

2. Windowsの場合、［スタート］→［プログラム(P)］→［DiMAGE Viewer］から［DiMAGE 通信設定ウィザード］を起動させます。

Macintoshの場合、「DiMAGE Viewer」フォルダをダブルクリックして開き、「通信設定Wizard」をダブルクリックして起動させます。

3.以下の付加情報およびドライブ情報の設定を行ない、[次へ>>] をクリックします。

保存ドライブの指定
CFカードのドライブを選択します。
※内蔵ハードディスク等にいったん通信情報を保存する場合は →P.245

FTP/MAIL
Eメールで送信する場合は「MAIL」、FTPサーバーにアップロードする場合は「FTP」を選択します。

送信画像サイズ
VGAを選ぶと640×480、QVGAを選ぶと320×240の画像サイズに自動的に変換されて送信されます。
TIFF画像とRAW画像は自動的にJPEG画像に圧縮されます。

次ページへ続く

4.以下のプロバイダ情報の設定を行ないます。

トーン／パルス
CF型PHSの場合、どちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

IPプロトコルヘッダの圧縮有無
通常は「無」を選択します。「有」を選択する場合はプロバイダでサポートされているかご確認ください。

通常はチェックを入れます。内線電話等でダイヤル待ちでは送信できない場合は、チェックを外してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

プロバイダ情報
入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。

プロバイダ名：　プロバイダ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
ホスト名：　ホスト名など任意の文字最大64文字までを入力します（例：DiMAGE）。
電話番号：　プロバイダのアクセスポイントを入力します。3ヵ所までの登録が可能です（1は必須）*。-（ハイフン）は使用できますが、( )（カッコ）や#は使用できません。
PIAFS設定速度：　CF型PHSの場合、チェックを入れて通信速度を選びます。
ユーザ名：　プロバイダから支給されるユーザーID（接続ID）を入力します。
パスワード：　プロバイダに登録したパスワードを入力します。
ﾌﾟﾗｲﾏﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：　プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します。
ｾｶﾝﾀﾞﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：　プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します（省略可能）。

*アクセスポイントは、送信時にカメラ側であと1つ追加することもできます。

5.設定が完了すると [次へ>>] をクリックします。前ページの3でEメール送信を選んだ場合は次ページへ、FTPを選んだ場合はP.238へお進みください。

6. P.235の3でメール送信を選んだ場合は、以下のメール情報の設定を行ないます。

メール送信先情報
送信先アドレスと送信先名を入力します。4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。
半角英数字と半角記号のみ使用可能、送信先名は最大8文字まで入力可能です。

メール送信元情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

SMTPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPユーザ名：	プロバイダから支給されるPOP（受信サーバ）のユーザーIDを入力します。
POPパスワード：	プロバイダに登録したPOP（受信サーバ）のパスワードを入力します。
送信元アドレス：	送信者のメールアドレスを入力します。
表題：	メールの表題（タイトル）を入力します。最大64文字までの入力が可能です。

7. [設定完了] をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

※USB接続が切断される場合は →P.239

次はUSB接続を解除し（P.216）、カードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します（P.239）。
（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

画像送信

6. P.235の3でFTP送信を選んだ場合は、以下のFTPサーバ情報の設定を行ないます。

● FTPサーバ情報は、4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。

FTPサーバ
FTP＝File Transfer Protocolの略。インターネット上でファイルの送受信をするときに使われる通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。このカメラの場合、多数の人に画像を見てもらう必要があるときに、FTPサーバに画像を保存し、そのIPアドレスまたはURLを知らせてアクセスしてもらうことが可能です。

FTPサーバ情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

FTPサーバ愛称： FTPサーバ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
FTPサーバ： FTPサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択、必要ならばディレクトリも入力します。
ユーザ名： ユーザーIDを入力します。最大64文字までの入力が可能です。
パスワード： パスワードを入力します。

7. ［設定完了］をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

※USB接続が切断される場合は →次ページ

次はUSB接続を解除し（P.216）、カードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します（次ページ）。
（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

［設定完了］をクリックするとUSB接続が切断される場合は
入力した情報がCFカードに記録されていません。P.235のドライブ情報の設定時に、CFカードに直接情報を記録するのでなく、いったん内蔵ハードディスク等に保存してからそれをCFカードにコピーする方法（P.245）をお試しください。

通信情報のカメラへの転送（設定読み込み）

コンパクトフラッシュカード（CFカード）に記録した通信情報を、カメラ本体に転送します。

P.146の要領で、再生モードメニュー →「ℳ」→「設定読み込み」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

● 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

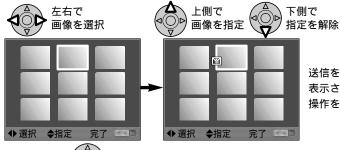
次は、画像の送信を行ないます。

画像の送信

CFカード内の画像を、登録したメールアドレスまたはFTPサーバーに送信します。

1.送信したい画像の入ったCFカードをカメラに入れます。

2.送信する画像を選びます。
P.146の要領で、再生モードメニュー →「〜」→「コマを指定」から「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

3.十字キーで送信する画像を選びます（続き）。

送信を指定したコマには✉が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

中央で指定を完了

●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。
●動画の送信はできません（選択できません）。

4.送信先を選びます。
「〰」→「送信先」から希望の送信先を選択します。

メール送信の場合

- 十字キー右側で送信先を指定します。複数の指定も可能です。
- もう一度十字キー右側を押すと、送信先の指定を解除します。
- 送信先指定後は、十字キー中央または左側で戻ります。

FTP送信の場合

- 十字キー中央で送信先を指定します。一度に1ヵ所しか送信できません。

5.アクセスポイントを選びます。
「〰」→「アクセスポイント」から希望のアクセスポイントを選択し、実行ボタンを押します。

- アクセスポイント4ヵ所のうち、パソコン（通信設定ウィザード）で設定したところは上3ヵ所に表示されます。一番下のアクセスポイントはカメラで設定することができます。一番下を選んで中央の実行ボタンを押すと、アクセスポイント入力画面になります。 →P.244
- 10桁以上の番号の場合は、P.243の送信確認画面で番号を確認することができます。

6.各種のダイヤル設定を選びます。
「〰」→「ダイヤル設定」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

次ページへ続く

7. 十字キーで各種ダイヤル設定を選びます（続き）。

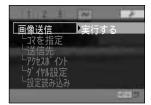
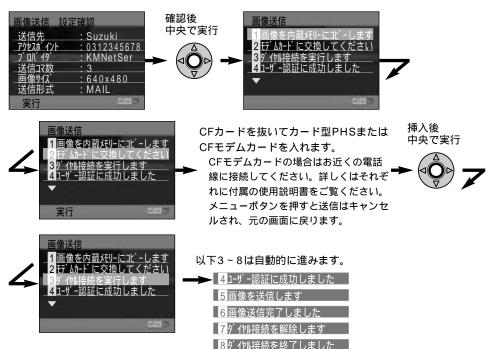
- 十字キーの左右で希望の設定を選択し、中央を押して決定します。
- メニューボタンを押すと前に戻ります。

外線発信のない場合
ダイヤル設定終了、送信実行へ →8へ

外線発信のある場合
キーボードで外線発信番号選択（P.244）、その後8の送信実行へ

- トーン／パルスとダイヤル待ちについては、P.236で設定した内容が最初に表示されます。個別に変更する場合はここで変更することができます。
- トーン／パルスについては、CF型PHSの場合はどちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。

8. 画像を送信します。

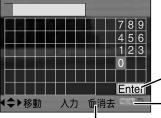
「〰」→「画像送信」→「実行する」を選択し、実行ボタンを押します。

9.十字キーで画像を送信します（続き）。

送信画面が途中で止まった場合は

送信時、電波状態の良くない場所では送信ができず、「画像を送信します」のメッセージのまま止まってしまうことがあります。このような場合は、カメラのメインスイッチをいったんOFFにして、もう一度送信し直してください。OFFにしても画面が消灯しない場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。

アクセスポイント／外線発信番号の入力方法

4番目（一番下）のアクセスポイントおよび外線発信を選択すると、以下の画面が現れます。

● アクセスポイントは、2番目または3番目を設定していなくても4番目を設定することができます。

十字キーの上下左右で番号を選択し、中央の実行ボタンで番号を1つずつ確定します。

入力が終わるとEnterを選び、中央の実行ボタンを押します。

メニューボタンを押すとキャンセルされます。

QV▶/🗑 ボタンを押すと消去します。

通信情報をいったんハードディスクに保存し、その後CFカードに転送する方法

P.228～229では、カメラとパソコンを接続して、カメラ内のCFカードに通信情報を直接保存する方法を説明しています。CFカードに直接保存するのでなく、いったんパソコンの内蔵ハードディスク等に通信情報を保存し、後でパソコンとカメラを接続してCFカードにコピーすることもできます。

1. カメラとパソコンを接続していない状態で、DiMAGE通信設定ウィザードを起動させ、必要な通信情報を設定します。→P.234～238
   - P.235の3で保存ドライブを指定する際、希望するハードディスク等を選んでください。
   - 通信情報は"inetSet.txt"という名前のテキストファイルとして保存されます。
2. CFカードを入れたカメラとパソコンとを接続します。→P.209
3. 保存した"inetSet.txt"をカメラ内のCFカードにコピーします。
   - CFカードの一番上の階層にコピーしてください（"DCIM"フォルダや"MISC"フォルダの中には入れないでください）。
4. CFカードの情報をカメラ本体に転送します。→P.239
5. 画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信します。→P.240～

Adobe Photoshop Album Mini

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini（アドビ フォトショップ アルバム ミニ）をインストールすることができます。［Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

Adobe Photoshop Album Miniは、デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正をしたりすることができます。

また、インターネットに接続することにより、弊社のオンラインラボサービスを利用して、撮影した画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムへ画像を保管したりすることができます。

弊社のオンラインラボ（http://onlinelab.jp/）へアクセスすると、上記の他にも様々なサービスが楽しめます。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

ディマージュPCカメラ

付属のディマージュビューアーCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、［DiMAGE PC cameraドライバインストーラの起動］が選択できますが、これは他のディマージュカメラの機能であり、DiMAGE A2でお使いになることはできません。

その他

焦点距離換算表

このカメラの実焦点距離を、35mmフィルム換算の焦点距離に当てはめると以下の通りになります。

実焦点距離	7.2	9	13	21	27	34	38	50.8
35mmフィルム換算焦点距離	28	35	51	83	106	134	149	200

リセット・登録一覧表

○ リセットされるもの／登録できるもの
× リセットされないもの／登録できないもの
― 該当なし

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット (P.117)	動画ﾓｰﾄﾞリセット (P.170)	設定値リセット (P.190)	登録 (P85)	ﾍﾟｰｼﾞ
画面表示	撮影データあり 標準	○	×	×	○	○	45 46
露出補正	±0	○	○	○	○	○	52
調光補正	±0	○	○	―	○	○	54
デジタルズーム	解除	○	○	―	○	×	55
手ぶれ補正	作動	○	○	○	○	×	56
ドライブモード	1コマ撮影	○	○	―	○	○	66
ブラケット撮影	連続露出ブラケット	○	×	―	○	○	67
連続撮影	(通常)連続撮影	○	×	―	○	○	70
インターバル撮影	静止画のみ	○	×	―	○	○	73
セルフタイマー撮影	10秒セルフタイマー	○	×	―	○	○	76
ホワイトバランス	オート(自動設定)	○	○	○	○	○	78
プリセットホワイトバランスの微調整	0	○	○	○	○	○	79
カスタムホワイトバランス	昼光	○	×	×	○	○	80
撮像感度	オート(自動設定)	○	×	―	○	○	82
測光モード	多分割測光	○	○	―	○	○	83
登録	未登録状態(ﾌﾙｵｰﾄ)	×	×	―	○	―	85
コントラスト補正	±0	○	○	○	○	○	89
彩度補正	±0	○	○	○	○	○	90
フィルター効果(ｶﾗｰ)	±0	○	○	○	○	○	90
フィルター効果(ﾓﾉｸﾛ)	0	○	○	―	○	○	90
フォーカスエリア	ワイド	○	○	―	○	○	91

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞ リセット (P.117)	動画ﾓｰﾄﾞ リセット (P.170)	設定値 リセット (P.190)	登録 (P.85)	ﾍﾟｰｼﾞ
シーンセレクター	—	—	×	—	×	×	48
マクロ撮影	—	×	×	×	×	×	50
露出モード	—	—	×	—	×	○	57
フォーカスモード	—	×	×	×	×	×	92
モニターとEVFの切替	—	×	×	×	×	×	95
視度調整	—	×	×	×	×	×	99

撮影モードメニュー

画像サイズ	3264×2448	○	×	—	○	○	102
画質	ファイン	○	×	—	○	○	104
フラッシュモード	通常発光	○	○※	—	○	○	108
調光モード	ADI調光	○	○	—	○	○	114
内蔵マニュアル発光	1/4	○	×	—	○	○	115
AEロックボタン	押す間AEロック	○	×	—	○	×	116
インターバル撮影間隔	1分	○	×	—	○	○	73
インターバル撮影枚数	2枚	○	×	—	○	○	73
インターバル撮影開始	今から	○	×	—	○	○	73
ブラケット設定	0.3段	○	×	—	○	○	118
写し込み	なし	○	×	—	○	×	119
写し込み場所	画像上＋Exif	○	×	—	○	×	122
アフタービュー	なし	○	×	—	○	×	123
ボイスメモ	なし	○	×	—	○	×	124
カラーモード	ナチュラル（sRGB）	○	×	—	○	○	126
シャープネス	標準	○	○	—	○	○	129
ノイズリダクション	あり	○	×	—	○	×	130
モニター自動感度アップ	あり	○	×	—	○	×	130
Mモード時のモニター	露出設定に従う	○	×	—	○	×	131
拡大ボタン	デジタルズーム	○	×	—	○	×	132

※ 通常発光または赤目軽減発光になる。後幕シンクロとワイヤレスは解除。

項目	リセット内容	AUTO撮影 (P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット (P.117)	動画ﾓｰﾄﾞリセット (P.170)	設定値リセット (P.190)	登録 (P.85)	ﾍﾟｰｼﾞ
シーンセレクター設定	シーン選択	○	×	—	○	×	134
自動追尾AF	あり	○	×	—	○	×	135
半押しAEロック	標準	○	×	—	○	×	135
スポット測光エリア	中央固定	○	×	—	○	×	136
DMF	なし	○	×	—	○	×	137
EVFモード	高精細30fps	○	×	—	○	×	138

再生モードメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影	撮影ﾓｰﾄﾞリセット	動画ﾓｰﾄﾞリセット	設定値リセット	登録	ﾍﾟｰｼﾞ
画面表示	撮影データあり	—	—	—	○	—	141
インデックス画面	9コマ	—	—	—	○	—	156
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	—	—	—	○	—	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	—	—	—	○	—	158
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	なし	—	—	—	○	—	158
DPOF指定	—	—	—	—	×	—	159
日付プリント	—	—	—	—	×	—	162
インデックスプリント	—	—	—	—	×	—	162
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	—	—	—	○	—	228–245

動画撮影モードメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影	撮影ﾓｰﾄﾞリセット	動画ﾓｰﾄﾞリセット	設定値リセット	登録	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	544×408	—	—	○	○	—	168
フレームレート	15fps	—	—	○	○	—	168
ナイトムービー	自動	—	—	○	○	—	169

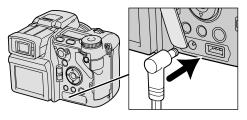
セットアップモードメニュー

項目	リセット内容	AUTO撮影(P.35)	撮影ﾓｰﾄﾞリセット(P.117)	動画ﾓｰﾄﾞリセット(P.170)	設定値リセット(P.190)	登録(P85)	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	×	×	×	○	×	175
EVF明るさ	標準	×	×	×	○	×	175
USB接続	マスストレージ	—	—	—	○	—	177
EVFオート設定	EVF/モニタ切り替え	×	×	×	○	×	178
ビデオ出力形式	—	—	—	—	×	—	179
言語設定	—	×	×	×	×	×	180
CUSTの機能	プレビュー	○	×	—	○	×	180
ファイルNo.メモリー	なし	—	—	—	○	—	188
フォルダ形式	標準形式	—	—	—	○	—	186
日時設定	—	—	—	—	×	—	189
操作音	音1	×	×	×	○	×	192
AF音	音1	×	×	×	○	×	192
シャッター音	音1	×	×	×	○	×	192
音量	2	×	×	×	○	×	192
パワーセーブ	3分	×	×	×	○	×	193
手振れ補正	標準	×	×	×	○	×	193
フルタイムAF	なし	×	×	—	○	×	194
グリップセンサー	有効	×	×	×	○	×	194
PASﾓｰﾄﾞ時のﾀﾞｲﾔﾙ	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	×	×	—	○	×	195
Mﾓｰﾄﾞ時のダイヤル	前:ｼｬｯﾀｰ　後:絞り	×	×	—	○	×	196
消去確認画面	"いいえ"が先	—	—	—	○	—	197
コンバーター	なし	×	×	×	○	×	174

別売りアクセサリー

ここでは代表的なアクセサリーについて紹介しています。本使用説明書の作成後に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

ACアダプターAC-1L／外部電源パックEBP-100

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご利用になれます。
リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。

接続するときは、メインスイッチでカメラの電源を切ってから、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

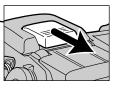
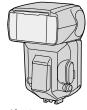
● 外すときも、電源を切ってから外してください。

バッテリーパックBP-400

専用リチウムイオン電池2個（1個での使用も可能）または単3形電池6本（アルカリ電池およびニッケル水素電池）が使用できます。カメラをしっかりホールドできるホールディングストラップと、縦位置用のシャッターボタンも装備しています。

プログラムフラッシュ5600HS（D）／3600HS（D）／2500（D）

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。

プログラムフラッシュ
5600HS(D)

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置（照射角）はカメラの35mmフィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24mmの表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
- 3600HS（D）でワイドパネルを取り付ける場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。→P.114
- 2500（D）でADI調光を行なうには、カメラの撮影モードメニューの調光モード（P.114）と、フラッシュの調光モード切り替えスイッチの両方をADI調光に設定してください。どちらか片方または両方がP-TTL（またはTTL）だと、P-TTL調光になります。また2500（D）でバウンス撮影を行なう場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。

マクロツインフラッシュ2400／マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

- これらのフラッシュ使用時は、テレマクロの使用をおすすめします。ワイドマクロだと画面周辺が暗くなることがあります。

クローズアップディフューザーCD-1000

内蔵フラッシュで手軽にマクロ撮影するときに便利です。内蔵フラッシュの前に拡散板を取り付けることにより、フラッシュの光をやわらげ、影を目立たせなくします。

リチウムイオン電池充電器BC-400用 ACコード

リチウムイオン電池充電器BC-400の本体は全世界でご使用になれますが、付属のACコードはAC100V～120V仕様で、日本、アメリカ、カナダ等のみで使用が可能です。他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは弊社コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト（http://ca.konicaminolta.jp/）の「よくあるご質問」でもご覧いただけます。

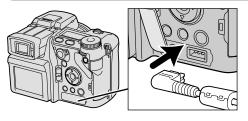
地域	ACコード
日本向け（100～120V仕様） ※アメリカ、カナダなどではそのままお使いいただけます	ACコードAPC-140（付属品）
ヨーロッパ（イギリスを除く）、中国、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-110（別売り）
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコードAPC-120（別売り）

フィルター関連アクセサリー

フィルター等を使用する場合は、49mm径、または49mm→62mmのフィルターアダプターと62mm径を組み合わせてお使いください。49mm→55mmのフィルターアダプターは、リングやフィルターの一部が画面に写り込むのでご使用になれません。

● PL（円偏光）フィルター
49mm径は、焦点距離50mm（35mmフィルム換算）未満でフィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。62mm径をフィルターアダプターと組み合わせて使用されることをおすすめします。

● クローズアップレンズ
No.0／No.1は焦点距離50mm（35mmフィルム換算）未満、No.2は100mm未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。

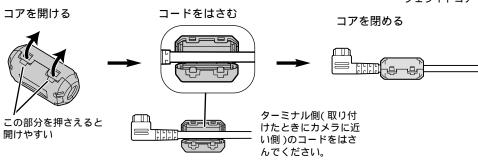
リモートコードRC-1000S／1000L

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（P.97）等、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、端子カバーを外して、リモートレリーズターミナルにコードを接続します。

フェライトコアの取り付け

このカメラでリモートコードを使用する場合は、カメラによる電波障害を軽減するため、付属のフェライトコアをコードに取り付ける必要があります。以下の要領で、リモートコードのターミナル側のコード上に取り付けてください。

フェライトコア

別売りアクセサリー

その他

下記のようなケースやストラップ、予備のリチウムイオン電池もご用意しております。詳しい情報については、裏表紙「よくあるお問い合わせ」F27ページ記載の弊社ホームページをご覧ください。

- カメラケース CS-DG7
- 本革ネックストラップ NS-DG1000
- ディマージュネックストラップ（インディゴブルー）NS-DG2000
- ディマージュネックストラップ（グレー）NS-DG3000
- バッテリーパック BP-400・ホールディングストラップ HS-2
- リチウムイオン電池 NP-400
- SDメモリーカード用コンパクトフラッシュアダプター SD-CF1
- ワイドコンバーター ACW-100
- テレコンバーター ACT-100
- DiMAGE Capture for DiMAGE A2（DiMAGE A2用ディマージュキャプチャー、パソコンからカメラを操作するためのソフトウェア）

取り扱い上の注意

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
  2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4.. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

- マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶画面について

- 液晶モニターとファインダー（EVF）は精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される画像には影響はありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 上面データパネルの液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品および充電器の修理に関しては、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお持ち込みいただくか、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵AE/AFレンズ一体型一眼レフタイプデジタルカメラ
有効画素数	約800万画素（3272×2456）
撮像素子	2/3型総画素約830万画素インターレーススキャンCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 64、100、200、400、800相当
画面アスペクト比	4：3、3：2（画像サイズ最大時のみ）
レンズ構成	13群16枚
焦点距離	7.2〜50.8mm（35mmフィルム換算：28〜200mm相当）
開放絞り値	F2.8〜F3.5
絞り設定範囲	広角：F2.8〜F11、望遠：F3.5〜F11、1/3Evステップ
撮影距離	0.5m〜∞（CCD面から） マクロ時：ワイド端：30〜60cm（CCD面から）、テレ端：25〜60cm（CCD面から） 最大撮影倍率：0.177（35mmフィルム換算：0.7倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約52×39mm ワイドマクロ時の被写体サイズ：約283×213mm
ズーム方式	手動ズーム
フィルター径	49mm
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	AF：ワンショットAF、コンティニュアスAF、フルタイムAF、動体追随AF MF：可能、フレックスデジタルマグニファイヤー（拡大率3.3倍）機能付き
ホワイトバランス	オート、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天、日陰、フラッシュ、カスタム（1〜3）
測光方式	多分割測光（300分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
露出制御範囲	P/Aモード：広角：Ev−1.7〜20、望遠：Ev−1.2〜20.7 S/Mモード：広角：Ev−2〜19、望遠：Ev−1.4〜19
シャッター	CCD電子シャッターとメカニカルシャッターを併用　シャッター速度：BULB、30〜1/4000秒（S/Mモードでは1/2000秒まで）　最長速度は撮像感度によって異なる
露出モード	P（プログラムシフト可能）、A、S、M
シーンセレクター	ポートレート、スポーツ、夕景、夜景ポートレート・夜景
デジタルエフェクトコントロール	彩度補正、コントラスト補正、フィルター効果が選択可能
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）
フラッシュ制御方式	ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュモード	通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレス
内蔵フラッシュガイドナンバー	約8（ISO 100、m）
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5〜3.8m、望遠：約0.5〜3.0m（CCD面から、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約5秒

調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
ファインダー形式	TTL電子ビューファインダー（EVF）、チルト可能（0～90°） モニター自動感度アップ機能、電子マグニファイヤー機能
ファインダー画像表示液晶	対角11mm（0.44型）カラーフィルター方式VGAフルカラーディスプレイ 総画素：92.2万画素
ファインダー視野率	約100%
アイポイント	19.5mm（－1ディオプターにおいて、保護ガラスより）
対角視野率	約32°
視度調整	あり　－3.5～＋1.5ディオプター
表示切り替え機能	AUTO、EVF、液晶モニター切り替え可能　高精細モード＆なめらかモード
A/D変換bit数	12 bit
内蔵メモリ	64MB
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ）　マイクロドライブ（170MB、340MB、512MB、1GB）　SDカード（SD-CF1使用時）
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、RAW、Motion JPEG（MOV）、WAVE DCF 2.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能に対応
Exif Print	対応（Exif 2.21）
PRINT Image Matching Ⅱ	対応
PictBridge	対応
カメラカラースペース	sRGB、Adobe RGB
カラーモード	ナチュラル（sRGB）、ビビッド（sRGB）、Adobe RGB（ICCあり／なし）、モノクロ、ソラリゼーション
シャープネス	ソフト、標準、ハード
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり（クイックフォーマットのみ）
データ写し込み機能	なし、年月日、月日時刻、文字（英数字・記号、最大16文字、カタカナ・欧文字対応）、文字＋通し番号（合計最大16文字）
液晶モニター	対角46mm（1.8型）低温ポリシリコンTFTカラー　チルト可能（－20～90°）　モニター画素数：11.8万画素　視野率：約100%
連続撮影	連続撮影：ワンショット：1.8コマ／秒　コンティニュアス：1.9コマ／秒（AF・AE・ライブビュー表示連動） Hi連続撮影：2.7コマ／秒 UHS連続撮影：7コマ／秒

主な性能（続き）

ブラケット撮影	露出ブラケット：露出ずらし量：0.5Ev、0.3Ev選択可　枚数：3枚 デジタルエフェクトブラケット：コントラスト、彩度、フィルター効果　ずらし量：一定　枚数：3枚
インターバル撮影	間隔：30秒、1～10、15、20、30、45、60分　枚数：2～240枚　起動タイマー付き（設定時間：0.5～24H、0.5Hステップ）
動画	通常動画、ナイトムービー（共に最大15分）インターバル動画 記録画素数（1フレームあたり）：通常動画・ナイトムービー：544×408、320×240　インターバル動画：640×480 フレームレート：通常動画・ナイトムービー：15/30フレーム／秒　インターバル動画：再生時4フレーム／秒 音声：通常動画・ナイトムービー：あり（モノラル）　インターバル動画：なし
音声	ボイスメモ（15秒）　ファイル形式：WAVE　モノラル
デジタルズーム	静止画：2倍　動画：なし
操作音	各操作時、レリーズ時シャッター音、AF音 操作音・レリーズ音・AF音それぞれ2種類から選択可能
使用電池	本体：専用リチウムイオン電池1本
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続再生時間	連続再生：約240分　当社試験条件による（液晶モニターのみ、専用リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約280コマ　CIPA準拠（液晶モニターのみ、専用リチウムイオン電池とLexar 24倍速256MB CFカード使用、画像サイズ3264×2448、画質ファイン、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50%）
モデム通信	可能　電送インターフェース：CFモデムカード（一般回線用：TDK DF56CF)、CF型PHS（NTT DoCoMo P-in Comp@ct、P-in m@ster、P-in memory　DDI POCKET AirH" Card petit、C@rdH" 64 petit）
PC用インターフェース	USB 2.0 Hi-speed
大きさ	117（幅）× 85（高さ）× 113.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約565g（電池、CFカード別）

リチウムイオン電池 NP-400

電圧	7.4V
容量	1500mAh
大きさ	56 × 39.5 × 21mm
質量（重さ）	約85g

リチウムイオン電池充電器 BC-400

入力電圧	AC100～240V*
入力周波数	50／60Hz
入力容量	10～20VA
充電出力	DC8.4V 700mA
充電時間	約150分
大きさ	65 × 90 × 30mm
質量（重さ）	約86g（電池別）

*充電器に付属のACコードはAC100V仕様です。※海外で使用する場合は →P.254

バッテリーパック BP-400（別売り）使用時

撮影可能コマ数	リチウムイオン電池NP-400　2個使用：約560コマ ニッケル水素電池（2100mAh）　6本使用：約290コマ CIPA準拠（液晶モニターのみ、画像サイズ3264×2448、画質ファイン、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50%）
連続再生時間	リチウムイオン電池NP-400　2個使用：約480分 ニッケル水素電池（2100mAh）　6本使用：約270分 当社試験条件による（液晶モニターのみ）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

アイセンサー　179
赤目軽減発光　109
明るさ調整（液晶ﾓﾆﾀｰ／ﾌｧｲﾝﾀﾞｰ）　175
アクセサリー　252
アクセスランプ　30
後幕シンクロ　109
アフタービュー　123
インターバル撮影　73
インターバル動画　75
インデックス再生　142、156
インデックスプリント　162
写し込み　119
ウルトラハイスピード連続撮影　72
液晶モニター（明るさ調整）　175
液晶モニター（角度調整）　33
液晶モニター／ファインダーの切り替え　95
エクストラファイン　105
オート撮影　35
オートフォーカス　92
オートホワイトバランス　78
音声付き画像（ボイスメモ）　124、140
音量　190

か

カード（入れ方、出し方）　29、30
拡大再生　143
拡大ボタン　55、132、143
画質　104
カスタムホワイトバランス　80
画素　102
画像サイズ　102
画像サイズ（動画）　168
画像数　34、106
画像送信　228～245
カラーモード　126
クイックビュー　42
グリップセンサー　179、194
クローズアップディフューザー　253
言語設定　180
誤消去防止　152
コピー（画像）　154
コンティニュアスAF　93
コントラスト補正　89
コンバーター　174
コンパクトフラッシュカード（入れ方）　29、30

さ

再生フォルダ　151
再生モードメニュー　146
彩度補正　90
撮影画像数　34、106
撮影フォルダ　184
撮影モードメニュー　100
撮影モードリセット　117
撮像感度　82
サムネール　219
シーンセレクター　48
自動再生（スライドショー）　157
自動追尾AF　135
視度調整　99
絞り優先モード　59
シャープネス　129
シャッター音　192
シャッター速度優先モード　60
充電　25
消去（画像）　148

消去確認画面　197
焦点距離（換算表）　247
ショートカット一覧　176
初期化　150
シンクロターミナル　99
ズームリング　36
スタンダード　105
スポーツ　49
スポットAEロック　116
スポット測光　83、84
スポット測光サークル（エリア）　84、136
スライドショー　157
ずらし（ブラケット）撮影　67
設定値リセット　190
セットアップモードメニュー　172
セルフタイマー撮影　76
操作音　192
測光モード　83
ソラリゼーション　3、128

た

ダイレクトマニュアルフォーカス　137
縦再生　141
多分割測光　83、84
中央重点的平均測光　83、84
調光距離　41、82
調光補正　54
調光モード　114
長時間露光　97
通信設定ウィザード　229～
ディマージュキャプチャー　177、256
ディマージュビューアー　15、127、218
デジタルエフェクトコントロール　88
デジタルエフェクトブラケット　69
デジタルズーム　55
手ぶれ補正　56、193
テレビで見る　145
テレマクロ撮影　50
電子ビューファインダー　32
電池（入れ方）　26
電池（容量の確認）　27
動画再生　167
動画撮影　165
動画モードリセット　170
登録　85、134
ドライブモード　66

な

内蔵フラッシュ撮影　40
内蔵マニュアル発光　115
ナイトムービー　169
ナチュラル　126
日時設定　189
ノイズ　83
ノイズリダクション　130

は

バッテリーパック　252
バルブ撮影　97
パワーセーブ　28、193
半押し（シャッターボタン）　36
ピクトブリッジ　177、198～206
ヒストグラム　45、47、142
日付形式フォルダ　186
日付プリント　162
ビデオ出力形式　179
ビビッド　3、126
ファイルサイズ　106
ファイルNo.メモリー　188
ファイル名・ファイル番号　183
ファイン　105
ファインダー（明るさ調整）　175
ファインダー（角度調整）　32

ファインダー／液晶モニターの切り替え　95
ファンクションボタン・ダイヤル　64
フィルター効果（カラー）　2、90
フィルター効果（モノクロ）　3、90、128
フェライトコア　255
フォーカシングスクリーン　46
フォーカス表示　38、93
フォーカスモード　92
フォーカスロック撮影　39
フォーマット　150
フォルダ構成　182
フォルダ作成（新規）　184
フォルダ選択　184
フォルダ選択（再生時）　151
フォルダ名・フォルダ番号　183
ブラケット撮影　67
フラッシュ調光距離（光の届く距離）　41、82
フラッシュ撮影　40
プリセットホワイトバランス　78
プリント指定　159
フルタイムAF　194
フレームレート　168
フレックスデジタルマグニファイヤー　133
フレックスフォーカスポイント　91
プレビュー　181
プログラムシフト　58
プログラムﾑﾄﾞマニュアル　196
プログラムフラッシュ　253
プログラムモード撮影　35、57
プロテクト　152
別売りアクセサリー　252
ボイスメモ　124、140
ポートレート　48
ホワイトバランス　78

マイクロドライブ　29、257
マクロ撮影　50
マスストレージ　177、208
マニュアルシフト　63
マニュアル発光　115
マニュアルフォーカス　94
マニュアルフォーカス時のピント確認　133
マニュアルモード　62
メインスイッチ　31
メニュー（再生モード）　146
メニュー（撮影モード）　100
メニュー（セットアップモード）　172
モニター自動感度アップ　45、130
モノクロ　128

夜景ポートレート・夜景　49
夕景　49

リセット（一覧表）　248～251
リセット（撮影モード）　117
リセット（設定値）　190
リセット（動画モード）　170
リモートコード　255
レンズキャップ　24
レンズフード　98
連続撮影　70
ローカルフォーカスフレーム　38
露出ブラケット　67
露出補正　52
露出モード　57

わ

ワイドフォーカスフレーム　38
ワイドマクロ撮影　50
ワイヤレスチャンネル　113
ワイヤレスフラッシュ　110
ワンショットAF　92

数字・アルファベット

Aモード　59
ACアダプター　252
ADI調光　114
Adobe Photoshop Album Mini　246
Adobe RGB　127
AEロック（シャッターボタン半押しによる）135
AEロック撮影　96、116
AEL（AEロック）　96、116
AF音　192
AF-C（コンティニュアスAF）　93
AF-S（ワンショットAF）　92
AUTO撮影　35
AWB（オートホワイトバランス）　78
CCD　50
CFカード（入れ方、出し方）　29、30
Cnt（コントラスト補正／ブラケット）　69、89
COL（彩度補正／ブラケット）　69、90
CUST（ファンクションダイヤルの位置）　180
DiMAGE Capture　177、256
DiMAGE PC camera　246
DiMAGE Viewer　15、127、218
DMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）　137
DPOF（プリント）指定　159
EVF（明るさ調整）　175
EVF（角度調整）　32
EVF／液晶モニターの切り替え　95
EVFオート設定　178
EVFモード（高精細／なめらか）　138
Exif情報　122
FIL（フィルター効果／ブラケット）　69、90
FINE（ファイン）　105
FTP　238
Hi連続撮影　71
ICCプロファイル　127
JPE　127、219
JPEG　105、218
Mモード　62
Mモード時のモニター　131
MF（マニュアルフォーカス）　94
MF時のピント確認　133
MOV　219
MR（登録呼び出し）　87
MSET（登録設定）　86
NTSC　179
Pモード撮影　35、57
PAシフト　58
PAL　179
PCコントロール　177
PictBridge　177、198〜206
Psシフト　58
PTP　177
P-TTL調光　114
QuickTime　226
RAW　105、107、218
REAR（後幕シンクロ）　109
Sモード　60
sRGB　126
STD（スタンダード）　105
THM　219
TIFF　105、218
UHS連続撮影　72
USB接続　208〜
USBマスストレージ　177、208
WAVE　219
WB（ホワイトバランス）　78
WL（ワイヤレスフラッシュ）　110
X.FIN（エクストラファイン）　105

DiMAGE A2

よくあるお問い合わせ

カメラの操作や
パソコン・プリントに関しての
よくあるお問い合わせや、
お問い合わせ先などについては
こちらをご覧ください。

1AG6P1P1774--
9223-2720-61　SY-A312
Printed in Japan

0-43325-53275-7

目次

よくあるお問い合わせ F4

1. パソコン操作関連項目 F4
1-1 パソコンに取り込むには何が必要ですか（どんな方法がありますか？）........ F4
1-2 カメラをUSBでつなぐ場合、パソコンに取り込むためにはどのソフトが必要ですか F4
1-3 パソコンへの取り込み方（保存方法）を教えてください F4
1-4 パソコンへ取り込む場合には“移動”と“コピー”どちらが良いのですか F4
1-5 パソコンに保存したファイルがどこにあるのかわからない F5
1-6 ファイルをダブルクリックして開くと、意図しないソフトが立ち上がる F5
1-7 アプリケーションソフトで保存するとファイルサイズが大きくなる F5
1-8 パソコンのモニターに画像が入りきらない F5
1-9 パソコンに保存した画像を、カメラ（カード）に戻したい F6
1-10 カメラをパソコンに接続しても認識しない F6

2. 製品仕様関連項目 F7
2-1 撮影後の保存に時間がかかりすぎる F7
2-2 ピントを合わせてもファインダー（EVF）に写る画像がボケている F7
2-3 視度調整範囲が＋側で狭い F7
2-4 カメラに電池を挿入した状態でACアダプターを使うと、電池も充電されますか F7
2-5 他のデジタルカメラで撮った画像をこのカメラで再生できますか F7
2-6 AF補助光は無いのですか F8
2-7 手ぶれ補正設定時、どの程度のシャッター速度まで手持ち撮影が可能ですか F8
2-8 ワイドマクロとテレマクロ、どっちを使う方が良いですか F8
2-9 寒冷地で使用する場合の注意点は何ですか F8
2-10 夜景や暗い場所での撮影後、次の撮影まで時間がかかる F9
2-11 撮像感度（ISO）を上げたら画像が粗くなった F9
2-12 フラッシュ撮影をしたのに撮った画像が暗い F9
2-13 スローシンクロ撮影や日中シンクロ撮影はできますか F9
2-14 動きの速い被写体にはピントが合わない F10
2-15 パソコンに保存するとき、いつも「上書き保存しますか」とメッセージが出る F10
2-16 もっと鮮やかな色にしたいのですが F10
2-17 画像サイズと画質の組合せの用途別の目安は F11

3. プリント関連項目 F12

3-1 モニターと印刷されたものの色が違う F12
3-2 PIMやExifプリントする場合には何か設定が必要ですか F12
3-3 DiMAGE Viewerで保存した画像はPIMに対応していないのですか F12
3-4 日付が重なって印刷される F12
3-5 TIFFで撮った画像や、RAW画像がプリントできません F13
3-6 画像の一部だけを大きくプリントしたい F13

4. アクセサリー関連項目 F14

4-1 使用できるすべてのアクセサリーを知りたいのですが F14
4-2 使用できるフラッシュは F16
4-3 推奨外のα用フラッシュで撮影するには F16
4-4 マクロフラッシュで撮ると真っ白な画像になる F16
4-5 フラッシュのAF補助光は使えないのですか F16
4-6 シンクロターミナル接続したフラッシュを使う時の注意点は F17
4-7 SD-CFアダプターは使えますか F17

5. 海外で使用される場合 F18

5-1 カメラのメニュー表示を日本語以外にすることはできますか F18
5-2 付属のCD-ROMに収録されているDiMAGE Viewerの英語版が欲しいのですが F18
5-3 日本語以外の使用説明書（印刷物）はありませんか F18
5-4 充電器を海外で使用することはできますか F19
5-5 ACアダプターを海外で使用することはできますか F19

6. ダウンロードのご案内 F20

6-1 最新のDiMAGE Viewerは入手できますか F20
6-2 Windows98用USBドライバが欲しい F20
6-3 使用説明書はダウンロードできますか F20

故障かな？と思ったら F21

1 修理に出す前のチェック F21
2 お問い合わせ先 F27

よくあるお問い合わせ - 1. パソコン操作関連項目

Q.1-1 パソコンに取り込むには何が必要ですか（どんな方法がありますか？）

A. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続して取りこむ方法の他に、カードリーダーやPCカードスロットを用いて直接カードから取り込む方法などがあります。カードリーダーやPCカードスロットなどをご使用になる場合は、ご使用のパソコンに適合したものをご用意ください。詳しくはご使用のパソコンメーカー、または周辺機器メーカーにお問い合わせください。

Q.1-2 カメラをUSBでつなぐ場合、パソコンに取り込むためにはどのソフトが必要ですか。

A. ご使用のOSがWindows 98／98SEの場合には、付属のUSBドライバをインストールしてください。なお、Windows XP、2000、MeやMacintoshをご使用の場合にはドライバは不要です。

使用説明書参照ページ..........208

Q.1-3 パソコンへの取り込み方（保存方法）を教えてください。

A. 使用説明書本文209～219ページに詳しく記載しておりますので，そちらをご参照ください。

Q.1-4 パソコンへ取り込む場合には“移動”と“コピー”どちらが良いのですか。

A. 基本的にはどちらでも構いませんが、バックアップを残せると言う意味でコピーされることをお勧めします。

Q.1-5 パソコンに保存したファイルがどこにあるのかわからない。

パソコンの検索機能を利用して、ファイルの保存場所を確認してください。
＜Windowsの場合＞
スタートメニューから「検索」画面を開き、必要事項を入力の上実行してください。
＜Macintoshの場合＞
ファイルメニューから「検索」画面を開き、必要事項を入力の上実行してください。

*ファイル名やフォルダ名、保存日などから検索が可能です。詳しくはパソコンの説明書をご覧ください。

Q.1-6 ファイルをダブルクリックして開くと、意図しないソフトが立ち上がる。

OSの機能としてアプリケーションソフトとデータファイルを関連付ける機能があります。データファイルを開くように実行すると自動的にアプリケーションソフトが起動するのは、この関連付け機能により実現しています。
アプリケーションソフトには、そのソフトが扱えるすべてのファイルの関連付けを変更してしまうものがあります。特定のデータファイルを開き必要としないアプリケーションが自動的に起動する場合には、OSの関連付けを戻すか、アプリケーションソフトを起動させてからファイルメニューの「開く」を実行してください。
OSの関連付けを戻す方法は、自動的に起動するアプリケーションソフトのメーカーに解除方法をご確認ください。

Q.1-7 アプリケーションソフトで保存するとファイルサイズが大きくなる。

保存時のファイル形式をご確認ください。ファイル形式がTIFFやビットマップ（BMP）などの場合は、JPEGのように圧縮されていませんので、ファイルサイズが大きくなります。

Q.1-8 パソコンのモニターに画像が入りきらない。

通常、画像データは等倍（100%）で表示されるので、モニター解像度よりも大きなサイズの画像の場合には、モニター画面に入りきらない場合があります。ご使用の画像処理ソフトで表示の拡大／縮小率を調整してください。なお、ご使用いただくソフトによっては、自動的に画面サイズに合わせて表示する機能を持つものもあります。

Q.1-9 パソコンに保存した画像を、カメラ（カード）に戻したい。

画像をカードに戻してカメラで再生するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- カードに保存する際に、規定のフォルダ構成、フォルダ名称、ファイル名称で保存されていること。 使用説明書参照ページ..........182
- 撮影情報（Exifデータ）が記録されている状態のJPEGまたはTIFFファイルであること。

撮影したままの画像ファイルであれば、100KM003等のフォルダ内に画像ファイルを保存するとカメラで再生することができますが、フォルダやファイルの名称変更を行ったり、保存する場所が異なっている、または画像処理ソフトなどで再保存された画像ファイルなどは、上記条件を満たさなくなる場合があり、カメラで再生できなくなります。

※画像を縦位置に回転し保存しただけでも、ご使用の画像処理ソフトによっては撮影情報（Exifデータ）が消失してしまい、カメラで再生できなくなります。一度消失したデータは元に戻せません。

※画像ファイルの名称を変更する場合は、半角英数字8桁の後に「.JPG」または「.TIF」の拡張子を付けてください。

Q.1-10 カメラをパソコンに接続しても認識しない。

使用説明書「USB接続ができないときは」（P.223～225）をお試しください。
該当する項目（不明なデバイス等）が何も表示されない場合は、以下の項目を再確認の上、パソコンを再起動後、カメラとパソコンを接続してください。

- USBケーブルは正しく確実に接続されていますか？（カメラ側およびパソコン側）

※接続後すぐに、液晶モニターに「USB接続が切れました」と表示される場合は、USBケーブルが正しく接続されていません。奥まできっちり差し込んでください。

- カメラ以外の周辺機器はすべて外してください。
- CFカードは必ず装着しておいてください。
- ウイルスソフトなど、常に起動している監視ソフトをご使用の場合は、いったんそのソフトは終了してください。
- カメラの電源をONにした状態でパソコンと接続する、あるいは、パソコンと接続してからカメラの電源をONにする、などをお試しください。
- USBハブをご使用の場合は、直接パソコンと接続してください。
- 複数のUSBポートがあるパソコンの場合、違うポートに接続してみてください。
- カメラの電池は消耗していませんか？（電池が消耗していると正常に接続できない場合があります）

Q.2-1 撮影後の保存に時間がかかりすぎる。

A. 画質設定をご確認ください。TIFFやRAWに設定されていると、非圧縮画像のため、データ量が多く保存に時間を要します。

Q.2-2 ピントを合わせてもファインダー（EVF）に写る画像がボケている。

A. 視度が正しく調整されているかご確認ください。

使用説明書参照ページ............99

Q.2-3 視度調整範囲が＋側で狭い。

A. ＋側の調整範囲を広げると、ファインダー（EVF）の光学設計上周辺部の見えが悪くなるので、＋側の視度調整範囲を幾分狭く設定しています。

Q.2-4 カメラに電池を挿入した状態でACアダプターを使うと、電池も充電されますか。

A. 充電されません。
電池は専用の充電器で充電してください。

Q.2-5 他のデジタルカメラで撮った画像をこのカメラで再生できますか。

A. DCF*に準拠したExif対応データ（画像データ）であれば再生可能です。ただし、ファイル形式・画像サイズ・ファイル内のデータ構成等によっては再生できなかったり、サムネール画像（インデックス再生）で表示される場合があります。

*DCF ＝ デジタルカメラ等の画像ファイルを関連機器間で利用しあえる環境を整えることを目的に、標準化された規格の略称。DCFに準拠しているかは、ご使用になったデジタルカメラの使用説明書（主な仕様－画像ファイルフォーマット）をご参照ください。

Q.2-6 AF補助光は無いのですか。

AF補助光はありません。
BV－6の明るさ（ISO100の場合、Ev－1）までピントを合わせることができます。

Q.2-7 手ぶれ補正設定時、どの程度のシャッター速度まで手持ち撮影が可能ですか。

絞り値やズームの設定および個人差などにより一概に言えませんが、1/25秒位を目安にお考えください。

Q.2-8 ワイドマクロとテレマクロ、どっちを使う方が良いですか。

被写体の大きさや撮影距離などによって異なります。

ワイドマクロ：被写体に近づいて撮影する事が可能で、被写体をより広範囲に撮影したいときや奥行き感の強調、また、被写界深度（ピントの合う範囲）を深くしたい場合等に有効です。

テレマクロ：被写体にあまり近づけない場合や、被写界深度を浅く（背景をぼかす等）したい場合等に有効です。

使用説明書参照ページ..........50

Q.2-9 寒冷地で使用する場合の注意点は何ですか。

以下の点にご注意ください。

＜電池について＞

1. 電池の性能は低温になるほど低下しますので、通常撮影できる時間（または撮影枚数）より短く（少なく）なります。予備の電池をご用意いただき、ポケットの中等で暖めながら交互にご使用ください。
2. 低温のため性能が低下した電池でも常温に戻せば性能は回復します。

＜カメラ本体について＞

カメラに急激な温度変化を与えると、カメラ内部に水滴を生じる危険性があります。
寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を搾り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度となじませてからカメラを取り出すようにしてください。

Q.2-10 夜景や暗い場所での撮影後、次の撮影まで時間がかかる。

ノイズリダクション機能が働いているものと思われます。
セットアップモードメニューから、ノイズリダクションの設定「あり」「なし」をご確認ください。ノイズリダクション機能が不要な場合は「なし」に設定すると、ノイズ軽減処理が行なわれないため、撮影後すぐに次の撮影を行なう事ができます。

使用説明書参照ページ..........130

Q.2-11 撮像感度（ISO）を上げたら画像が粗くなった。

撮像感度（ISO）を上げると、より少ない光量でも適正露出が得られますが、ノイズも増幅され画像が粗くなります。

使用説明書参照ページ............82

Q.2-12 フラッシュ撮影をしたのに撮った画像が暗い。

フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠いと場合、フラッシュ光が被写体に届かず、画像が暗くなります。

フラッシュ光の届く距離については、使用説明書を参照してください。また、撮像感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。

使用説明書参照ページ............41
使用説明書参照ページ............82

Q.2-13 スローシンクロ撮影や日中シンクロ撮影はできますか。

どちらも可能です。

スローシンクロ撮影：フラッシュ上げ、AEロックボタンを押しながら撮影してください。
（P/Aモード時）

使用説明書参照ページ............96

夜景ポートレート撮影（P.49）でも同様の効果が得られます。

日中シンクロ撮影：　フラッシュを上げ、そのまま撮影してください。

使用説明書参照ページ............40

Q.2-14 動きの速い被写体にはピントが合わない。

AFモードを、コンティニアスAFに設定してください。
それでもピント合わせができない場合は、AF性能の限界を超えていると思われます。その他の撮影方法としては、マニュアルフォーカスに設定して、置きピン撮影*等をお試しください。

置きピン撮影* ＝ 被写体の撮影予定場所にあらかじめピントを合わせておき、被写体が通過した時に撮影する方法。

Q.2-15 パソコンに保存するとき、いつも「上書き保存しますか」とメッセージが出る。

保存する場所に同じ名称のファイルまたはフォルダがある場合には、このメッセージが出ます。
カメラの初期設定ではファイルNo. メモリーが「なし」に設定されているので、ファイルNo. はメモリーされず重複する場合があります。ファイルNo. メモリーを「あり」にするとファイルNo. の重複はなくなり、このようなメッセージは出なくなります。

使用説明書参照ページ...........188

Q.2-16 もっと鮮やかな色にしたいのですが。

仕様としては、被写体の色により忠実な色再現を目指したものとなっていますが、お好みに応じてカラーモードで「ビビッド（sRGB）」に設定したり、デジタルエフェクト機能で彩度補正を行なったりすると、より鮮やかな画像を得ることができます。なお、「ビビッド（sRGB）」で彩度補正を行なうと、もっと鮮やかな画像が得られます。

ビビッド（sRGB）モード： 使用説明書参照ページ...........126
デジタルエフェクトコントロールの彩度補正： 使用説明書参照ページ............90

Q.2-17 画像サイズと画質の組合せの用途別の目安は？

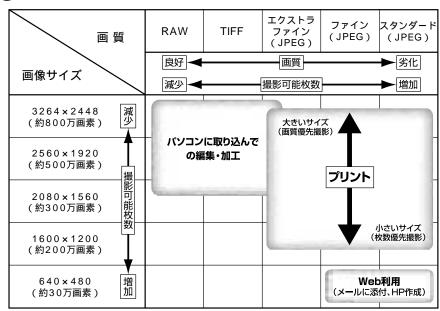
以下の表は一般的な組合せの目安です。お好みやご用途に応じて、適宜、画像サイズと画質を組合せてご使用ください。

画像サイズ ＼ 画質	RAW	TIFF	エクストラファイン（JPEG）	ファイン（JPEG）	スタンダード（JPEG）
3264×2448（約800万画素）					
2560×1920（約500万画素）					
2080×1560（約300万画素）					
1600×1200（約200万画素）					
640×480（約30万画素）					

画質：良好 ←→ 劣化
撮影可能枚数：減少 ←→ 増加
画像サイズ：減少（3264×2448）↑ 撮影可能枚数 ↓ 増加（640×480）

パソコンに取り込んでの編集・加工（RAW～エクストラファイン／3264×2448～2080×1560）

プリント（エクストラファイン～スタンダード／3264×2448～1600×1200）
大きいサイズ（画質優先撮影）↑ ↓ 小さいサイズ（枚数優先撮影）

Web利用（メールに添付、HP作成）（ファイン～スタンダード／640×480）

（例）
- 小さな写真プリントサイズ（一般的なプリントサイズ）
  ：画像サイズ（2080×1560～1600×1200）×画質（ファイン～スタンダード）
- 大きな写真プリントサイズ（A4サイズ相当）
  ：画像サイズ（3264×2448～2560×1920）×画質（エクストラファイン～ファイン）
- メールに添付する。
  ：画像サイズ（640×480）×画質（スタンダード）
- 撮影した画像をパソコンで加工する。
  ：画像サイズ（3264×2448～2560×1920）×画質（TIFF～エクストラファイン）

Q.3-1 モニターと印刷されたものの色が違う。

A. モニターとプリンタでは色再現法や再現色域に違いがありますので、必ずしも同じにはなりません。
デジタルカメラ・モニター・プリンタ間でカラーマッチングを行うことで、色の相違を低減する事が可能です。

Q.3-2 PIMやExifプリントする場合には何か設定が必要ですか。

A. カメラ側では特に設定は必要ありません。
それぞれの機能に対応したプリンタが推奨するソフトで必要な設定を行ってください。

Q.3-3 DiMAGE Viewerで保存した画像はPIMに対応していないのですか。

A. 対応していません。
（カメラで撮影されたままのオリジナル画像はPIM II に対応しています。）

Q.3-4 日付が重なって印刷される。

A. 日付写し込みを行った画像に、プリンタ側の設定で日付印字を行ってる可能性があります。
プリンタ側の印字機能をOFFにして印刷してください。

カメラによる画像への写し込み： 使用説明書参照ページ..........119
プリンタによる日付印字：
プリンタ側での設定： プリンタの使用説明書参照
カメラ側での設定： 使用説明書参照ページ..........162
カメラ側での設定（PictBridge対応プリンタの場合）： 使用説明書参照ページ..........202

Q.3-5 TIFFで撮った画像や、RAW画像がプリントできません。

プリンタの持つカードスロットから直接プリントする場合には、プリンタがTIFF画像やRAW画像に対応していないとプリントができません。
パソコンを使ってアプリケーションソフトで画像を開き、印刷を実行してください。

Q.3-6 画像の一部だけを大きくプリントしたい。

付属のDiMAGE Viewerで印刷したい範囲を範囲指定してください。
メニューから範囲指定印刷を行うことができます。

Q.4-1 使用できるすべてのアクセサリーを知りたいのですが。

DiMAGE A2には以下に記載の別売りアクセサリーがご使用いただけます。ご用途に合わせてお買い求めください。

● これらのアクセサリーは、コニカミノルタネットショップでも取り扱っております。弊社統合ポータルサイト（http://ca.konicaminolta.jp/）からアクセスできます。

項目	商品名	希望小売価格（税別）
フラッシュ	プログラムフラッシュ3600HS(D)	\28,000-
	プログラムフラッシュ5600HS(D)	\55,000-
	プログラムフラッシュ2500(D)	\20,000-
	マクロリングフラッシュ1200	\28,000-
	マクロツインフラッシュ2400	\34,000-
	マクロフラッシュコントローラー	\35,000-
フラッシュ用アクセサリー	オフカメラケーブル OC-1100	\3,500-
	オフカメラシュー OS-1100	\1,800-
	トリプルコネクター TC-1000	\5,000-
	ケーブルCD	\2,500-
	外部電源パック EP-2セット	\16,000-
	バウンスリフレクターV	\3,500-
	クローズアップディフュザー CD-1000	\4,000-
電源関連アクセサリー	ACアダプター AC-1L	\4,500-
	外部電源パック EBP-100	\40,000-
	バッテリーパック BP-400	\18,000-
	充電器 BC-400	\6,000-
	ACコード APC-140（日本国内用）	\1,000-
	ACコード APC-110（欧州・中国・シンガポール等用）	\1,000-
	ACコード APC-120（英国・香港等用）	\1,000-
	リチウムイオン電池 NP-400	\8,000-

項目	商品名	希望小売価格（税別）
その他のアクセサリー	ワイドコンバーター ACW-100	\25,000-
	テレコンバーター ACT-100	\25,000-
	レンズフード DLS-2	\1,500-
	レンズキャップ LF-1349	\650-
	アクセサリーシューキャップ SC-1000	\200-
	AVケーブル AVC-400	\2,500-
	USBケーブル USB-500	\2,500-
	リモートコード RC-1000S	\3,800-
	リモートコード RC-1000L	\4,500-
	PL（円偏光）フィルター φ62mm	\11,000-
	各種フィルター φ49mm	各\2,000-
	フィルターアダプター φ49mm→φ62mm	\1,000-
	SD-CFアダプター SD-CF1	オープン価格
	PCカードアダプター CA-1C	\2,500-
	DiMAGE A2用DiMAGE Capture DCA-200	\12,800-
ケース＆ストラップ	ネックストラップ NS-DG4000	\800-
	ネックストラップ NS-DG2000（インディゴブルー）	\2,800-
	ネックストラップ NS-DG3000（グレー）	\2,800-
	本革ネックストラップ NS-DG1000	\5,000-
	カメラケース CS-DG7	\5,000-
	デジタルユーティリティバッグ DUB-100	\12,800-
	ホールディングストラップ HS-2 （バッテリーパックBP-400に装着して使用）	\2,500-
使用説明書*	DiMAGE A2 使用説明書（日本語・英語・ﾌﾗﾝｽ語・中国語）	各\500-
	DiMAGE Viewer 使用説明書（日本語・英語・ﾌﾗﾝｽ語）	各\500-

*使用説明書は、コニカミノルタフォトスクエアまたはネットショップでのみ取り扱っております。

Q.4-2 使用できるフラッシュは。

プログラムフラッシュ5600HS(D)／3600HS(D)／2500(D)／マクロツインフラッシュ2400*／マクロリングフラッシュ1200*がご使用いただけます。

*マクロツインフラッシュ2400／マクロリングフラッシュ1200には、別途マクロフラッシュコントローラーが必要です。

Q.4-3 推奨外のα用フラッシュで撮影するには。

推奨外（上記Q.4-2に記載されているもの以外）のα用フラッシュを使用すると、調光ができないため常にフル発光となります。適正露出を得るためには、フラッシュをマニュアル発光に設定後、カメラ側の絞り（F値）を撮影距離に応じて調整し、光量制御を行なう必要があります。

Q.4-4 マクロフラッシュで撮ると真っ白な画像になる。

フラッシュを使用した接写撮影の場合には、撮影距離に対してフラッシュ光が強すぎることがあります。絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）か、撮像感度をISOを100に設定してください。それでもフラッシュ光が強すぎる場合は、NDフィルターのご利用をおすすめします。

Q.4-5 フラッシュのAF補助光は使えないのですか。

ご使用いただけません。

Q.4-6 シンクロターミナル接続したフラッシュを使う時の注意点は。

A. 以下の点に注意してご使用ください。

- 露出モードはMモードに設定してください。
- シャッター速度はフラッシュの推奨値より低速側に設定してください。
  推奨値が無い場合は1/125秒以下に設定されることをおすすめします。（フラッシュによっては、発光のタイミングが遅れ光量が落ちる場合があるため）
- シンクロコードの接続は、フラッシュの電源をOFFにして接続してください。
- シンクロ電圧は、400V以下のフラッシュをご使用ください。極性は問いません。
- 赤目軽減発光や後幕シンクロ撮影はできません。
- ホワイトバランスの設定は、カスタムホワイトバランスをおすすめします。

Q.4-7 SD-CFアダプターは使えますか。

A. コニカミノルタ製およびパナソニック製のSD-CFアダプターは使用できます。その他のメーカー品については動作確認をしておりません。

*ご使用に際しては、SD規格でフォーマットされた状態（ご購入いただいた状態、またはSD機器でフォーマットされた状態）でご使用ください。本製品ではフォーマットしないでください。

Q.5-1 カメラのメニュー表示を日本語以外にすることはできますか。

セットアップメニューから表示言語を選択できます。日本語以外に5ヶ国語（英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／中国語）から選択できます。

使用説明書参照ページ 180

Q.5-2 付属のCD-ROMに収録されているDiMAGE Viewerの英語版が欲しいのですが。

付属のCD-ROMには、日本語以外に5ヶ国語（英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／中国語）のソフトが収録されております。以下の方法でインストールを行ってください。

＜Windowsの場合＞

1. DiMAGE Viewer CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
2. オープニングメニューから「CD参照」を選択し、「Utility」フォルダを開きます。
3. ご希望の言語フォルダ内にある「DiMAGE Installer.exe」ファイルをダブルクリックして実行します。

＜Macintoshの場合＞

1. DiMAGE Viewer CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
2. CD-ROM内の内容が表示されますので、「Utility」フォルダを開きます。
3. ご使用のOSのフォルダを開き、ご希望の言語フォルダ内にある「Installer」ファイルをダブルクリックして実行します。

Q.5-3 日本語以外の使用説明書（印刷物）はありませんか。

弊社フォトスクエアにて、日本語版との交換をさせていただいております。またフォトスクエアまたはネットショップ（弊社ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/ よりアクセス可能）にて販売もいたしております。ご用意できる言語は、英語、フランス語、中国語です。

※在庫状況によりご用意できない場合があります。フォトスクエアまたはネットショップに直接ご確認ください。またその他の言語については、PDFファイルのダウンロードが可能な場合もあります。→F20ページ、Q.6-3参照

Q.5-4 充電器を海外で使用することはできますか。

A.

充電器本体は100V～240Vに対応しており、全世界でご使用になれます。
充電器に付属のコードは、国・地域によって異なります。日本国内でご購入いただいた製品にはACコードAPC-140が同梱されており、北米などの100～120V地域ではそのまま使えますが、欧州などの220～240V地域では使用することができません。以下をご確認の上、必要ならば渡航先に合った電圧のACコードをお買い求めください。

- ACコードAPC-110（220～240V用）：欧州／シンガポール／韓国／中国等
- ACコードAPC-120（220～240V用）：イギリス／香港等
- ACコードAPC-140（100～120V用）：日本／アメリカ／カナダ等

また、プラグの形状が国や地域によって異なる場合が多く、渡航先に合った変換プラグが必要な場合もあります。渡航先などでお買い求めください。

Q.5-5 ACアダプターを海外で使用することはできますか。

A.

日本国内で販売しているACアダプターAC-1Lは、100V～120Vの電圧に対応していますので、アメリカ／カナダなど100V～120V地域では使えますが、欧州／シンガポール／中国／韓国など220V～240Vの地域ではご使用になれません。220V～240V地域用のACアダプターAC-11は、電気用品安全法などの法的規制もあり国内では販売できませんので、誠に申し訳ありませんが渡航先でお買い求めください。
また、市販のトランス式変圧器*をご使用になると、220V～240V地域でも使用が可能となります（変圧器で100V～120Vに下げて使用）。
*変圧器には電子式変圧器もありますが、このカメラで使用すると故障等の原因となるためお使いになれません。
*プラグの形状が国や地域によって異なる場合が多く、渡航先に合った変換プラグが必要な場合もあります。渡航先などでお買い求めください。

ダウンロードは、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp）より「ダウンロード」の項目にお進みください。

Q.6-1 最新版のDiMAGE Viewerは入手できますか。

A. 上記の弊社ホームページより、最新版（アップデータ）を無償にてダウンロードしていただけます。

Q.6-2 Windows98用USBドライバが欲しい。

A. 上記の弊社ホームページよりダウンロードしていただけます。
随時最新版に更新していますが、これは新製品発売に伴い対応製品を追加しているだけですので、ソフト自体に相違はありません。本機種を接続するだけであれば、付属のディマージュビューアーCD-ROMに収録されているドライバをご使用ください。

Q.6-3 使用説明書はダウンロードできますか。

A. 上記の弊社ホームページより、PDFファイル形式でダウンロードしていただけます。
欧州言語（ドイツ語、スペイン語など）については、弊社のヨーロッパのホームページ（http://www.konicaminoltasupport.com）からPDFファイルでダウンロードできます。

故障かな？と思ったら - 1. 修理に出す前のチェック

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、F27ページの弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニター／ファインダーが真っ暗になる	TIFFまたはRAWで撮影した、または連続で3枚以上撮影した	TIFFまたはRAWで撮影したり、連続撮影などで続けて3枚以上撮影すると、撮影後、CFカードへの記録に数十秒かかることがあります。	34 70 104
	バルブ撮影をした	ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われるためです。この機能を解除することもできます。	97
	パワーセーブが作動した	液晶モニターやファインダーは約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	28
	カメラをテレビまたはパソコンに接続している	接続中は液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	145 209
液晶モニターやファインダーが白黒になる	暗いところで撮影している（静止画）	暗いところでは被写体を確認しやすくするため、自動的に白黒になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像はカラーです。	45
	暗いところで撮影している（動画）	暗いところでは被写体の動きを見やすくするため、自動的に撮影画像が白黒になります（ナイトムービー）。	169
シャッターが切れない	カメラが再生モード ▶ になっている	モード切り替えレバーを 📷 または 🎥 にしてください。	44 164
000が表示されシャッターが切れない	CFカードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。画像サイズや画質を変えると撮影できることもあります。	34 102 104

症状	原因	対策	ページ
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、フレックスフォーカスポイント撮影、マニュアルフォーカス撮影のいずれかを行なってください。	39 91 94
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約50cm以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、マクロ撮影を行なってください。	50
撮影残り画像数が黄色になってシャッターが切れない	カメラの内蔵メモリがいっぱいである	CFカードへの書き込みが終わる（＝白色に戻る）までしばらくお待ちください。	34
測光モード表示 ◉ が赤くなる	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えている	明る過ぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	–
Pモードでシャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度や絞り値の範囲を超えている		
Aモードでシャッター速度が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が点滅しない範囲で絞り値を設定してください。	60
Sモードで絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。	61
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	63

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュの調光距離(フラッシュ光の届く距離)より撮影距離が遠い場合、フラッシュ光が被写体に届かず暗い画像となる事があります。また、撮像感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。	41 82
	高速シャッターでフラッシュ撮影を行なったため、フラッシュの発光が追いつかなかった	内蔵フラッシュで1/1000秒、プログラムフラッシュで1/250秒、またはそれより低速側を目安にシャッター速度を設定してください。	–
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	内蔵フラッシュで撮影する時は、レンズフードを外してください。	98
写真がぶれている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ぶれを起こした	シャッター速度が遅くなるので、手ぶれ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります。	56
手ぶれ補正機能を使ったのに写真がぶれている	マクロ撮影など、近距離の被写体を撮影した	近距離の被写体に対しては、補正できないぶれがあります。三脚の使用をおすすめします。	51
画像に余分な光が入っている	逆光で広角側で撮影したため、レンズに余分な光が入った	レンズフードを取り付けてください。	98
スミア(縦に伸びる光の帯)が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりする	カメラを太陽に向けるなど、強い逆光下で撮影した	これらの現象は、液晶モニターやファインダーで確認できます。絞りを絞る、Pモードで撮影する、NDフィルターを使うといった方法により緩和することができます。	–
画像が記録されていない	異なるフォルダを選択している	日付形式フォルダの設定、画像のコピー、新規フォルダの作成を行なうと複数のフォルダができます。画像が記録されたフォルダを選んでください。	151 184
	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	–

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影残り画像数が減らなかったり、一気に2コマ減ったりする	JPEG画像が圧縮される場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変動するためです。故障ではありません。		34
カスタムホワイトバランスの設定時にエラーが表示される	フラッシュを発光させて近距離でカスタムホワイトバランス設定を行なった、または鮮やかな色の被写体で設定しようとした	フラッシュを発光させる場合は、少し距離を開けてください。また、設定は白い被写体に向けて行なってください。	81
グリップセンサーが検知されない	手袋をはめている、または手が乾燥している	グリップセンサーを無効（常に検知している状態）にしてください。	194
手ぶれ補正ボタンが点滅する	高温下で長時間撮影したため、カメラ内部の温度上昇により手ぶれ補正機能が解除された	カメラの温度が下がるのを待ってから撮影を再開してください。	56
画面の隅が暗くなる	フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取り外してお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画面にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画面周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。		–
撮影した画像の色がおかしい（パソコンでの再生時）	モニターの設定が最適でない このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています（Adobe RGBを除く）。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ値は2.2です。	**色温度の設定** 6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。 **ガンマ値の設定** Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OSの使用説明書をご覧ください。Windowsでは標準が2.2なので、変更の必要はありません。	–

<table>
<tr><th>症状</th><th>原因</th><th>対策</th><th>ﾍﾟｰｼﾞ</th></tr>
<tr><td>いつも同じ箇所に明るい点が写る（パソコンで確認）</td><td colspan="2">CCDノイズの大きな箇所があるように思われます。一度カメラをお預かりし、確認および調整をさせていただきます。</td><td>–</td></tr>
<tr><td>特定のコマだけ再生できない</td><td colspan="2" rowspan="2">何らかの要因で、画像ファイルが損傷を受けているものと思われます。画像ファイルの読み出し／書き込み中などにカードを抜く、ケーブル接続解除、電源を切るなどの操作により、損傷を受ける場合がありますのでご注意ください。
*損傷を受けたデータにつきましては、弊社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。</td><td rowspan="2">–</td></tr>
<tr><td>パソコン上で画像ファイルを開こうとするとファイルを開けないというメッセージが表示される</td></tr>
<tr><td>Adobe RGB（ICC）設定で撮影した画像がアプリケーションソフトで認識されない</td><td colspan="2">プロファイルを埋め込んだ画像ファイルの拡張子は「.JPE」となります。このファイル形式にアプリケーションが対応していないものと思われます。付属のDiMAGE Viewerのご使用をおすすめします。</td><td>127</td></tr>
<tr><td>Adobe RGB（ICC）設定で撮影した画像がプリントされない</td><td colspan="2">プロファイル埋め込み画像（拡張子.JPE）をプリンタが認識しないためと思われます。Adobe RGB（ICC）以外の設定で撮影される事をおすすめします。</td><td>127</td></tr>
<tr><td>メインスイッチを入れるたびに時計がリセットされる</td><td>カメラの時計用内蔵電池が消耗した</td><td>弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にて電池交換してください（有料）。電池の寿命は通常使用で約5年程度です。</td><td>–</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>症状</th><th>原因</th><th>対策</th><th>ﾍﾟｰｼﾞ</th></tr>
<tr><td>「カードエラー」のメッセージが出て撮影できない</td><td colspan="2">「カードエラー　確認」と言うメッセージが出ている状態で、十字キー中央の実行ボタンを押してください。エラーメッセージが消えた後に、いったんメインスイッチをOFFにしてCFカードを取り出してください。
メインスイッチをONにして、「カードが入っていません」と表示されればエラーは解除されています。
再度CFカードを入れてください。再び「カードエラー　確認」表示が出る場合は、そのCFカードはご使用いただけません。他のCFカードをご使用ください。動作確認済みのCFカードについては、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）の互換性情報をご覧になるか、弊社お客様フォトサポートセンターまでお問い合わせください。</td><td>－</td></tr>
<tr><td>Errが表示される、またはカメラが正常に作動しない</td><td colspan="2">カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。</td><td>－</td></tr>
<tr><td>「このカードは使えません」のメッセージがでる</td><td>パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した
または
他のCFカード機器でフォーマットを行った</td><td>基本的にカメラ以外でのCFカードのフォーマットはおすすめしませんが、左記の場合はパソコン上で再フォーマットする必要があります。その際には、必ず「FAT」「FAT32」のいずれかのファイルシステムを選んでフォーマットしてください。
CFカード自体の不具合も考えられますので、他のCFカードをお持ちの場合は、CFカードを替えてお試しください。
SDメモリーカードとSD-CFアダプターをお使いの場合は、カードのフォーマットはSD機器で行なってください。</td><td>－</td></tr>
</table>

故障かな？と思ったら - 2. お問い合わせ先

修理の出し方

らくらくリペアサービスを利用する方法、郵送、弊社フォトスクエアへの持ち込みの3通りが可能です。詳しくは「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

その他のお問い合わせ先

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、以下コニカミノルタカメラ統合ポータルサイトをご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　06-6532-6205

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　06-6532-6252

受付時間　10：00～18：00（日・祝日定休）

コニカミノルタ カメラ株式会社